

第20回全国バス学習研究集会

学 習 指 導 案

期日 昭和60年10月25日(金)

研究主題

個性化をめざす教育の創造
——人間関係を基盤として——

姫路市立御国野小学校
姫路市立城南小学校
姫路市立高丘中学校

学 習 指 導 案

姫路市立御国野小学校

◎ 公開授業

学年・組	授業者	教科	単元	ページ
1年1組	竹内昭子	算数	かたちづくり	1
4年3組	青田佳代子 後呂秀子	算数	面積	6
5年1組	中沢なるみ	算数	面積	12
6年2組	今井猛俊	算数	対称図形	17
2年1組	川勝恭子	社会	パンづくり	22
3年1組	芝雅司	社会	買いものしらべ	28
5年3組	古隅利量	社会	深志野瓦(伝統を生かした工業)	33
6年3組	戸部美智子	社会	信長・秀吉と家康(秀吉と姫路)	39

第1学年1組 算数科学習指導案

指導者 竹内 昭子

1. 単元 かたちづくり

2. 趣旨

- 児童は、これまでに積み木の面を写したり、「ぬり絵」の遊びをとおして、「さんかく」「しかく」「まる」などの平面図形について学習している。本教材では、色板や棒などを使って具体的な事物の概形を構成したり、色板を組み合わせて正方形、長方形、直角三角形などの基本図形を構成したりする経験をとおして、平面図形についての基礎的な理解や関心を深めさせることをねらいとしている。
- 事前調査の結果によると、いろいろな形に囲まれて生活している子どもたちは、日常的に「しかく」「さんかく」などのことばを用いているため用語はよく理解している。しかし、そのとらえ方は直観的なため、図形の位置や形、大きさなどが違えば図形を認めることができにくい児童がいる。特に調査⑩の位置が違う正方形は、正しくとらえることができない児童が4人いる。また、調査⑳の船では二つの三角柱を合わせて大きな三角柱を作ることができない者もいたが、積み木による形の構成は興味を持ち喜んで取り組んでいた。

番 号	(1)				(2)										(3)					(4)		
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒
正 答 率 (%)	100	100	97	100	97	97	100	97	100	100	88	91	97	100	68	85	94	85	91	100	82	97

(調査人員 35名)

- 指導にあたっては、自由に色板並べをする作業をとおして形の構成に興味関心を持たせるとともに、構成する形を指定したり、色板の数を制限したりして、いろいろな角度から形の構成を行わせたい。そして、構成された図形は三角や四角で作られていることを分からせたり、つながり方に目を向けさせたりして図形についての理解を深めさせたい。また、作った形に名前をつけたりお話をしたりして楽しい学習になるよう心がけたい。

3. 目 標

- 認知的
- 色板や棒を用いていろいろな形を作らせることをとおして、図形を構成する力を伸ばす。
 - 色板や棒を並べた図形を移動変化させながら、図形を動的にとらえさせる。
- 態度的
- 色板等を操作することにおもしろさを感じ、図形への親しみや関心を高めさせる。
 - 友達と協力して作業しようとする態度を養う。

4. 指導計画（6時間）

- 第1次 いろいろならべ 4時間
- 第1・2時 いろいろな形をつくる（本時 $\frac{1}{2}$ ）
 - 第3時 かたちをかえる
 - 第4時 はめえあそび
- 第2次 ぼうならべ 2時間

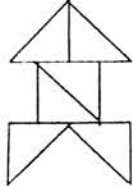
5. 本時の目標

- 認知的
- 直角二等辺三角形の色板を用いていろいろな形をつくる。
- 態度的
- 色板を使って形をつくることに意欲的に取り組む。
 - ともだちに、作った形についてのお話ができる。

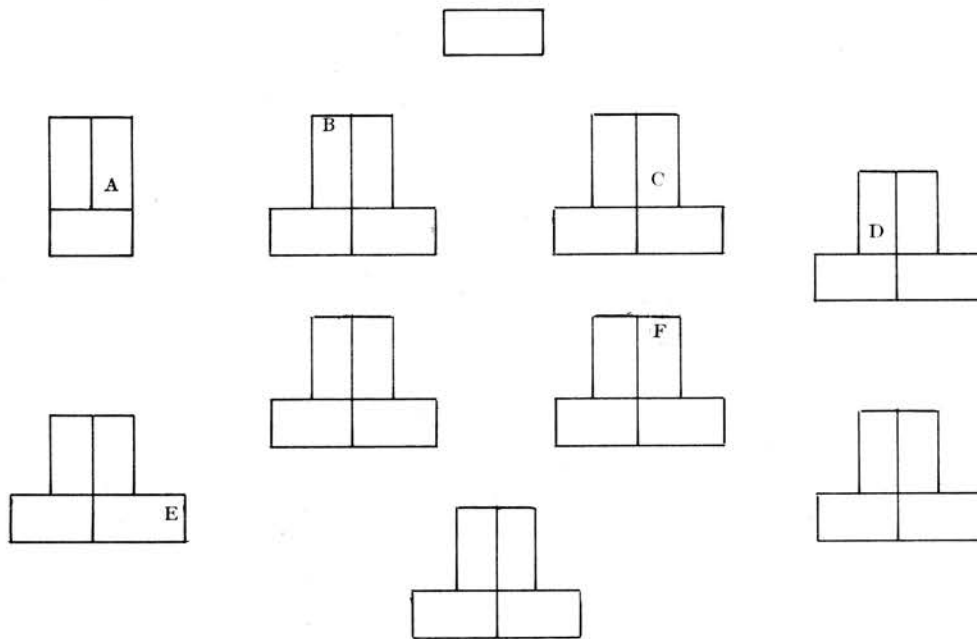
6. 準 備

- 教 師 直角二等辺三角形の色板、図形
- 児 童 直角二等辺三角形の色板 20まい、セロテープ、透明シート

7. 学習過程

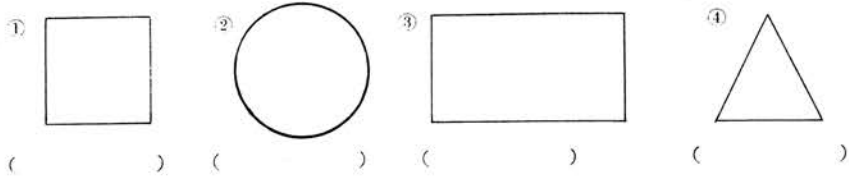
学習活動	指導上の留意点	備考	学習形態
<p>1. 形を見て話し合う。</p>  <p>2. 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> みんなのまちをつくろう </div>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 図形から物の形を想像させ、楽しく話し合いながら課題への関心を持たせる。 ◦ 同じ形の三角形を並べて作ったことを確認させる。 	<p>図形</p>	<p>一斉</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 形づくりの約束を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・かさねない ・はなさない <p>3. 町にあるものの形を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 名前をつける。 <p>4. 作った形について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ どんな形でできているか。 ◦ 指示された形を作る。 <p>5. まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 三角形の形を組み合わせるといろいろな形ができる </div>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 三角形を並べて町にあるものの概形を作ることを知らせる。 ◦ 町にある物を思い出させて、作ろうとする意欲を持たせる。 ◦ 約束を明確にしてから操作させる。 ◦ 想像をはたらかせてたくさん作らせる。作ったものはシートにはり残していく。 ◦ 困難な児童には個別指導する。 ◦ できた形の名前やお話を発表し合い、黒板にはって町を作っていく。 ◦ できた概形を基本図形の観点から考えさせる。 ◦ 児童の構成した形の中からとりあげ発展させる。 	<p>色板 透明 シート セロテープ</p>	<p>個人 ↓ 一斉 ↓ グループ ↓ 個人 ↓ 一斉</p>
<p>6. 次時の予告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 決められた色板の枚数で形を作ることを知らせる。 		<p>一斉</p>

座席表

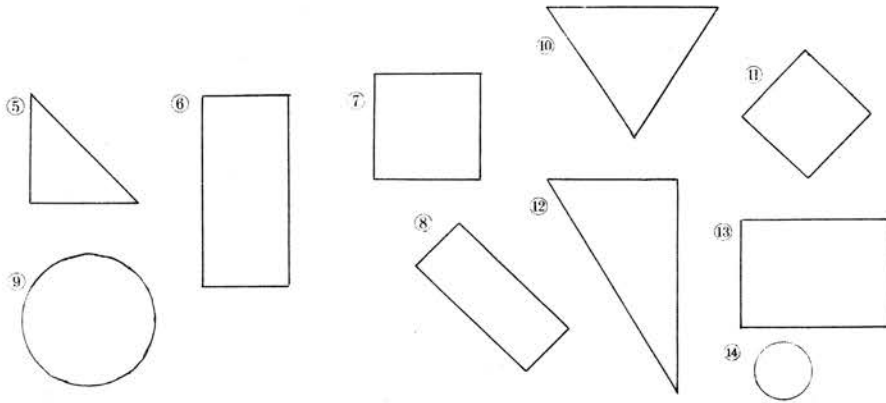


- A 理解するのに時間がかかる。作業は一生懸命するが遅い。
- B 1位数の加減は指を使ってする。問題は読むのに抵抗があり立式できない。
- C 基礎学力の遅れが著しく、3までの数字の読み書きがやっとできる。
- D 集中して話が聞けないためか、感ちがいや理解不足がみられる。作業は最後までやりとおすことができない。
- E 何事にも意欲的に取り組み、理解力・応用力もすぐれている。
- F 思考力がすぐれ、よく考えた発表をする。作業はていねいにするがやや時間がかかる。

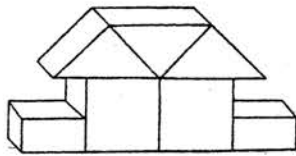
(1) つぎのかたちのなまえをかきましょう。



(2) つぎのかたちをよくみて、さんかくはあか、しかくはあお、まるはきいろをぬりましょう。

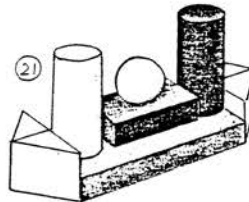
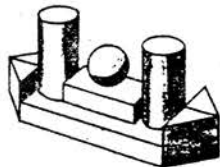
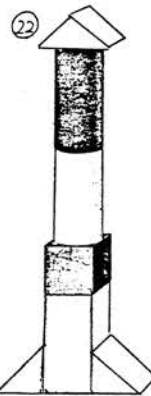
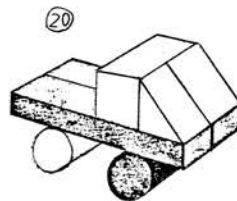


(3) したのつみきは、どんなかたちがいくつあるでしょう。



- ⑮・ しかくのつみきが () つ
- ⑯・ さんかくのつみきが () つ

(4) つみきで、したのようなかたちをつくりましょう。



- ⑰・ つつのようなつみきが () つ
- ⑱・ ぼうろのようなつみきが () つ
- ⑲・ さんかくのつみきが () つ

第4学年3組 算数科学習指導案

指導者 青田 佳代子
後呂 秀子

1. 単元面積

2. 趣旨

- 面積に関する学習として、1年生では、場所とりあそびで方眼をぬりつぶしその数を数える。2年生では、等分した色紙を敷きつめ色々な形を作るなど面積の素地となる学習をしてきている。本学年では、広さや長さや重さと同様に単位を決めることにより、測定した数で表せることを知らせ、特に正方形や長方形などでは辺の長さから計算によって、面積が求められることを理解させることがねらいである。そして、次学年の三角形、平行四辺形、台形、円の面積の求積へと発展していくものである。
- 児童は広さの概念については、これまでに日常生活や低学年での学習を通してある程度育ってきている。しかし、事前調査の結果（下表）に見られるように、周囲の長さと同じであると広さも同じであると考えている児童、横の長さの長い形ほど広がりがある、広さも広いと考えている児童が多い。このように広さの概念は、極めてあいまいであり誤った意識をもっている。

事前調査の結果 (正答率)

問題番号	1の(1)	1の(2)理由						2	3	4				5
		周囲の長さ	はば	直観	重ねる	測る	公式			い	う	え	お	
正答率 (%)	21	46	5	10	28	8	3	41	100	87	85	73	72	100

(調査人員 39名)

- そこで、周囲の長さが同じで面積の異なった2つの四角形を与え、広さを比べる方法を考えさせる。その中で重ねあわせる、しきつめるなどの操作を通して広さの概念を明確にさせていき、普遍単位の必要性に気づかせる。そして、普遍単位とする図形は、1辺が1cmの正方形が最も正確に測定できることをわからせ、長方形・正方形の面積は、辺の長さを測定し、計算で求められることを理解させる。

3. 目 標

- 認知的
- 面積の概念を明らかにし、面積の単位 1cm^2 、 1m^2 、 1km^2 を理解させる。
 - 長方形、正方形の面積の求め方と、その公式を理解させ用いることができるようにさせる。
- 態度的
- 面積の量感を養い、面積についての関心を高める。
 - グループで自分の考えを説明したり、友だちの考えを聞いたりして理解を深めることができるようにさせる。

4. 指導計画 (9 時間)

第1次	面 積	4 時間
第1時	カードの大きさ比べ (本時)	
第2時	長方形・正方形の面積の公式	
第3時	公式を利用して求積	
第4時	練習	
第2次	大きな面積	4 時間
第3次	復習	1 時間

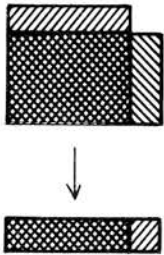
5. 本時の目標

- 認知的
- カードの広さ比べを通し広さは、単位面積のいくつ分かで調べればよいことに気づき、面積の単位 1cm^2 を知る。
- 態度的
- 1cm^2 の広さを具体的に知り、広さについて関心をもつ。
 - グループ内に自分の考えをだす。

6. 準 備

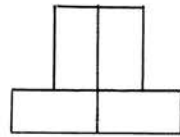
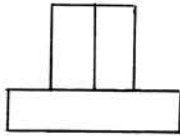
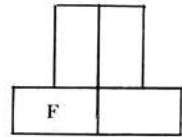
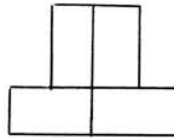
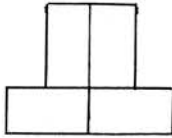
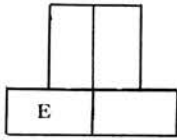
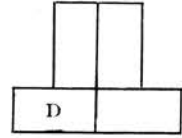
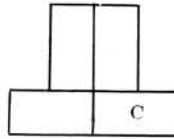
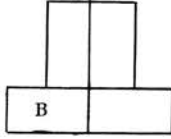
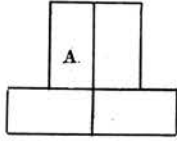
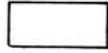
教 師	カード赤, カード青, OHP, はさみ, OHPペン
児 童	カード赤, カード青, はさみ, 方眼シート

7. 学習過程

学習活動	指導上の留意点		備考	学習形態
	学 担	復 担		
<p>1. カードの広さ比べをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦課題をつかむ。 ◦予想する。 ◦予想を確かめる方法を考え、話し合う。 ◦公式 ◦周囲の長さ ◦重ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦身近な物の広さを比べ、広さ比べへの意欲をもたせる。 ◦視覚的直観的に広さをとらえさせ、予想させる。 ◦児童の考えをできるだけ多く引き出し、その中から考えさせていきたい。 ◦公式を機械的に使うのではなく、それを追求していく過程が大切であることを知らせる。 ◦それぞれのカードの周囲の長さを確認させる。 ◦周囲の長さによる比較と重ねることによる比較の違いについて考えさせる。 ◦広さは、周囲の長さで比べることができないことに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦課題をしっかりとらえているか確認する。 ◦班ごとの話し合いの中に入り、班としてどんな確かめ方をするのか考えられるように助言する。 ◦公式についてわからないという児童の意見を全体に出す。 ◦作業手順を知らせ、正確に測定できるように導く。 ◦重ならない部分の比較検討ができにくい児童に助言する。 	<p>OHP カード</p>	<p>一 斉</p> <p>↓</p> <p>個 人</p> <p>↓</p> <p>グ ル ー プ</p> <p>↓</p> <p>一 斉</p> <p>↓</p>

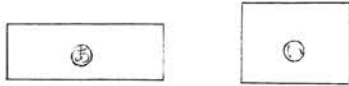
<ul style="list-style-type: none"> 任意単位を使って 方眼の上に 	<ul style="list-style-type: none"> 広さには、重ねて比べることのできないものがあることに気づかせる。 同じ大きさ、同じ形のをすきまなく重なりなくしきつめることをつかませる。 だれにでも通用するものでないと不都合が生じることを理解させ、普遍単位へと結びつけたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的に、プールや体育館などは重ねることができないことをわからせる。 消しゴム・1円玉などに目を向けさせる。 方眼シートの上に置いて、確かめ方の理解を確実にする。 	<p>方眼シート</p>
<p>2. 単位面積 1cm^2 の意味を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「1cm^2」と読み、書いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 1辺が 1cm の正方形が面積の単位 1cm^2 であることを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単位 1cm^2 の意味の理解を確認し、必要な説明を補う。 正しく書けているかどうか机間巡視する。 	<p>個人</p>
<p>3. カードの広さを確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単位面積 1cm^2 が、いくつ並ぶか調べ、長方形は15と正方形は16とで正方形の方が 1cm^2 広いことを認めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇個というのは、1cm^2 の正方形の数であることを個別におさえる。 	<p>一斉</p>
<p>4. 学習のまとめをする。</p>	<p>面積の単位は 1cm^2 であり、それをもとにしていろいろな形の面積がはかれる。</p>		
<p>5. 次時の課題を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 面積を早く求めるにはどうすればよいか調べることを予告する。 		

座席表



- A. 基礎学力は遅れているが、最近やや意欲的な態度で学習している。
- B. 意欲に乏しく、問題を解く時、筋道をたてた考えができにくい。
- C. 基礎学力が遅れており、集中して話を聞いていない。
- D. 手いたずらが多く、集中力に欠け、理解に手間どったり、問題の意図を確実に把握できにくい。
- E. 落ち着いた態度で学習し、問題を解く時、筋道をたてて考えることができる。
- F. 自分の考えを筋道だてて発表し、学習した内容を確実に理解している。

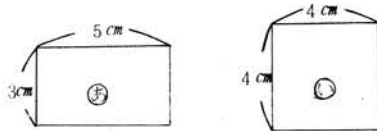
1.(1) どちらが広いでしょう。



答え ()

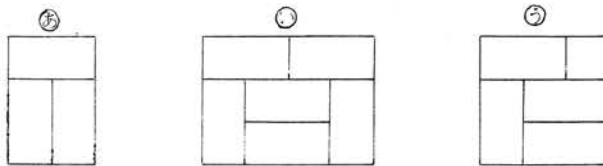
(2) 理由もかきましょう。 ()

2. どちらが広いでしょう。



答え ()

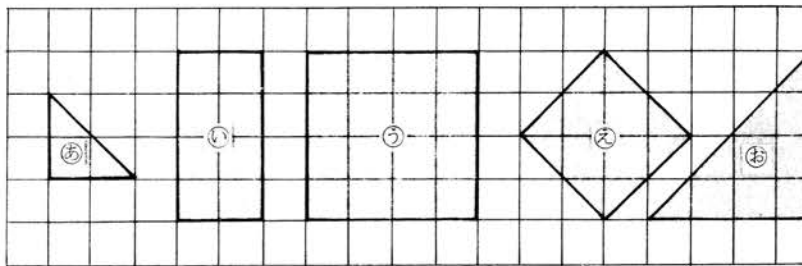
3. 次の図は、ある家のたたみのある部屋の図です。



① どれが、いちばん広いでしょう。 ()

② どれが、いちばんせまいでしょう。 ()

4. 下の㊳㊴㊵㊶は、それぞれあ のいくつか分あるでしょう。



() () () ()

5. 学校のプールと体育館をくらべると、どちらが広いでしょう。 ()

第5学年1組 算数科学習指導案

指導者 中 沢 なるみ

1. 単元面積

2. 趣旨

- 求積の学習では「単位とする量をもとにして、そのいくつかを数で表す」ことを基礎とし、測定の方法を工夫したり、筋道をたてて考える力を育てていく。前学年で、面積の概念、面積の単位と測り方の基本、長方形・正方形の面積などを学んできている。本単元では、それらをうけて三角形や四角形など基本的な直線図形の面積は、図形の分割・合成・移動などによって求めることができる。つまり前学年で学習したことを基にして、求積公式を知り、これを活用して面積を求められるようにしようとするのが、ねらいである。
- 事前調査の結果（下表）、複合図形の面積では、分割した部分の長さを見つけて求める時にややつまづきが見られたが、ほとんどの児童は、公式を用いて、長方形や正方形の面積を求めることができる。複雑な形をした図形の面積では、単位面積をしきつめて考えることができ、面積のイメージは一応できていると思われるが、概念に関してことばで説明することは、かなり抵抗がある。本単元で学習する直角三角形や平行四辺形の面積では、長方形に変形して求められると気づく児童もかなりいるため、導入では意欲的に取り組むと思われるが、図形が複雑になり、論理的に考えていく段階になると、抵抗が大きくなると予想される。

調査の結果（正答率）

問題番号	1		2									3	4		5
	①	②	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨		①	②	
正答率（％）	84	84	95	95	63	移動46 分割41 計87	81	53	12	58	0	84	92	単位面積30 方眼51 計81	39

2番の⑤⑥⑦⑧⑨は未習問題（調査人員 38名）

- 指導に際しては、児童が単元の見通しを持ち、興味深く学習するためのプリントの提示を単元の導入とした。求積の公式を形式的に教えることのないように留意し、既習の考え方や方法を十分生かし、児童自身の考えで求積の方法を考え出す場の設定をし、公式を作り出すまでの過程を特に大切にしたい。そのために、図形を分割したり、移動や合成などの具体的な操作を取り入れながら指導していきたい。

3. 目 標

- 認知的 ◦ 三角形・四角形など、基本的な図形の求積のしかたを理解させ、その面積を計算で求めることができるようにさせる。
- 態度的 ◦ 求積の仕方を既習のものを手がかりに分割、移動、合成などの操作を通して、工夫して求めようとする態度を養う。
- 自分の考えをしっかりと持ち、話し合ったり、考え合ったりして、面積の学習を高めていこうとする態度を養う。

4. 指導計画 (12時間)

第1次	公式の使い方	1時間
第2次	三角形の面積	5時間
	第1時 直角三角形の面積	
	第2時 鋭角三角形の面積 (本時)	
	第3時 三角形の面積を求める公式	
	第4時 鈍角三角形の面積	
	第5時 練習	
第3次	四角形の面積	4時間
第4次	問 題	2時間

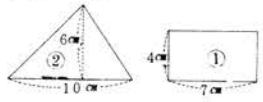
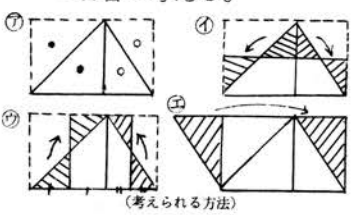
5. 本時の目標

- 認知的 ◦ 鋭角三角形の面積を既習の長方形に変形して、求める工夫をし、長方形の面積の半分であることを知る。
- 態度的 ◦ 鋭角三角形の面積を求めることに興味をもち、具体的な操作を通して、方法を考えようとする。
- 友だちの考えと対比し、それぞれの考えのよさや、根拠を見つけながら話し合い、学習内容を深めようとする。

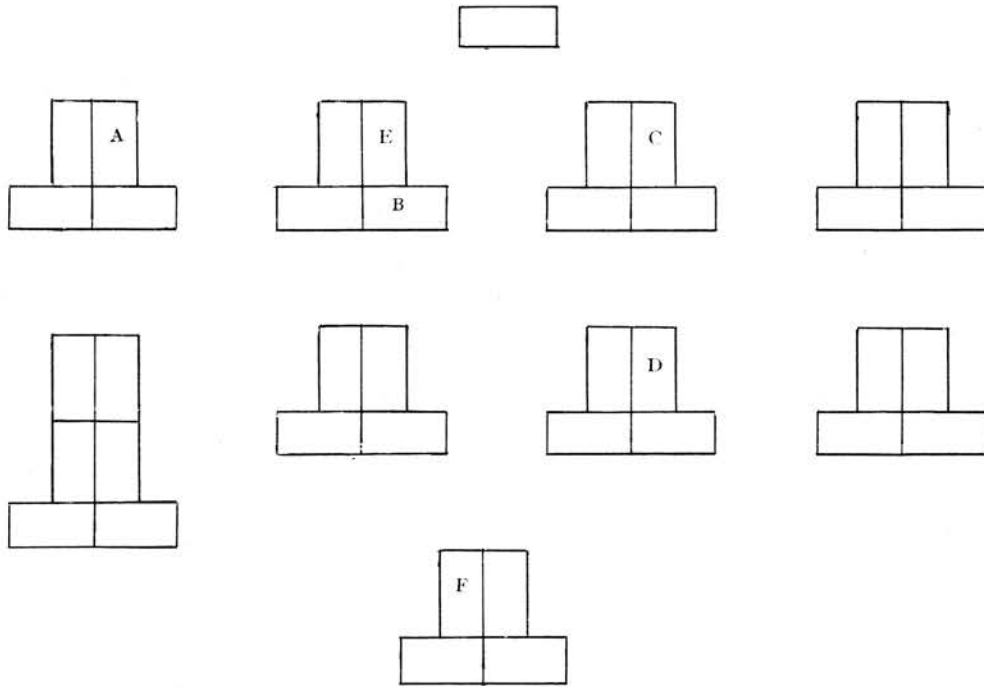
6. 準 備

教 師	プリントの拡大図, 三角形, 長方形, 三角定規
児 童	プリント, 三角形を書いたカード, 三角形の拡大図, 三角定規, ものさし, はさみ, コンパス

7. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考	学習形態
<p>1. 課題を確認する。</p> <p>◦プリントを見て話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 鋭角三角形と長方形の面積をくらべよう </div> <p>2. 鋭角三角形と長方形の面積をくらべる。</p>  <p>◦鋭角三角形の面積の求め方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦各自で考える。  <p>(考えられる方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦グループで話し合う。 ◦変形の方法を集め、まとめる。 ◦全体で話し合う。 ◦①②③④すべて長方形の面積の半分になっていることを理解する。 ◦①と②の面積の確認をする。 <p>3. 学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 鋭角三角形の面積は、長方形に変形して求めることができ、長方形の面積の$\frac{1}{2}$になっている。 </div> <p>4. 次時の課題を知る。</p>	<p>◦前時の学習を想起させ、本時の課題を焦点化させる。</p> <p>◦正確に比べるためには、三角形の面積を求める必要性に気づかせる。</p> <p>◦三角形を長方形に変形（等積、倍積）する方法を考えさせる。</p> <p>◦図に書きこんだり、切り取って並べるなど自由に操作させながら考えさせる。（分割、移動、合成）</p> <p>◦考えが出にくいようであれば、頂点から垂線を引いて考えさせる。</p> <p>◦いろいろな方法で求める工夫をさせる。</p> <p>◦各自の考えを提示させ、お互いに比較して話し合わせることでより思考を深めさせる。</p> <p>◦変形の方法を確認し合い、異なる考えは出させる。</p> <p>◦どの変形の方法をとっても、三角形全体が長方形全体の半分になっていることを理解させる。</p> <p>◦三角形の面積の求め方を論理的に考えさせ②の面積を求めさせる。</p> <p>◦三角形の面積を求める公式を導くことを予告する。</p>	<p>プリント (児)</p> <p>拡大図 (教)</p> <p>鋭角三角形 長 方 形 鋭角三角形 (カード)</p> <p>三角定規 は さ み コンパス</p> <p>三角形 (拡大図)</p>	<p>一 斉</p> <p>↓</p> <p>個 人</p> <p>↓</p> <p>グループ</p> <p>↓</p> <p>一 斉</p> <p>↓</p> <p>個 人</p> <p>↓</p> <p>一 斉</p> <p>↓</p>

座席表



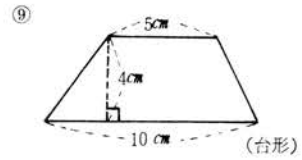
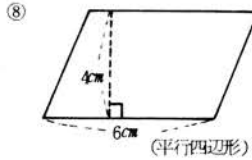
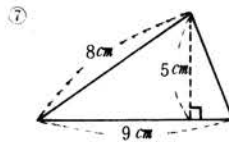
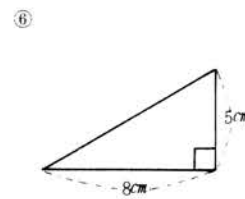
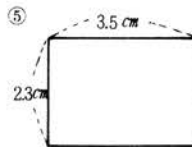
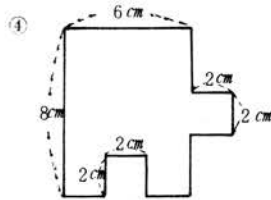
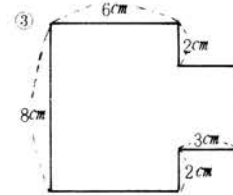
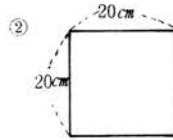
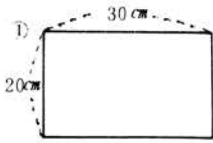
- A. 基礎学力の遅れが見られ、意欲も乏しく集中して取り組みにくい。
- B. 九九は言えるが、筆算によるかけ算、わり算ができにくい。理解力に乏しい。
- C. 動作が遅く、作業に手間どる。計算は一応できるが、複雑な計算になると抵抗を示す。筋道だてて考えることができにくい。
- D. 集中力に欠け、聞きもらしによる感ちがいや、理解不足が見られる。
- E. 意欲的に学習に取り組み、思考力もあり、班内の考えをうまくまとめる。
- F. 理解力があり、筋道だてて考えることができ、発表も内容が充実している。

1. 次の図形の面積を求める公式を書きなさい。

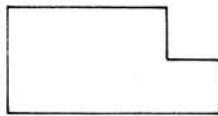
① 長方形の面積 =

② 正方形の面積 =

2. 次の図の面積を求めなさい。(習っていない問題もあります。)



3. 必要な長さをはかって面積を求めなさい。



4. 次の図を見て答えなさい。



① こんな形は面積が求められますか。

(はい, いいえ)

② 「はい」と答えた人は、どうすれば求められますか。

☆ 問題1との関連において、日をかえて、次の調査を実施

5. 長方形の面積はなぜ、たて×よこで求められるのでしょうか。考えを書きなさい。

第6学年2組 算数科学習指導案

指導者 今井 猛 俊

1. 単元 対称図形

2. 趣旨

- 今までに、基本的な平面図形について、その構成要素の相等や大小といった観点から学習してきたが、この単元では、平面図形の学習のまとめとして、新しく対称の観点からいろいろなものの形を考察させる。そして、対称移動、回転移動の具体的な操作を通して図形を考察したり構成したりする力をのばすことをねらいとしている。
- 対称図形に関連のある基本的事項の事前調査の結果は、下表の通りである。図形の名称では、直角三角形や二等辺三角形を三角形とするなどの誤答が多く、似かよった図形を、直観的に、同じ形としてとらえてしまっている。また、垂直の意味についても、「辺が90°にまじる」のように、誤った用語や不十分な説明が多い。さらに、合同図形、相似図形の対応関係についても、点と点との対応が十分に把握できていない。このように、直観的な判断による誤答が多く、あいまいなまま理解している。

調査結果（正答率）

問 題	1										2				3		4	
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(1)	(2)
正答率 (%)	94	97	97	89	67	92	69	78	83	92	39	64	39	14	86	75	86	39

（調査人員 36名）

- そこで、指導にあたっては、図形を切りぬき、折りまげる、重ねるという操作を通して、対称の軸をしっかりと意識させる。また、線対称な図形と点対称な図形との混同も予想されるので、できるだけ図形の移動、切りぬきなどの具体的操作から、対称図形の定義や性質を体験的に理解させたい。そうした活動の中で、対称の軸、対称の中心などの用語を的確に知り、使えるようにさせたい。さらに、対称図形の性質をもとにして作図の方法を考えさせることにより、図形の構成能力を高めていきたい。

3. 目 標

- 認知的
- 線対称、点対称の概念を理解させる。
 - 線対称な図形や点対称な図形について、その定義や性質を理解させる。
- 態度的
- 対称性に着目して図形を考察する態度を養う。
 - 互いに助け合って操作活動や話し合い活動をする中で自分の考えをしっかりと持ち持つようにさせる。

4. 指導計画 (7 時間)

第1次	線対称と点対称	5 時間
第1時	つりあいのとれたもよう作り (本時)	
第2時	線対称の意味	
第3時	線対称な図形の性質の考察	
第4時	点対称の意味	
第5時	点対称な図形の性質の考察	
第2次	対称の軸や対称の中心のある多角形	1 時間
第3次	練習	1 時間

5. 本時の目標

- 認知的
- つりあいのとれたもようを作ることにより、対称の概念に気づく。
- 態度的
- 直線にそって切ったり折ったりしながら、移動の観点に立って図形を考える。
 - なぜ、つりあいがとれているのか、はっきり説明したり、わからないことをたずねたりする。

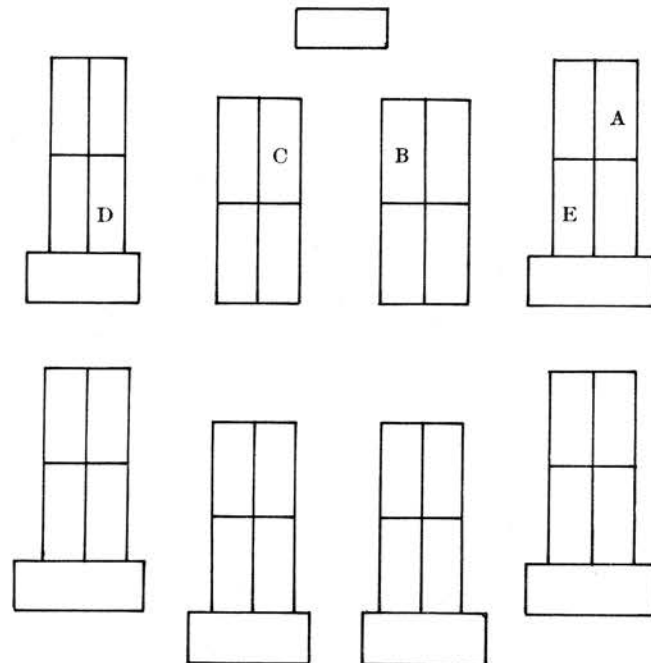
6. 準 備

- 教 師
- もよう入りカード
- 児 童
- もよう入りカード, はさみ

7. 学習過程

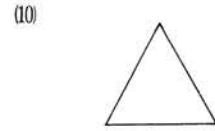
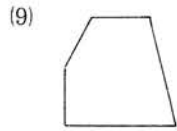
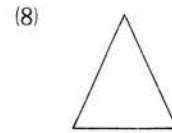
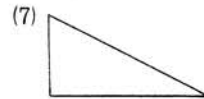
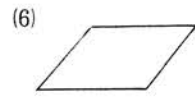
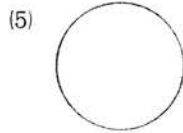
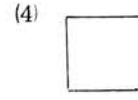
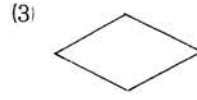
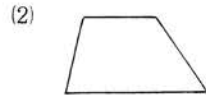
学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考	学習形態
<p>1. 課題を確認する。</p> <div data-bbox="475 405 858 472" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> つりあいのとれた形をつくろう </div> <p>2. 各自で工夫して形をつくる。 <約 束> ○直線にそって切る。 ○2つの形を点や線でつながない。</p> <p>3. つくった形を確かめあう。 ○つりあいのとれた、美しいもようを選ぶ。</p> <p>4. なぜ、つりあいのとれた形だと言えるのか話しあう。 (半分に折るとぴったり重なる。) (まん中にひいた線からの長さが左右とも同じ)</p> <p>5. 学習のまとめをする。</p> <div data-bbox="357 1458 970 1574" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 半分に折ったり、回したりして、きちんと重なる形は、つりあいがとれた形である。 </div> <p>6. 次時の課題を知る。</p>	<p>○課題や約束がつかめていない子どもには個別に指導する。</p> <p>○見た目に直観的につりあいのとれていない形がないか話し合わせる。 ○グループで代表作を1～2点、選ばせる。</p> <p>○見た目だけでなく、折ったり重ねたり回したりした操作や、対応に着目した考えなど、根拠を明らかにしながら説明させる。 ○意味がわからない時は、よく質問しあうようにさせる。</p> <p>○上の説明にそって、形を再構成させながら定着をはかる。</p> <p>○線対称の意味や性質を調べるところを予告する。</p>	<p>もよう カード</p>	<p>一 斉 ↓ 個 人 ↓ グ ル ー プ ↓ 一 斉 ↓ グ ル ー プ ↓ 個 人 ↓ グ ル ー プ ↓ 一 斉 ↓</p>

座席表

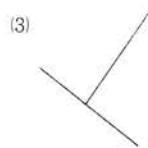
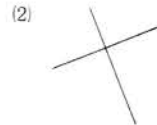


- A. 言語習得の遅れから、計算領域を除いて理解にかなりてまどる。
- B. 口数が少なく、班の中で孤立することがある。図形の名称も、ほとんど書けていない。
- C. 自己主張が強く、友達の意見を素直に聞けない。操作が雑で、定着しないことが多い。
- D. 自分の考えをわかりやすく発表する。理解もはやく、てきばきと活動する。
- E. よく発表する。友達の気持ちをよく考え、助けあって学習する。

1. 次の図形の名まえを答えなさい。

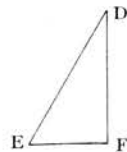
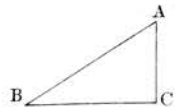


2. 次のうち、たがいに垂直になっているものに○、そうでないものに×と書きなさい。



(4) 垂直の意味を書きなさい。()

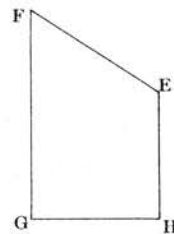
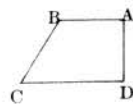
3. 次の二つの三角形は、ぴったり重なります。対応する点や辺を答えなさい。



(1) 頂点Aと頂点()

(2) 辺BCと辺()

4. 右の四角形は、左の四角形を2倍に拡大したものです。対応する点や辺を答えなさい。



(1) 頂点Cと頂点()

(2) 辺ADと辺()

第2学年1組 社会科学習指導案

指導者 川勝 恭子

1. 単元 こうばで はたらく 人びと (パン工場)

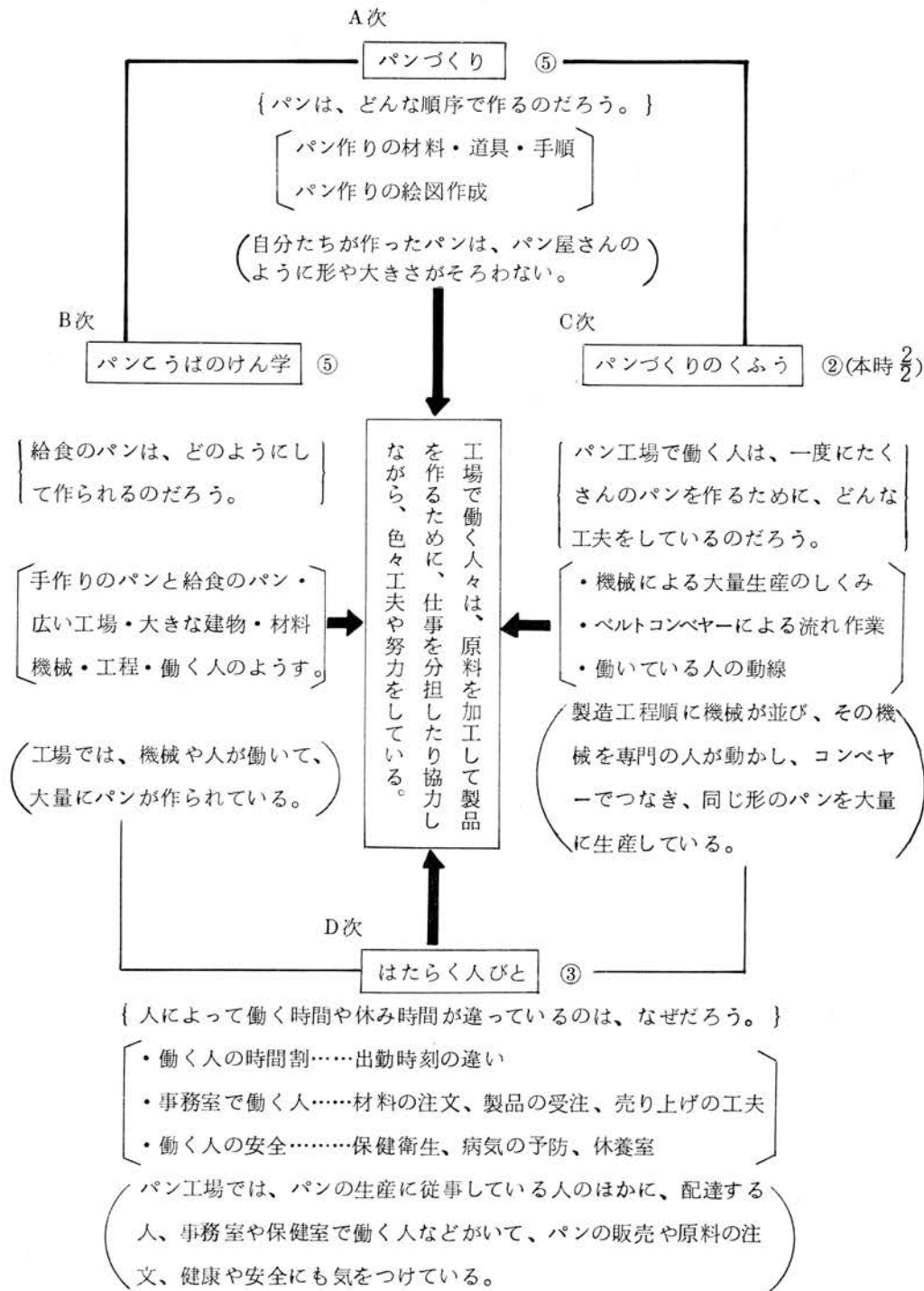
2. 趣旨

- 本単元「工場で働く人々」は、原料を加工して製品を作るために、仕事を分担したり協力しあっていることに気づかせるのがねらいである。ここでパン工場を取り上げたのは、パンが子供の食生活と切り離せないものであり、原料から製品までの工程が変化に富み、しかも、比較的単純でわかりやすいからである。また、機械化が進んだ中で人の仕事にも気づかせやすい。
- 本学級33名中、家族がパン工場で働いている人は5名で、その内3名が配達、2名が包装に携わっている。子供達は、パン工場を間近に見る機会がありながら、大きなサイロに関心を持っていた者は4名、中をかいま見ることができたのは1名だけである。しかし、パンと表示のある自動車が道路を走っていることや、給食室へも運んでくることは、全員知っている。家でパン作りを経験した者は、2名である。
- そこで、全員にパン作りを体験させ、パンは、小麦粉を加工してできること、おいしく作るには工夫がいること、手順は勿論、安全や衛生にも気をつけなければならないことに気づかせたい。本校区には大きなパン工場があり、見学できる好条件にあるため、機械の役割、働く人の様子などにも関心を持たせて見学させたい。また、絵話を作らせたり、スライドやVTRなど視聴覚機器も活用したい。

3. 目標

- 認知的 ◦ パン工場では、機械を使って原料を加工し、大量に製品を作っており、働く人達は、仕事を分担しながら協力していることや、仕入れや販売、衛生や安全にも気をつけていることをわからせる。
- 態度的 ◦ パン作りの体験から、工場の人たちが、おいしいパンを作るためにどのような工夫をしているかを調べようとする態度を養う。
 - 課題について、自分の考えをグループの中に出したり、友だちの考えにつけ足して話し合いができるようにさせる。

4. 指導計画 (15時間)



5. 本時の目標

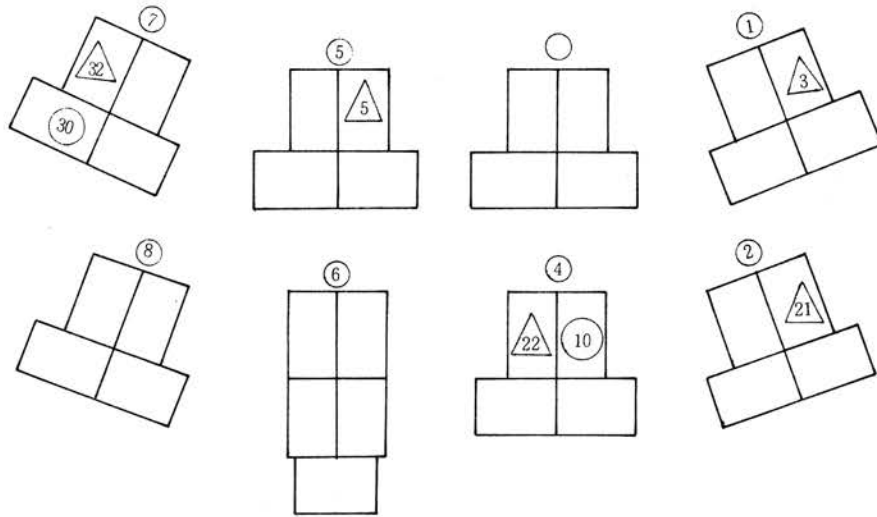
- 認知的
- パン工場で働く人は、同じ形のパンを一度にたくさん作るために、機械化したり、流れ作業や分業を取り入れるなど工夫していることがわかる。
- 態度的
- 大量生産の工夫について興味をもつ。
 - 資料を見て、気づいたことや考えたことをグループの中に出して話し合うことができる。

6. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考	学習形態
1. 工場でのパン作りの見学をした時のことを話し合う。 ・大きな機械 ・たくさんのパン どうして同じ形のパンをこんなにたくさん作ることができるのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> 見学後、工場でのパン作りの様子を描いた絵を提示して想起させる。 1日に御国野小学校の給食の1,000校分も作っていることを知らせる。 	パン作りの絵 食パン	一 斉 ↓
2. 自分たちのパン作りと工場でのパン作りのちがいを比べて話し合う。 ・機械を使っている。 こねる。切る。まるめる。 パン焼型、オーブンなど設備のちがい。 ・きまった係の仕事をみんないっしょけんめいに行っている。 ・次々運ばなくてもよい。	<ul style="list-style-type: none"> パン作りの経験を生かして考えさせる。 機械が製造工程順に並べてあり、それぞれの専門家が分業で働いていたことを絵図や写真より確かめさせる。 係によって違う仕事をしながらも、みんなが協力していることに気づかせる。 ベルトコンベヤーで運んでいることを知らせる。 	絵 図 スライ ド	個 人 ↓ グ ル ー プ ↓
3. 学習したことをまとめる。 たくさんのパンを作るために働く人は、仕事を手分けしたり、機械を使って工夫や努力をしている。	<ul style="list-style-type: none"> 同一規格のパンが大量にできるわけを吹き出しに書かせる。 		一 斉 ↓
4. 次時の課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> 次時に働く人々の生活について学習することを知らせる。 		個 人

座 席 表

教 卓



(出席番号)

- 3 幼時に来日したため、日常会話には支障はないが、集中力なく理解も遅い。
(ラオス児)
- 21 来日して2年、語彙も増え、日常会話にはほとんど支障がなくなったが、ちぎるまぜる、こねるなどの意味はむずかしい。
(ベトナム児)
- 10 パン作りの経験もあり、よく考え進んで発言しようとする意欲もある。
- 22 やる気はあるが、視野が狭く、生活経験も乏しい。集中力が続かず理解も遅い。
- 5 日常生活でも口数が少なく、感情も押えきみで、思ったことがはっきりと発言しにくい。
- 32 生活経験は広がりつつあるが、理解が遅くグループでの話し合いもできにくい。
- 30 友だちの意見をよく聞き、進んで取り組む。

事前調査の結果

正答○ 誤答/ 無答□

1項目の正答を4点として得点を算定

班	児童出席番号	1 サイロ	2 パンの原料	3 仕パン作りの事					4 機械・道具	5 機械の良さ	6 ベルトコンベヤー	7 人の働き	8 工場の働き	9 仕事の内容	10 労働の条件					得点			
				ア	イ	ウ	エ	オ							カ	ア	イ	ウ	エ		オ		
1	3		○		○							/	○		○	○	○	○	24				
	4	○	○	○	○	/	○	○		○	○	○	○	/	○	○	○	/	56				
	29		○	○	○	○	○	○		○			○	○	○	○	○	/	52				
	27		○	○	○	○	○	○				/	○	○	/	○	○	○	48				
2	21								○					○					8				
	9	○	○	○		○	○		○	○		○	○	○	/	○	○	○	56				
	28	○	○	○	○	/	○	○		○			/		○	○	○	○	44				
	19		/	○	○	○	○	○		○			○	○	○	/	○	/	40				
3	7	/	○	○	○	○	○	○		○			○	○	/	○	○	○	52				
	13	○	○	○	○	/	/	○				○		/	/	○	○	○	36				
	24	○	○	○	○	○	○	○		○		/	○	○	/	○	○	○	56				
	31	/	/	○	○	/	/	○		○	○	/	○	○	/	○	/	○	40				
4	10	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	/	○	○	○	/	60				
	18	○	○	○	○		○		○	○	○		○	○	/	○	○	○	56				
	22					○							○	○	○	○			20				
	15	○	○	○	○	○	○		○			○	○	/	○	○	○	/	52				
5	5		○			○	○		○				/	○	/	○	/	/	24				
	2	/	○	○	○	○	○	○		○	○	/	○	/	/	○	○	○	52				
	26		○	○	○	/	○	○		○		/	○	/	○	○	○	○	44				
	20	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○	/	○	○	○	/	56				
6	8		○	○	○	○	○							○	○	○	○	/	36				
	6	○	○	○	○	○	○	/		○	○			/	○	○	○	/	52				
	14	○	○	○	○	/	/		○	○		○	/	/	○	○	○	○	52				
	17	○	/	○	○	/	/	○			○		○	/	○	○	○	○	48				
	16	/	○	○	○	/	/	○		○	○		○	/	/	○	○	○	52				
7	23	○	○	○	○	○	○		○	○		○		/	○	○	○	/	52				
	11		○	○	○	○	/		○			○		○	/	○	○	/	40				
	32		○	○	○	/	/		○				○	/	○	○	/	○	32				
	30	/	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	72				
8	1		○	/	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	56				
	12	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○	/	○	○	○	/	60				
	25		○	○	○	○	○		○			○	○	/	○	○	○	/	52				
	33		○	○	/	/	○	○	/			/	○	/	○	○	○	○	48				
正答率	0	51.5	84.8	81.8	63.6	72.7	75.8	9.1	3.0	0	81.8	9.1	4.4	0	6.1	0	78.8	60.6	6.1	36.3	81.8	81.8	46.3

事前調査

1. おかのパン（ククポーレ）のこうばには、大きなえんとつのようなものがありますが、なにが入っているのでしょうか。（ ）
2. パンは、なにからつくりますか。（ ）
3. パン作りのしごとには○、ちがうものには×を（ ）にしてください。
ア（ ）ざいりょうを水でよくあらう。 イ（ ）ざいりょうをよくねり、ませる。
ウ（ ）ざいりょうをれいぞうこに入れてよくひやす。
エ（ ）小さなかたちにきって、あたたかいところにおく。
オ（ ）ざいりょうをなべに入れてにる。 カ（ ）ざいりょうのかたちをととのえてやく。
4. パンを作るきかいやどうぐにどんなものがありますか。
（ ）（ ）（ ）
5. きかいをつかうと、人がするよりどんなよいことがありますか。
（ ）（ ）（ ）
6. ベルトコンベヤーは、どんなときにつかいますか。
（ ）
7. パン作りで、人がしないとできないしごとは、どんなことですか。
（ ）
8. パンこうばでは、トラックが出たり入ったりしています。なにをつんでいるのでしょうか。
こうばに入ってくるトラック（ ）
こうばから出ていくトラック（ ）
9. パンこうばではたらく人は、パンを作るほかにどんなしごとがあるでしょう。
（ ）（ ）
10. よい文に○、まちがっているものに×をください。
ア（ ）昼も夜もパンを作っているところもある。
イ（ ）しごとをはじめる時こくは、まえもってきめられている。
ウ（ ）かえる時こくは、自分できめてよい。
エ（ ）パンづくりは、どんなふくそうでしてもよい。
オ（ ）パンづくりがいそがしい時は、だれが手つだってもよい。

第3学年1組 社会科学習指導案

指導者 芝 雅 司

1. 単元 市みんのくらしと商店のはたらき

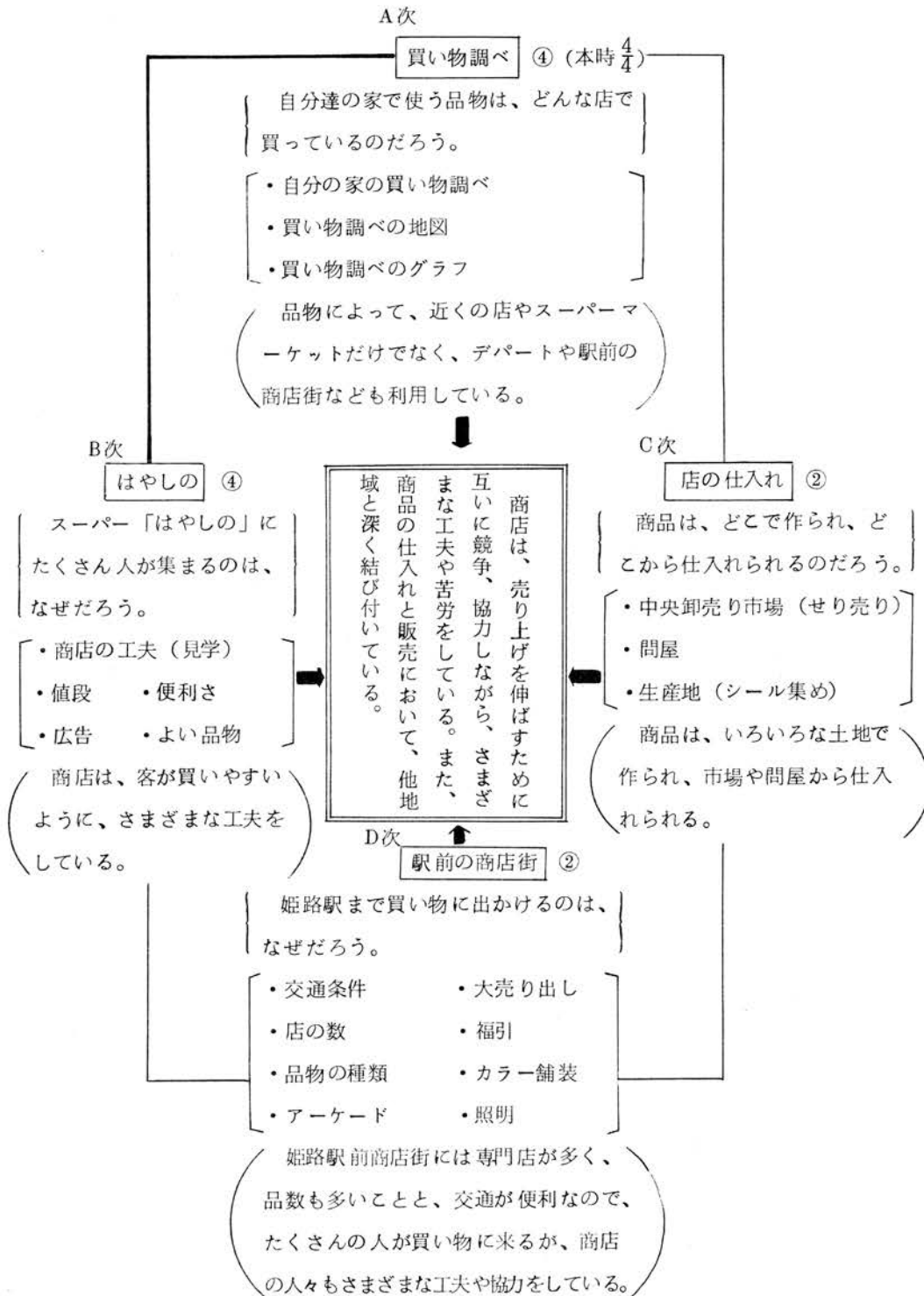
2. 趣旨

- 私たちの消費生活は、商店のはたらきの上に成り立っている。その商店は、現在では多様に形態を変えてはいるが、それぞれが少しでも売上げを伸ばすために、さまざまな工夫や苦勞をしている。そこで扱われる品物は、いろいろな土地で作られ、複雑な流通経路を通過してきている。こうした商店や商店街の販売の工夫や苦勞を理解させ、消費生活を通過しての他地域との結び付きについて考えさせる単元である。
- 本学級児童38名全員がいろいろな買い物の経験をもっている。そして、商店が商品を売るための工夫として、値段を安くしていることに25名が気付いているが、外の工夫や苦勞は一部の者しか気付いていない。まして、商店街の工夫や協力については、全く考えが及ばない。また、自分の身の回りの品物がどこで作られたのかについては、工場が校区内にあるパンを除いては、非常に関心が薄い。
- そこで、児童の学習意欲を高めるために、買い物調べ、地図やグラフ作り、見学、聞き取り調査、食べ物のシール集めなどの作業を通して、より具体的に商店や商店街の工夫や苦勞と他地域との結び付きをつかませたい。また、見学しにくい市場や商店街の様子については、視聴覚機器を活用して、児童の思考を助けたい。

3. 目標

- 認知的 ◦ 私たちが利用する商店や商店街では、売上げを伸ばすために、それぞれ工夫や苦勞をしていることを理解させるとともに、私たちの消費生活は、商品の流通において他地域と深く結び付いていることを考えさせる。
- 態度的 ◦ グループ内で各個人がそれぞれの役割をもつて、資料集め、見学、聞き取り調査をし、集めた情報を協力して整理しようとする態度を育てる。

4. 指導計画 (12時間)



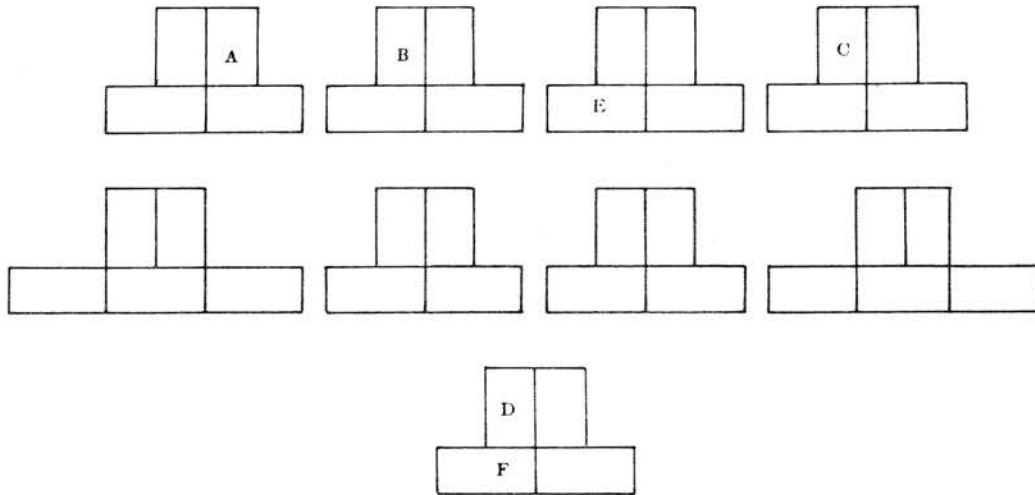
5. 本時の目標

- 認知的
- 各自の買い物調べのグラフから、学級全体のグラフにまとめることにより、人々の商品による商店の選び方の傾向に気付く。
- 態度的
- 調べたことをグループで話し合い、意見をまとめることができる。

6. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考	学習形態
1. 本時の学習課題を確認する。	◦ 品物の種類別にどこで買っているかについて調べを確認させる。	OHP	一 斉
御国野の人達は、どんな品物を、どこで買っているのだろう。			
2. 学級全体の買い物調べのグラフを作る。	◦ 前時に作った個人の買い物調べのグラフを、グループごとに集計させて、学級全体として一つにまとめさせる。	グラフ	グループ
3. でき上がったグラフを見て気がついたことを話し合う。	◦ グラフを見て気がついたことを箇条書きにノートに書かせる。		個 人
◦ 食料品や日用品は近くの店で買っている。	◦ 品物の種類別に考えさせる。		↓
◦ 食料品はスーパーでまとめて買うこともある。	◦ 食料品や日用品を近くの店で買うことが多いわけを考えさせて、地域において近くの店が果たしている役割を理解させる。		グループ
◦ 衣料品は駅前商店街やデパートで買っている。	◦ なぜ駅前商店街やデパートを利用するかについては予想させる程度にとどめておき、深く追求させない。		↓
4. わかったことをノートにまとめる。			一 斉
人々は、品物によって、利用する店を選び分けて買っている。			
5. これから調べていきたいことについて話し合う。	◦ 「はやしの」を利用する家が多いことに気付かせて、次時への課題意識をもたせる。		個 人
			↓
			一 斉

座席表



- A. 集中力が欠けていて話を聞きのがすことが多い。そのため作業にたいへん時間がかかる。
- B. 理解力、思考力ともに劣るところがあり、学習問題の把握に時間を要する。人に尋ねてから行動することが多い。
- C. 生活面では友達をリードしていく力があるが、学習時には気が散りやすく、話を聞きのがしたり、課題を取り違えたりしがちである。
- D. 集中力が欠けていて授業中に外のことに気を取られることが多い。資料活用能力が、特に劣っている。
- E. 優れた理解力をもっており、知識が豊富である。資料を正しく読み取ることができる。
- F. 何事にも意欲的で、グループ内の話し合いで進んで意見を述べ、リードすることができる。

事前調査の集計

1. あなたは、家の人と買い物に行きますか。

よく行く	6名	ときどき行く	27名	ほとんど行かない	5名
------	----	--------	-----	----------	----

2. あなたの家の人は、つきの品物をどこのお店で買っていますか。(複数回答有り)

品物	商店	そこで買う理由
やさい	はやしの 25名	近いから 17名
	ニューセンター 9名	安いから 8名
	その他 9名	新鮮な品物だから 2名
		たくさん品物があるから 2名
		配達してくれるから 1名
石けん	はやしの 7名	安いから 7名
	ニューセンター 7名	近いから 2名
	その他 7名	気に入った品物があるから 2名
	無答 17名	配達してくれるから 1名
ようふく	大きなスーパー 18名	たくさん品物があるから 5名
	デパート 6名	良い品物があるから 5名
	駅前商店街 6名	安いから 5名
	その他 2名	買いに行くのに便利だから 5名
	無答 8名	

3. あなたの身の回りの品物で、生産地のわかる物を書きなさい。

パン	36名	くだ物の中から一品	22名	その他	4名
----	-----	-----------	-----	-----	----

4. お店の人たちは、たくさんお客さんに来てもらったり、買い物を楽しんでもらったりするために、どんな工夫をしているでしょう。

値段を安くする	25名	買いやすいように品物を並べる	4名
良い品物を売る(新しさ、種類など)	9名	広告を出す	2名
サービス(試食、店員の応待など)	9名	その他	4名
店内を清潔にする	6名		

5. 駅前の商店街では、たくさんお客さんに来てもらったり、買い物を楽しんでもらったりするために、どんな工夫や協力をしているでしょう。

大売り出しをする	8名	ショーウィンドー、カラー舗装	各1名
アーケードをつける	4名	無答	22名

第5学年3組 社会科学習指導案

指導者 古 隅 利 量

1. 単 元 深志野瓦（伝統を生かした工業）

2. 趣 旨

- 私たちの生活の中には、近代工業で大量に生産された製品ばかりでなく、毎日使っている茶わん・皿・はしや勉強で使っているそろばん・習字道具等伝統的な技術を生かして生産された製品がいくつもある。本単元では、深志野の瓦作りを通して、その製品の生産工程、働いている人の願いや努力などを考えていく中で、伝統を生かした工業の特色をつかむことをねらっている。
- 校区には、パン工場、皮革工場、瓦工場、鉄工団地等がある。パン工場は、2・3年生の時に見学に行って、その様子等を学習している。また、鉄工団地へはクラブ活動等で行っている。瓦工場については、側を通っていても、瓦がほしてあるという程度でしかとらえておらず、校区の特産物であると答えた者は6名しかいない。毎日屋根を見、図画の時間にもよくえがくが、一枚一枚の瓦については関心がなく、必要なものとしてとらえていない。まして、これらの製品の生産についてまでは考えていない。
- そこで、深志野にある瓦工場を見学し、地場産業である深志野瓦に関心を持たせ、どのように発展してきたかをとらえさせたい。子どもたちになじみのうすい瓦をより身近なものとしてとらえさせるために、事前に自分達で瓦をつくり、焼く体験をさせる。それによって生産工程の一つ一つに注意を払い、自分たちの体験と比較しながら見学させたい。現在、生産工程のほとんどは機械化されているから、その中で工夫されているところや長年の経験を生かした手づくりでなければ出来ないところを鬼瓦づくりの中でつかまえていきたい。

3. 目 標

- 認知的 ◦ 深志野瓦は、原料や土地の条件を生かし、伝統的な技法を用いて発展してきたことや、今も多くの人々にその良さを認められていることをつかませる。
- 態度的 ◦ 伝統的な工芸品について見学したり、調査しようとする態度を育てる。
◦ グループごとに見学のまとめをつくらせる。

4. 指導計画 (11時間)

A次

御国野の特産調べ ①

{ 御国野校区では、どんな物が作られているのだろうか。 }

[・パン ・革 ・瓦 ・鉄製品]

(周りの校区にないものがある。)

B次

瓦をつくる ③

{ どのようにしたら瓦をつくることのできるのだろうか。 }

[・つくる一作り方、道具、ねる ・焼く一まき、かま]

(各自が作った瓦は、大きさや形が違い、また、うまく
焼けないため、屋根にならべられない。)

C次

深志野瓦 ⑤ (本時 $\frac{4}{5}$)

{ 瓦づくりはどのようにされて
いるのだろうか。 }

- ・見学の視点—工場見学
- ・200年ほど前
- ・発達の遠因—国分寺、御着城
- ・出荷先—相生~加古川
- ・自然的な条件—良い粘土
瀬戸内式気候
- ・かわらの製作工程—機械化
手作業、いぶし瓦のよさ
- ・工夫、苦勞、公害
- ・手づくりの鬼瓦

現在では、生産工程のほとんど
が機械化されているが、良い瓦
を作るために、その工程の中
でいろいろ工夫されている。鬼瓦
は、手づくりで、手間をかけて一
つ一ついねいに作っている。

D次

各地の伝統工業 ②

{ わが国の伝統工業にはどん
なものがあるのだろうか。 }

- ・手づくりの製品
焼き物 塗り物
織り物 細工物等
- ・瀬戸の焼き物
発展の原因
現状と今後の問題
- ・各地の伝統工業
- ・地図作り
- ・まとめ—自然的条件
歴史的背景
今後の問題点

(日本の各地では、今もそれ
ぞれ個性的で、愛着のある
製品が作り出されている。)

伝統的な工業は、その地域の自然的条件を生かし、人々の工夫や努力によって発達してきた。機械化の進んでいる現在でも、昔ながらの技法を生かしながら工夫や改善を加え生産活動を行っており、その製品は、多くの人に愛用されている。

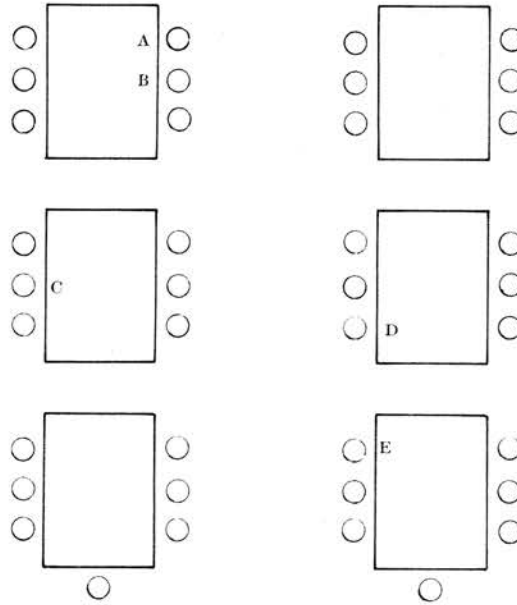
5. 本時の目標

- 認知的
- 機械生産と手づくりのどちらの工程においても、よい瓦をつくるためにいろいろ工夫されていることに気づく。
- 態度的
- 手づくりと機械生産のちがいがわかる。
 - 見学した時のメモがグループの話し合いの中でいかせる。

6. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考	学 習 形 態
1. 生産工程について話し合う。 ◦ 機械化↔手作業	◦ 機械ではできないところを見つけ出させる。	瓦 写 真	一 斉 ↓
よい深志野瓦をつくるためにどのように工夫と努力をしているだろう。			
2. 工夫している点について考える。 ◦ 土をませる ◦ 乾燥する ◦ どろをぬる ◦ 焼く温度	◦ 昔は近くでとれる土をそのまま使っていたが、現在では土とすなを適当な割合でませていることを知らせる。 ◦ かまの余熱を上手に利用していることをとらえさせる。 ◦ 瀬戸の陶器用の土をどろどろにして吹きつけていたことを思いださせる。	瓦	個 人 ↓ グ ル ー プ
3. 鬼瓦を見て話し合う ◦ ひらがわらとのちがい ◦ 手づくりのよさ ◦ 手づくりの苦勞	◦ 鬼瓦は、機械化できず数が少ないため、各瓦屋さんの注文に応じて手づくりで作っていることを知らせる。 ◦ 注文によって作るため、それぞれ注文者の好みどおりに作ることができる。 ◦ 鬼瓦作りの人のテープを聞く。	写 真 鬼 瓦 録 音 テ ー プ	一 斉 ↓ グ ル ー プ ↓ 一 斉
よい深志野瓦をつくるために生産工程の中でいろいろな工夫がなされている。また、手づくりの中でも一つ一つ心をこめて鬼瓦を作っている。			

座席表



- A. 動作が緩慢で、いつもうつろな目つきでぼっとしている。何でも友達が手伝ってくれるので、片付け等さっさと出来ない。声は小さく、緊張すると余計声が出ない。
- B. 注意散漫で、あまり話を聞いていない。友達に対して大変親切で、自分のことが十分出来なくても、A児の面倒をよくみる。
- C. 発表回数は多くはないが、よく考えた意見が発表出来る。友達の意見と比較・関連づけた考えも発表出来る。
- D. 社会科に興味を持ち、知識は相当持っている。発表もよくするが、皆の考えをまとめたりすることがまだ出来ない。
- E. 理解力はあるが、すぐに退屈して友達に話しかけ、友達の学習の邪魔をする。発表は時々する。

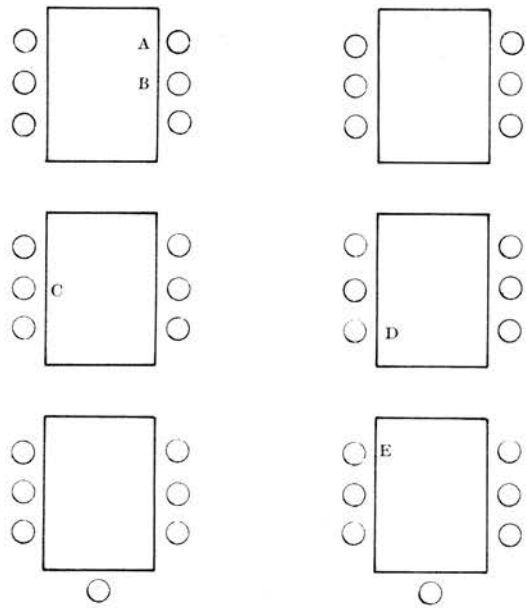
5. 本時の目標

- 認知的 ◦ 機械生産と手づくりのどちらの工程においても、よい瓦をつくるためにいろいろ工夫されていることに気づく。
- 態度的 ◦ 手づくりと機械生産のちがいがわかる。
- 見学した時のメモがグループの話し合いの中でいかせる。

6. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考	学習形態
1. 生産工程について話し合う。 ◦ 機械化↔手作業	◦ 機械ではできないところを見つけ出させる。	瓦 写 真	一 斉 ↓
よい深志野瓦をつくるためにどのように工夫と努力をしているだろう。			
2. 工夫している点について考える。 ◦ 土をまぜる ◦ 乾燥する ◦ どろをぬる ◦ 焼く温度	◦ 昔は近くでとれる土をそのまま使っていたが、現在では土とすなを適当な割合でまぜていることを知らせる。 ◦ かまの余熱を上手に利用していることをとらえさせる。 ◦ 瀬戸の陶器用の土をどろどろにして吹きつけていたことを思いださせる。	瓦	個 人 ↓ グループ
3. 鬼瓦を見て話し合う ◦ ひらがわらとのちがい ◦ 手づくりのよさ ◦ 手づくりの苦勞	◦ 鬼瓦は、機械化できず数が少ないため、各瓦屋さんの注文に応じて手づくりで作っていることを知らせる。 ◦ 注文によって作るため、それぞれ注文者の好みどおりに作ることができる。 ◦ 鬼瓦作りの人のテープを聞く。	写 真 鬼 瓦 録 音 テ ー プ	一 斉 ↓ グループ ↓ 一 斉
よい深志野瓦をつくるために生産工程の中でいろいろな工夫がなされている。また、手づくりの中でも一つ一つ心をこめて鬼瓦を作っている。			

座 席 表



- A. 動作が緩慢で、いつもうつろな目つきでぼっとしている。何でも友達の手伝ってくれるので、片付け等さっさと出来ない。声は小さく、緊張すると余計声が出ない。
- B. 注意散漫で、あまり話を聞いていない。友達に対して大変親切で、自分のことが十分出来なくても、A児の面倒をよくみる。
- C. 発表回数は多くはないが、よく考えた意見が発表出来る。友達の意見と比較・関連づけた考えも発表出来る。
- D. 社会科に興味を持ち、知識は相当持っている。発表もよくするが、皆の考えをまとめたりすることがまだ出来ない。
- E. 理解力はあるが、すぐに退屈して友達に話しかけ、友達の学習の邪魔をする。発表は時々する。

これは、テストではありません。みなさんがどのくらい知っているか調べているのです。

1. 自分たちの身のまわりで“手づくり”の品物をさがしましょう。
 - (ア) 毎日のように使っているものは何でしょう。
 - (イ) 勉強で使うものは何でしょう。
 - (ウ) 家の中で使われているものは何でしょう。
 - (エ) 家の人大切にしているものは何でしょう。
2. 姫路市（兵庫県でもよい）で、上のア、イ、ウ、エのなかのどれかを作っているでしょうか。
3. 御国野町の特産物は何でしょう。
4. 瓦は、どのようにして作るのでしょうか。
5. ()で、瓦は、何年くらい前からつくられるようになったのでしょうか。
6. また、そこで、瓦作りが始められたのは何かわけがあるのでしょうか。

御国野小学校区

5年 組 名前 ()

- 校区の特産物調べ
パン工場……赤色
かわ工場……青色
かわら工場…茶色



第6学年3組 社会科学学習指導案

指導者 戸部 美智子

1. 単元 信長、秀吉と家康（秀吉と姫路）

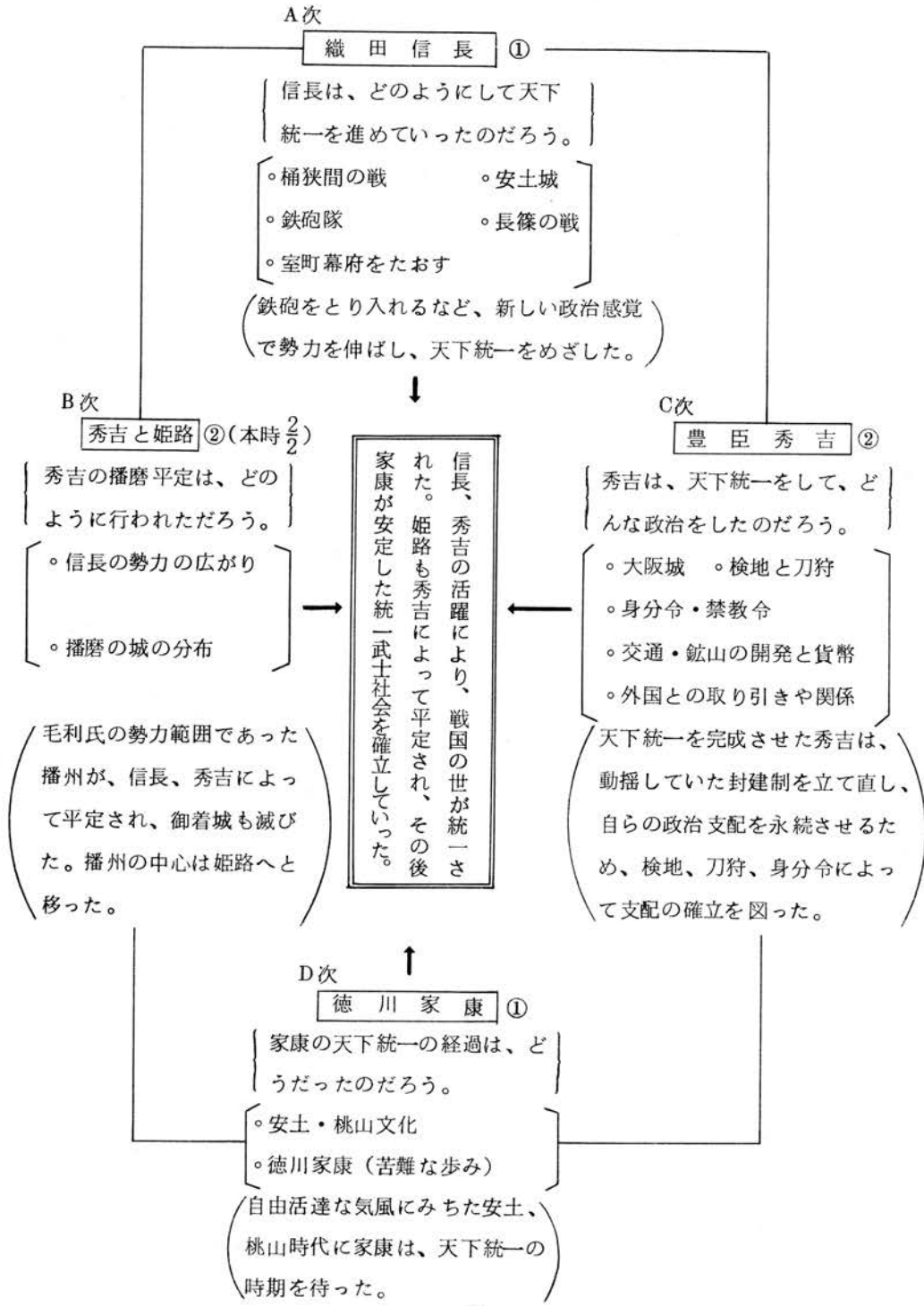
2. 趣旨

- 信長は、戦国時代に天下統一の野望を持ち、室町幕府を倒し、勢力を拡大していった。信長の家来であり、児童になじみ深い秀吉が、西国平定という命をこの地を中心におこない、御着城もその戦いにのまれていったことを知らせ、身近にある御着城に目を向けさせる。
- 児童は、自分達の身近に、たくさんの文化遺産、古墳群、廃寺があるのに、ほとんど知らない。校舎の窓から見えるし、遠足時には、そばを通っている御着城跡でさえ、知らない者がある。まして、秀吉と御着城との関係を知っている者は少ない。
- そこで、御着城そのものは現存しないが、いくつかの資料から歴史の流れの中に消えていった御着城を学習することにより、信長・秀吉の天下統一と関連づけて考えさせるとともに、それを歴史的資料や年表、地図などと結びつけて、具体的にとらえさせ、歴史を学ぶおもしろさや楽しさを味わわせたい。

3. 目標

- 認知的 ◦ 天下統一へ向けて、信長、秀吉、家康の果たした役割を知らせ、御着城も関係が深いことを知らせる。
- 態度的 ◦ 身近な文化遺産「御着城」に関心を持ち、当時の社会や人々の様子を伝える重要な手がかりになることを理解し、歴史的資料や伝承を集めたり、それを他の資料と関連させて考え、歴史を正しく追究する態度や能力を養う。
- グループでの話し合いに進んで参加したり、考えあう態度を養う。

4. 指導計画 (6時間)



5. 本時の目標

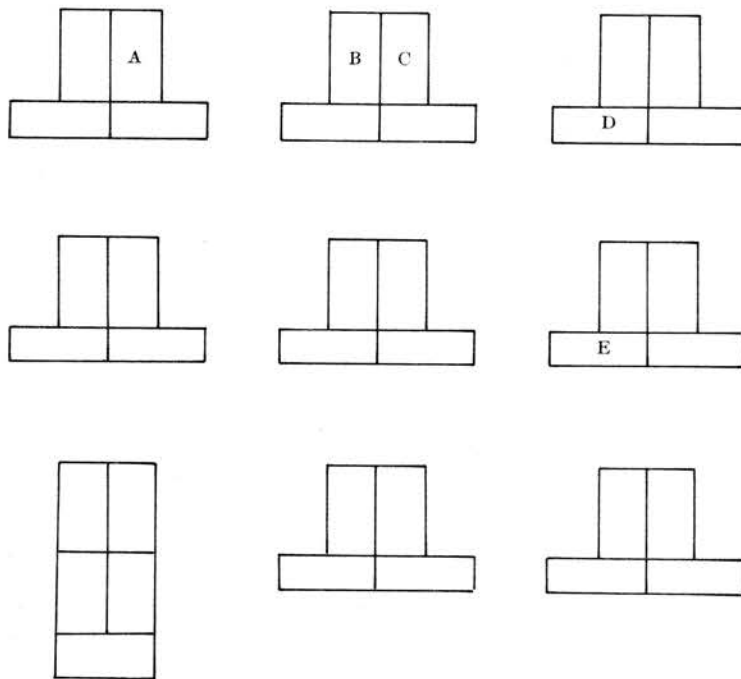
- 認知的
- 御着城について調べ、信長の天下統一の時、戦いにまきこまれた城であり、3代にわたって栄えていたことを知る。
- 態度的
- 身近な史跡を学ぶことにより、郷土の文化遺産に興味関心をもつ。
 - 自分の考えや、調べてきたことがグループの中で発表できる。

6. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考	学習形態
1. 秀吉の播磨平定の経過をたしかめる。 ◦ 関係の深い城 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">御着城は、誰が、どんな城を築きおさめていたのだろう。</div>	◦ せめていった城を、白地図に記入させ、たしかめさせる。	白地図	一 斉
2. 現在の御着城跡について話し合う。 ◦ 御国野支所 ◦ もとの御国野小学校のあとだ。	◦ 他の支所と比べさせ、建て方のちがいなどについて話し合わせる。 ◦ 12年前まで、御国野小学校があったことを知らせる。	写 真 (支所)	↓
3. 御着城について、事前に調べてきたことや、資料「ひめじ」を参考にして、予想し、たしかめる。 ◦ 小寺家（政隆、則職、政職） ◦ 天川を外堀に利用 ◦ 今の町と昔の城の大きさを比べる。	◦ 御着城について知っていることを発表させる。 ◦ 古地図や現在の地図から、広さをたしかめさせる。 ◦ 身近な城というイメージをもたせる。 ◦ 古地図と現在の地図を対比し、城の大きさ、勢力について考えさせる。	T P (古地図 現在の町) 写 真	↓ 個 人 ↓ グ ル ー プ ↓ 一 斉
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">小寺家が、城を築き約60年間にわたって勢力をもち、栄えていた。</div>			
4. その後、どうなったか話し合う。	◦ 現在、城が残っていないことから考えさせる。		↓

座席表

教卓



- A. 精神的に落ち着いている日は、まじめに学習ができるが、不安定な日は、やる気がなく、ぼんやりしている。
- B. 学習全般に理解がはやく、観察や作業もしっかりしている。
- C. 基礎的な知識に欠けるが、学習態度はまじめである。
- D. 集中力に欠け、授業中わき見をしたり、私語が多い。
- E. 全般に意欲的に学習に取り組み、発言も活発である。

事前調査

昭和60年4月20日

御国野小学校周辺には、いろいろな古墳や遺跡がたくさんあります。皆さんは史跡のことを、たくさん知っていることとおもいます。これからの質問に対して、知っている。知らない。をただしく番号に○印をつけて下さい。

1…記入のまえに名前、性別、住んでいる町を記入して下さい。

学年	性別	住んでいる町
ねん	1……男 2……女	

2…質問事項

No.	史跡	知っていますか		どうして知りましたか				見たことがありますか	
				家庭	学校	友達	その他	ある	ない
0	だんじょうざんこふん 壇場山古墳	1) 知らない	2) 知っている ⇒	1	2	3	4 ⇒	1	2
	↓								
1	やまのこしこふん 山之越古墳	1) 知らない	2) 知っている ⇒	1	2	3	4 ⇒	1	2
	↓								
2	はりまこくふんじ 播磨国分寺	1) 知らない	2) 知っている ⇒	1	2	3	4 ⇒	1	2
	↓								
3	こくふんにじさんこうち 国分尼寺参考地	1) 知らない	2) 知っている ⇒	1	2	3	4 ⇒	1	2
	↓								
4	ごちやくじょうおと 御着城跡	1) 知らない	2) 知っている ⇒	1	2	3	4 ⇒	1	2
	↓								
5	くろだけ ほか 黒田家のお墓	1) 知らない	2) 知っている ⇒	1	2	3	4 ⇒	1	2
	↓								
6	ごちやくほんしん 御着本陣	1) 知らない	2) 知っている ⇒	1	2	3	4 ⇒	1	2
	↓								
7	さん よう どう 山 陽 道	1) 知らない	2) 知っている ⇒	1	2	3	4 ⇒	1	2
	↓								
8	あま かわ ばし 天 川 橋	1) 知らない	2) 知っている ⇒	1	2	3	4 ⇒	1	2
	↓								
9	ひ ノ やま 火 ノ 山	1) 知らない	2) 知っている ⇒	1	2	3	4 ⇒	1	2

事前調査（史跡）

調査人員（37名） 調査日（昭和60年4月20日）

史跡名	知っていますか		どうして知りましたか				見たことがあるか	
	知らない	知っている	家庭	学校	友達	看板・本	ある	ない
壇場山古墳	0	37	2	23	7	5	37	0
山之越古墳	35	2	2	0	0	0	2	35
播磨国分寺	0	37	8	25	3	1	37	0
国分尼寺 参考地	30	7	2	5	0	0	5	2
御着城跡	2	35	14	15	2	6	34	3
黒田家のお墓	35	2	2	0	0	0	2	0
御着本陣	36	1	1	0	0	0	0	0
山陽道	18	19	2	32	2	1	5	2
天川橋	0	37	20	14	2	1	8	4
火ノ山	2	35	9	28	0	0	7	3

学 习 指 导 案

姬路市立城南小学校

公 開 授 業 (9 : 4 5 ~ 1 0 : 3 0)

学年・組 場 所	授 業 者	教 科	単 元
1 - 1 教 室	小 林 規 子	国 語	どうぶつの赤ちゃん
2 - 1 教 室	池 尻 三 恵 子	理 科	まめ電きゅうにあかりがついた
3 - 2 教 室	西 牧 照 代	国 語	人間とチンパンジー
4 - 2 教 室	上 田 真 理	国 語	体を守る皮ふ
5 - 1 第2理科室	阿 部 和 夫	理 科	酸素と二酸化炭素
6 - 3 教 室	深 津 さ い 子	理 科	水 溶 液

第1学年1組 国語科学習指導案

指導者 小林規子

1. 単元 どうぶつの赤ちゃん

2. 趣旨

- この教材は、三種類の動物を取り上げ、生まれた時の様子や大きくなっていく様子を一年生の児童に興味・関心をもたせながら分かり易く説明している。冒頭の段落で問題を提示しそれに答える形で説明が展開され、同じ順序で書かれているのでそれぞれの赤ちゃんを比較してとらえるのに好都合である。
- 児童は、この動物の赤ちゃんを見たり、さわったりする機会は殆んどなく具体的なイメージ化ができにくいと思われる。これまでも既習教材で、問題と答えという文章構造の読み取りを学習してはきたが、自分で文章構造に気付いたり、順序立てて読んだりすることは充分とはいえない。
- そこで本単元では、さし絵を活用したり、実物大のカンガルーを見せたり、動作化することにより赤ちゃんのイメージをふくらませてとらえさせたい。そして、生まれた時の様子や大きくなっていく時の様子を表にまとめさせることにより、自分で読み進めていく力を養いたい。

3. 目標

- ライオン・しまうま・カンガルーの赤ちゃんの様子や特徴を比較しながら、読み取る事ができる。
- 自分の思っている事が、みんなの前で言える。

4. 計画 (10時間)

第1次 全文を読んで学習の目あてを決める。…………… (2時間)

第2次 動物の赤ちゃんの生まれたばかりの様子と大きくなっていく様子を読み取る。
(6時間)

第1時 ライオンの赤ちゃんの生まれた時の様子

第2時 ライオンの赤ちゃんの大きくなっていく様子

第3時 しまうまの赤ちゃんの生まれた時の様子

第4時 しまうまの赤ちゃんの大きくなっていく様子

第5時 カンガルーの赤ちゃんの生まれた時の様子 …………… (本時分)

第6時 カンガルーの赤ちゃんの大きくなっていく様子

第3次 全文を読み返して三つの赤ちゃんを比べる。…………… (1時間)

第4次 言語の練習をする。…………… (1時間)

5. 本時の目標

- カンガルーの赤ちゃんの生まれた時の様子を他の赤ちゃんと比較して、読み取る事ができる。

6. 展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考
1. ライオン・しまうまの赤ちゃんについて分った事を話し合う。 2. カンガルーの赤ちゃんのさし絵を見て話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 子どもたちがかいた絵を見ながら、話し合いをさせる。 ◦ ライオン・しまうまの赤ちゃんと違う事に気づかせる。 	児童の絵
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> カンガルーの赤ちゃんは、生まれた時、どんな様子をしていたでしょう。 </div>		実物大のカンガルーの
3. カンガルーの赤ちゃんの事で、分った事・ふしぎな事について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 小さくてまるでうじ虫みたい。 ◦ カンガルーの赤ちゃんのように、「はい上がる」動作をする。 ◦ 「じぶんの力でおなかのふくろに入る。」をノートに視写する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 実物大のカンガルーの親と子の絵を見せ、大きさの違いをとらえさせる。 ◦ 「まるで～みたい」は、似ている時に使う言葉である事を分らせる。 ◦ 「はい上がる」動作をする事によって、カンガルーの赤ちゃんの生命力の強さを感じとらせる。 ◦ 教師と一緒にゆっくりとノートに書かせる。 	親子の絵
4. カンガルーの赤ちゃんと他の赤ちゃんの違うところを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 大きさ ◦ 目や耳の様子 ◦ 自分の力で 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ ライオン・しまうまの生まれた時の様子、大きくなっていく様子を書いた表を参考に考えさせる。 ◦ ライオンの弱々しさ、しまうまの成熟ぶりと比較させ、カンガルーのすごい生命力に気づかせる。 	表

第2学年1組 理科学習指導案

指導者 池 尻 三 恵 子

1. 単 元 まめ電きゅうにあかりがついた

2. 趣 旨

- 本単元では、乾電池には⊕極と⊖極の二つの極があること、その二つの極に導線をつないで一つの輪を作ったときに豆電球が点灯することや、物には電気を通す物と通さない物があることなど、電気の働きに気付かせることをねらいとしている。
- 児童30名の実態調査の結果によると、乾電池を使っておもちゃを動かした経験の方が多く、乾電池を使って豆電球を点灯させたことがあるのは懐中電灯くらいである。そして、乾電池を入れただけで点灯すると考えている。つまり、豆電球と乾電池を導線でつないで回路を作るから電気が流れて点灯するところまで気付いていない。

調 査 結 果	豆電球を知っている (19)	乾電池を知っている (22)	(名)
	豆電球や乾電池を使ったおもちゃや器具について		
	遊んだことがある (25)	知 っ て い る も の	
	作ったことがある (16)	ラジコンや車 (10)、人形やロボット (4)、懐中電灯 (1)	
	直したことがある (6)	ゲームウォッチ (9)、時計 (1)、クリスマスツリー (1)	

- そこで、一人ひとりの児童が自分の手で回路を発見できるように、全員に単一乾電池、豆電球、導線にする材料を与え自由につながせ、豆電球が点灯するつなぎ方を確かめさせる。次に、電気が通る回路の間に身近にある物を入れ豆電球が点灯するかどうかを調べることにより、電気を通す物と通さない物があることを理解させる。そして、豆電球を使ったおもちゃを工夫して作らせることにより、電気の働きに興味や関心をもちたい。

3. 目 標

- 乾電池、ソケットや導線を使って豆電球が点灯する回路を作れるようにさせる。
- 物には電気を通す物と通さない物があることに気付かせる。
- 豆電球を用いた回路を使ったおもちゃを工夫し合いながら作らせる。

4. 計 画 (8時間)

- 第1次 豆電球と乾電池のつくりと点灯 (3時間)
- 第1時 豆電球と乾電池をつないで明かりをつける。..... (本時分)
- 第2時 豆電球と乾電池のつなぎ方を調べる。
- 第3時 離れた位置の豆電球に明かりをつける。
- 第2次 電気の通る回路 (3時間)
- 第3次 豆電球の明かりのつくおもちゃ作り (2時間)

5. 本時の目標

- 乾電池や導線を使って、豆電球に明かりをつけることができる。
- グループで協力して明かりをつけることができる。

6. 展 開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考
1. 豆電球を使ったおもちゃの点燈を見て気付いたことを発表する。 ・なぜ明かりがついたのか。 2. 豆電球を点燈させることについて話し合う。	◦ 豆電球を点燈させるためには、豆電球と乾電池の間を線でつなぐ必要があることに気付かせ、点燈させる期待感を高める。	創作したおもちゃ
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">まめ電球とかん電ちをつないであかりをつけよう。</div>		
◦ 実験用具の説明を聞く。 ◦ 課題について個人で予想し、つなぎ方を発表する。 ・一本の線をどのように使うか。 ◦ グループでつなぎ方を調べ合い、発表する。	◦ 課題について考えやすいように、使用する用具を知らせる。 ◦ グループで調べ合わせるために、個人で予想したつなぎ方を記録カードに書かせる。 ◦ 全員に単一乾電池一個、1.5V豆電球一個、一本の線を与え、実験の条件を同じにする。 ◦ 個人で予想したつなぎ方を調べ合わせ、結果を記録カードに記入させる。 ◦ ほかのつなぎ方はないか話し合い、調べ合わせる。 ◦ 点燈させた喜びが伝わるように、点燈させた具体物を使って発表させる。 (評価) グループで協力しているか。	乾電池 豆電球 線 記録カード
3. 豆電球を点燈させることについてのまとめをする。	◦ ⊕極・豆電球・⊖極という一つの輪ができれば点燈することを、明かりがついた例をもとにして説明し理解させる。	
4. 魚の目を点燈させる。	◦ 魚の目を点燈させる遊びを通して、全員に楽しみながら豆電球を点燈させる。 (評価) 点燈させることができたか。	魚の絵

第3学年2組 国語科学習指導案

指導者 西牧 照代

1. 単元 人間とチンパンジー (1 チンパンジーと道具)

2. 趣旨

- 本単元は、道具と言葉に対するチンパンジーと人間とのかかわり方を通して、人間と言葉への理解を深めさせることを内容としている。1では、チンパンジーが初歩的な道具を作り使いこなしている生態を、2では伝達・思考・想像など知的な働きと言葉との関係を述べている。前者は事実を正確に読み取る能力を養い、後者は思考を深めながら要点をとらえる能力を培うのに適した教材である。
- 本学級の児童は、一学期に「みつばちのダンス」や「ありの行列」で、段落ごとに要点を落とさずに読み取る学習をしてきたが、まだ、正確な読み取りができていない状態である。
- そこで、書く作業を取り入れ、1人ひとりの読みを確かなものにし、それを元にグループで話し合わせ、より確かな読みへと高めたい。そして、要旨を抽象的にとらえるのではなく、その根拠となる事実を興味深く読み取らせたい。さらに、指示語の指示内容を的確に読み取らせ、接続語が文と文とをどのように関係付けているかも理解させるよう指導したい。

3. 目標

- 文章の要点を確かに読み取ることができるようにする。
- 読み取ったことを整理して書いたり、要点をまとめて書いたりすることができるようにする。
- 問題意識をもって、文章を読む態度を養う。

4. 計画 (11時間)

- 第1次 通読後の感想を書く。…………… (2時間)
- 第2次 「1 チンパンジーと道具」を詳しく読み取る。…………… (4時間)
 - 第1時 チンパンジーの生活
 - 第2時 シロアリを食べるチンパンジーの様子…………… (本時分)
 - 第3時 木のあなにたまっている水を飲むチンパンジーの様子
 - 第4時 チンパンジーの道具についての作者の考え
- 第3次 「2 人間は言葉を使う」を詳しく読み取る。…………… (3時間)
- 第4次 「人間とチンパンジー」を音読して単元をまとめ、「言葉」についての考えを作文する。…………… (2時間)

5. 本時の目標

- シロアリを食べるために、道具を作ったり、使ったりするチンパンジーのりこうさを読みとらせる。

6. 展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考
<p>1. チンパンジーについて、感心したことを話し合う。</p> <p>2. 本時のめあてを知る。</p> <p>◦ 本時学習場面を読む。 一文読み 段落読み</p> <p>3. 段落4、5、6の学習を深める。</p>	<p>◦ 一時感想をもとに、自由に各自の言葉で発言させ、学習への意欲を高めさせる。</p> <p>◦ チンパンジーが、どのようにしてシロアリとりをするのか、考えていくことを確認させる。</p> <p>◦ 一人でも多くの児童に読みの機会を与えるため一文ずつ読ませる。</p>	<p>模型のありづか</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">シロアリとりをするチンパンジーのりこうさはどこでしょう。</div>		
<p>◦ 学習課題について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 黙読とひとり調べ ・ 話し合う グループ→全体 ・ 長さ20cmぐらいの細いぼうを作る。 (近くの木皮をはいでくる。) (しなやかで強い木の皮をさがす。) ・ さしこんだぼうをそっと引き出す。 ・ べろりと食べる。 ・ 何度もくり返す。 <p>4. 学習内容をまとめる。</p> <p>5. 次時の学習予定を知る。</p>	<p>◦ 学習課題を貼布し、課題の確認をする。</p> <p>◦ りこうさについて書いてある所に、ラインを引かせ、用紙に書きこませる。</p> <p>◦ グループの中で自分の考えを出し合わせる。</p> <p>◦ どうして、しなやかで強いぼうでないといけないかを、ありづかとの関連で考えさせ、そのりこうさに気づかせる。</p> <p>◦ チンパンジーが道具を使うという視点を配慮しながら考えさせる。</p> <p>◦ 動作化させ、食べる様子をイメージ化させる。</p> <p>◦ チンパンジーが、道具を作り、使うことを確認させる。</p> <p>◦ 水を飲むときの工夫について学習することを予告する。</p>	<p>学習課題 記録用紙</p>

第4学年2組 国語科学習指導案

指導者 上田 真理

1. 単元 体を守る皮ふ

2. 趣旨

- 本題材は、人間の皮ふに着目し、その働きと仕組みのすばらしさを見つめさせる説明文である。自然の仕組み・動植物の生態・人体構造などに興味や関心が深いこの期の児童の興味をひくであろう。また、各段落の内容も明確で、文章構成も「問題提起→具体的説明→認識」と分かりやすい組み立てになっており、各段落の要点や段落相互の関係をつかみ内容を正確に読みとらせるのに適している。
- 児童は、「カブトガニ」「キョウリュウの話」で、段落ごとの要点をとらえ、段落相互の関係を考えながら、内容を正確に読み取ることを学習してきた。しかし、まだ、部分的な読みにとどまっており、語句の意味に注意しながら前後関係をとらえて読み取ることができにくい。
- そこで、本教材で新たな発見の喜びを持たせ、接続語、指示語、科学的用語をおさえながら、説明的文章の構成の仕方を理解させ読みを深めさせたい。また、疑問に思ったことは、自分で進んで調べたり話し合わせたりして解決させる態度を養いたい。

3. 目標

- 文章の組み立てに気を付けて、各段落の要点や段落相互の関係をつかみ、書かれている内容を正確に読み取ることができるようにする。
- 主体的に問題を見つけてメモを書き込みながら読む。友だちの読み取りとくらべ、自分の学習を高めようとする。

4. 計画 (9時間)

- 第1次 全文を読み通してあらましをつかむ。…………… (2時間)
- 第2次 段落ごとの要点をおさえ、段落相互の関係をとらえる。…………… (5時間)
- 第3次 皮ふはどのようにしてわたしたちの体を守っていたのでしょうか。… (本時分)
- 第4次 文章の組み立てを考えて説明的文章を書く。…………… (1時間)

5. 本時の目標

- 全文を読み直し、皮ふの仕組みとはたらきについてそのすばらしさをグループで話し合い感動を深め、説明的文章の組み立ての骨子を知る。

6. 展 開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考
<p>1. 予習課題の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>皮ふは、どのようにしてわたしたちの体を守っていたのでしょうか。</p> </div>	<p>前時の特に感心したことをおさえ、本時の導入とする。</p>	<p>一斉</p>
<p>2. 課題についてグループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習してきた自分のシートを見て発表する。 ・自分の考えと他人の考えとを比べながら意見交換する。 ・グループでまとめを用紙に書く。 ・グループでまとめを用紙に書く。 <p>3. 皮ふはどのようにして体を守っていたのか発表し意見を交換する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・②～⑦ 刺激と感覚 ・⑧～⑩ 紫外線とメラニン色素 ・⑪～⑬ 汗と体温 <p>4. 文章構成を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き出し ・説 明 ・結 び 	<ul style="list-style-type: none"> ◦体を守る皮ふについてまとめて説明している段落をも考えさせる。 ◦机間巡視しグループの話し合いの様子をチェックし、参加できにくい子どもには話しかける。 ◦用紙には、要領よく仕組みとはたらきをまとめるように留意して書かせる。 ◦意味段落ごとに、グループで発表し話し合わせる。 ◦活動（話す、読む、書く）する者が、かたよらない様配慮する。（全員参加） ◦文章の組み立てが、書き出し・説明・結びに分かれていることを、板書により、気付かせる。 ◦学習したことをもとに次時の説明的文章を書こうと興味づける。 	<p>バズ</p> <p>用紙</p> <p>一斉 段落ごとの シート</p>

第5学年1組 理科学習指導案

指導者 阿部和夫

1. 単元 酸素と二酸化炭素

2. 趣旨

- 本単元では、酸素や二酸化炭素を作って、捕集させ、その性質を調べ、気体についての質的な見方を深めることがねらいである。この過程を通して観察実験のめあてをもたせ、気体の性質や変化の規則性を発見することに興味を持たせるとともに自然への関心を深めることをねらっている。
- 児童は、2年で目に見えないが空気が存在すること、3年では空気には弾性があること、4年では空気の体積は温度によって変化すること、5年では“火と空気”で物が燃えるには空気が必要であること、空気の量が多い方が長く燃えること、燃えるときの仕組みや空気の質変化や空気が混合物であることを学習している。しかし、酸素や二酸化炭素の性質や発生方法、捕集については、誰も知らない。また、実験観察の面では、活動は好むが観察力が十分身につけておらず、めあてを持たない活動におちいる傾向があり、自主的に規則性を発見しようとする態度にも乏しい。
- そこで、酸素の中では、空気中よりも物が激しく燃えることや、含まれる酸素の割合が変わると物の燃え方が変わることから、酸素の助燃性をとらえさせ、二酸化炭素の性質を調べる活動を通し、気体にも重さがあることを確かめさせる。自主的に自然に問かけの子の育成のため、展開にあたっては、演示実験で事象提示し、それに疑問を持ち、解決する方法を考え、検証しあって自然のきまりを発見していくようにしたい。

3. 目標

- 酸素、二酸化炭素を発生させ、捕集させる。
- 酸素の中では空気中よりも物が激しく燃えることや含まれる酸素の量が変わると物の燃え方が変わることから、酸素の物を燃やす働きをとらえさせる。
- 二酸化炭素の性質を調べる活動を通し、気体にも重さがあることに気づかせ、二酸化炭素は空気より重いことを確かめさせる。
- 酸素、二酸化炭素を実験的に作る活動を通して、器具や薬品などを正しく扱う技能を伸ばし、安全に注意する態度を養う。
- グループ内で自分の考えや意見を交換し合うことができるようにさせる。

4. 計画 (10時間)

- 第1次 酸素の製法と性質 (4時間)
- 第2次 二酸化炭素の製法と性質 (3時間)

第1時 二酸化炭素を発生させ、捕集しよう。

第2時 石灰水を白く濁らせてみよう。

第3時 二酸化炭素の重さを調べよう。…………… (本時分)

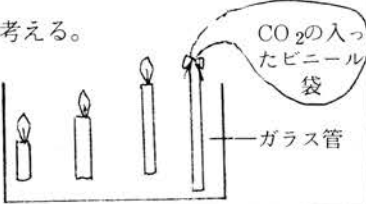
第3次 空気中の酸素と二酸化炭素 …………… (1時間)

第4次 まとめと発展 …………… (2時間)

5. 本時の目標

- 二酸化炭素と空気の重さを比べる方法を工夫し実験することができる。
- 二酸化炭素は、空気より重いことがわかる。
- グループで協力して調べることができる。

6. 展 開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考
<p>1. 演示実験を見て二酸化炭素の性質を考える。</p>  <p>二酸化炭素が空気より重い気体なのかどうか調べてみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 演示実験から短いろうそくから消えていくことに問題意識を持たせる。 ◦ 個人でノートに書かせ、発表させる。 	
<p>2. 二酸化炭素が空気より重いかどうかを確かめる方法を考え発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • てんびんを使って • といを使って • 水そうを使って <p>3. 実験し、結果をまとめ発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 二酸化炭素を入れた方のてんびんが下ったから…… • 上の方のろうそくから消えたから…… • 短いろうそくから消えたから…… <p>4. 次時の課題を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 方法を多面的に考えさせる。 ◦ 方法だけでなくその理由付けもさせる。 <p>(評価) 協力して実験しているか。 (評価) 二酸化炭素は空気より重いことがわかったか。</p>	T.P.

第6学年3組 理科学習指導案

指導者 深津 さい子

1. 単元 水溶液

2. 趣旨

- 本単元では、アルミニウムのような金属までも溶かしてしまう水溶液があり、また、炭酸水のように気体が水に溶けているものもあること、そして、水溶液には、酸性・中性・アルカリ性のものがあることを確かめ、水溶液についての認識を広め、深めることをねらいとしている。
- 児童はこれまでに、水がいろいろな物質を溶かし込むことのできるすぐれた溶媒であること、また、析出や蒸発によって溶け込んでいる物質を取り出すことを学習してきた。下の表が示す通り、実験をすることは好むが、予想について話し合ったり、実験結果を考察するのは苦手である。

理科学習で好きなおところに○をつけなさい 好き(人) 35人中

予想する	みんなと話し合う	実験する	結果について考える	先生の説明を聞く
9	8	3 4	6	7

- そこで、児童の発想を大切にしながら実験をすすめる一方、実験が興味本位に流されぬよう、実験結果の考察・まとめを重要視していきたい。他グループの考えをしっかりと聞き、自分達と比較し、討論していく中で、科学的な思考を深めていきたい。

3. 目標

- 水溶液には、酸性・中性・アルカリ性のものがあることに気付かせる。
- 酸性やアルカリ性の水溶液の中には、アルミニウムのような金属をも溶かすものがあることに気付かせる。
- 水溶液の中には、炭酸水のように、気体が水に溶けているものもあることに気付かせる。
- 実験器具・薬品を正しく使用できるようにさせる。
- 個人やグループの考えを尊重しながら、科学的思考を深めさせる。

4. 計画 (9時間)

- 第1次 いろいろな水溶液 (4時間)
- 第2次 水溶液の性質 (2時間)
- 第3次 気体の溶けた水溶液 (3時間)
 - 第1時 炭酸水から出るあわの正体 (本時分)
 - 第2時 あわの正体を実験を通して確かめる
 - 第3時 炭酸水を作る

5. 本時の目標

- 炭酸水から出るあわが何であるか予想し、それを確かめる実験装置を考えることができる。
- グループで意見を出し合い、協力し合える。

6. 展 開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考
1. 炭酸のぬけたコーラとそうでないコーラを見比べる。	<ul style="list-style-type: none"> ◦ あわの有無に着目させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> あわを捕えて、その正体を確かめよう。 </div>	コーラ
2. あわの正体を予想する。 3. 予想した気体の検証法を考える。 4. 実験方法を考えて発表する。 5. 次時の課題を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ◦ あわの出る飲み物を炭酸清涼飲料ということから、容易に二酸化炭素(炭酸ガス)を予想することはできるであろうが、その他、水素や酸素であるかもしれないという発想も消えてしまわないようにする。 ◦ 今までに学習したことを思い起こさせる。 ◦ できるだけ多く다させて、あとで、グループで選択するようにする。 ◦ 各種の炭酸飲料を用意しておき、各グループで選ばせる。 ◦ グループ毎に、あわの捕え方、確かめ方を考えて、T.P.に書き発表させる。 ◦ 必要な実験器具・材料なども考えさせておく。 ◦ 他のグループの考えを、自分たちと比較しながら聞かせ、質問もできるようにさせる。 (評価) グループ内で自分の意見を出し、協力しているか。 ◦ 次時は、実験装置を組み立てて、気体を捕集して調べることを知らせる。 	ビール サイダー コーラ 炭酸水 ファンタなど T.P.

学 习 指 导 案

姫路市立高丘中学校

○公開授業

授 業 場 所	授 業 者	教 科	単 元 (内 容)
1-1 教室	平 位 隆 昭	L . M	生 活 バ ズ
1-2 "	増 田 俊 子	国 語	文法の学習-単語の分類とその特徴-
1-3 "	平 石 和 穂	社 会	武家政治の展開-元の襲来とアジア諸国の進展-
1-4 "	加 茂 久 代	L . M	生 活 バ ズ
1-5 "	田 中 智 也	数 学	一 次 方 程 式
1-6 "	福 田 聖 子	美 術	自然物による平面構成
1-7 "	中 島 厚	道徳・同和	人 権 に つ い て
1-8 "	玉 城 一 美	学指(進路)	2.身近な進路 (1)働くということ
2-1 音楽室(1)	堀 内 君 子	音 楽	「夢は大空を駆ける」
2-2	河 野 隆	学指(進路)	2.将来の自分の職業(2)自分に合いそうな職業調べ
2-3	新 土 香 代	L . M	復 習 バ ズ
2-4	中 尾 久 幸	英 語	Lesson 6 Akio goes to school in San Francisco
2-5・6 木工室	山 岡 義 則	技 術	折りたたみ腰掛の製作
2-5・6 被服室	綾 部 佳 子	家 庭	スマックの本縫い-見返しによるえりのしまつ-
2-7	白 髪 至 保	道徳・同和	命の大切さを知る(ああ飛騨が見える)
2-8	松 田 順	L . M	生 活 バ ズ
3-1	森 高 省 治	L . M	生 活 バ ズ
3-2	尾 田 悦 子	国 語	詩 を 味 わ う
3-3・4 運動場	吉 川 善 廣	保 体	陸上競技(走り幅とび)
3-3・4 格技場	児 林 富 代	保 体	器械運動(マット運動)
3-5	朝 山 照 美	数 学	円周角の定理を使って
3-6	才 田 覚	学指(進路)	3.進 路 相 談
3-7	賀 川 栄	L . M	復 習 バ ズ
3-8 理科室(1)	黒 田 哲 郎	理 科	電流によってどのような磁界ができるか

- 研修講座の場所……………(A) 体育館
- 一般会員昼食場所……………(A) 体育館
- 分科会打ち合わせ場所…(B) 南校舎3 F 視聴覚室
- 分科会会場
 - ① 学 級 経 営……2-1 教室(個をみとめ、個を生かした学級づくり)
 - ② 教 科 学 習……2-2 " (自主的協力的な学び方の育成と個に応じた指導)
 - ③ 特 別 活 動……2-3 "(生活規律の向上と活性化をめざし、やる気と抑制力を高める)
 - ④ 道徳・同和教育……2-4 "(人の心がわかり、共に生きる生徒の育成)
 - ⑤ 進 路 指 導……2-5 "(目標をもち自己実現をめざす生徒の育成)
 - ⑥ 地 域 教 育……2-6 "(地域の教育力の開発と活用)

第1学年1組 L.M.（生活バズ）指導案

指導者 平 位 隆 昭

1. 個を生かす集団

みんなでやり遂げた喜びを感じ、チーム・プレーの大切さを体験させることから、人間関係の基本を身につけさせるとともに、一人一人の良さを生かし、伸ばしていく学級集団の育成をはかる。

2. 学級の実態（一学期の前半）

清掃、班新聞の作成、野外活動などを観察していると、自分勝手な行動が目立ち、人のことを考える心の広さはない。自分だけが良く見られ、ほめられることを、望んでいる状態で全体観に欠ける。私語が多くみんなに迷惑をかけることに気づいていない。またいじめが存在し、一人の女子生徒が野外活動の班編成で孤立の状態が見られた。さらに、掃除などは、さぼりたい気持ちが優先し、義務を遂行しないで権利を主張することが多かった。友だちが欠席していても知らぬ顔、また班長であっても生活ノートの収集を忘れることが多くリーダーとしての自覚に欠ける状態であった。

3. 取り組みの概要

共に支え合わないといけない共同作業（清掃活動、班新聞の作成、野外活動、昼食、学級旗の作成、日番活動）を積極的に押し進め、集団生活のしつけ、リーダー研修、人間関係の基本の指導、また個人ノートを読んで聞かせるなど、お互いが助け合い、励まし合い、そして話し合いを通じて自治を体験させてきた。わずかではあるが、体育大会、新聞コンクールなどみんなでやり遂げた喜びを共に味わい、集団の中で認められ、個人の良さを生かす機会にも恵まれた。また、表面化していたいじめが影をひそめ、学級に花を持ってくるとか、おそくまで残って学級旗の制作に協力するとか、いじめられていた子を積極的に自分のグループに引き入れたり、欠席生徒への連絡を行なったりできるようになった。しかし、まだまだ友だちの良さを認め、支えて伸ばすような状態には至っていない。努力して積み上げた個の成果を共に讃え、みんなでやり遂げた喜びを味わうことを、一つでも多く体験させたいと考えている。

4. 活動の過程

生徒の活動	教師の援助と指導	活動形態
<p>◦男女間のまとまらない原因について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>毎日の生活の中で</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦女子から男子への言いぶん ◦男子から女子への言いぶん </div>	<p>◦前回の討議の中で出された、今のクラスの実態の一つである、男女がバラバラであることに焦点をあて、みんなが仲よくしなくてはいけないと話し合ったことに反して仲よくできていない原因を追求させる。</p>	一斉
<p>◦それぞれの言いぶんについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ◦言いぶんの背景について ◦賛成、反対、修正意見など </div>	<p>◦男子と女子といった性差を意識し、きめつけて考えている内容について、男子とか女子ではなくて、人間として、お互いに気をつけなくてはいけない事柄であることに気づかせる。</p>	一斉
<p>◦「なぜ男女仲よくしないといけないのか。男は男どうし、女は女どうし、仲よくなればそれでいいのではないか」について全体で考える。</p>	<p>◦現実の社会は男女が共に支えあわないと生きて行けないし、互いの長所を知ることによって、自分も高まることに気づかせ、また多くの友だちから認められ、励ましを受ける方がどれだけ心強いかわ知らせる。</p>	班
<p>◦男子でも、女子でも仲よくしたい子について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ◦うれしかったことがら ◦心に残ったことがら </div>	<p>◦人間関係の基本について、また集団生活で気をつけることの指導を思い出させる。</p>	一斉
<p>◦文集の1年7組のようなクラスにするには男女がお互いにどうした点に気をつければいいのかを考える。</p>	<p>◦それぞれの言いぶんとして出された意見を自己点検させ、一人一人の反省からお互いが気をつけなくてはいけない点を発表させる。</p>	班
<p>◦E.M. ◦黙書◦相互点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦明日の目標決定 ◦明日の連絡◦欠席者への連絡 ◦係からの連絡、調査 		一斉 班

国語科学習指導案

指導者 増田 俊子

1. 学 年 第1学年

2. 単 元 文法の学習（単語の種類）

3. 目 標

(1) 認知目標

- ① 単語とはどんな単位であるか認識させる。
- ② 単語を文法的性質によって分類させる。

(2) 態度目標

- ① 単語に興味を持たせることにより、日常の言語生活を豊かにさせる。
- ② グループの中で協同して学ぶ態度を育てる。

4. 下位目標

- ① 言葉の最小単位が単語であることを知る。
- ② 一文節一自立語であることに気づかせる。
- ③ 単語は自立語、付属語に大別されることを理解させる。
- ④ 単語を分類し、それぞれどんな特徴を持っているか整理させる。
- ⑤ 活用のある単語とない単語を見分けさせる。

5. 学習計画 （6時間）

時	学 習 課 題	生 徒、 教 師 の 活 動	評 価	時 間
1	<ul style="list-style-type: none"> ○学習計画を見通す。 ○プリテスト ○言葉の最小単位はどんなものだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習計画を説明する。 ○プリテストをする。 ○単語が言葉の最小単位であることをおさえる。 	発 表	10分
				30分
	<ul style="list-style-type: none"> ○一語で一文節を作ることのできる 	<ul style="list-style-type: none"> ○自立語とはどんなものかおさえ 	机間巡視	25分

2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単語を見つけよう。 ○ 自立語の後についている単語を見つけよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人思考→バズ ○ 付属語とはどんなものかおさえる。 ○ 個人思考→バズ 	発表 机間巡視 発表	25分
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自立語を9つのグループに分けよう。 ○ 分類した自立語のグループはどんな特徴を持っているだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 連体詞、感動詞、副詞の分類に注意させる。 ○ 意味の上や働きの上から整理させる。 	机間巡視 発表 相互評価 発表	25分 25分
4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 分類した自立語のグループの品詞を考えよう。 ○ 自立語が他の単語に続くとき、語形はどう変わるだろうか。 ○ 活用のある自立語にはどんなものがあるだろうか。 ○ 活用のない自立語にはどんなものがあるだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書やドリルで調べておく。 ○ 個人思考→バズ→全体討議 ○ 活用するとはどういうことかを知る。 ○ ノートに整理させる。 ○ ノートに整理させる。 	発表 机間巡視 発表 机間巡視 発表 机間巡視	5分 15分 15分 15分
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 付属語を2つのグループに分けよう。 ○ 品詞の分類表を完成させよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活用のあるものとないものに分類させる。 ○ 助動詞と助詞を知る。 ○ プリントに整理させる。 	机間巡視 発表 相互評価	15分 35分
6	○ ポストテスト	○ ポストテストをする。		50分

プリントテスト(文法の学習)

一、言葉の最小単位は何か、答えなさい。

二、次の文について後の問いに答えなさい。

①春風が そよそよと 吹く。

②私は よく あの 道を通る。

③快い 春風ノ

④そのの 君ノ こっちへ来なさい。

問い1 一語で一文節を作ることのできる単語を抜き出さなさい。

問い2 自立語の後についている単語を抜き出さなさい。

三、次の単語について後の問いに答えなさい。

①動く ②きれいだ ③本 ④が ⑤だから ⑥まあ ⑦られる ⑧読む ⑨学校

⑩美しい ⑪ゆっくり ⑫あの ⑬楽しい ⑭いいえ ⑮を ⑯かれ ⑰正確だ

⑱それ ⑲しかし ⑳この ㉑きっと ㉒せる

問い1 自立語を抜き出さなさい。

問い2 自立語を9つのグループに分けなさい。

問い3 分類した自立語のグループの特徴をそれぞれ書きなさい。

問い4 分類した自立語のグループの品詞をそれぞれ書きなさい。

四、次の自立語が下の単語に続くとき語形がどう変わるか、()に書きなさい。

①走()らない。②走()ます。③走()とき。④走()ば。⑤走れノ

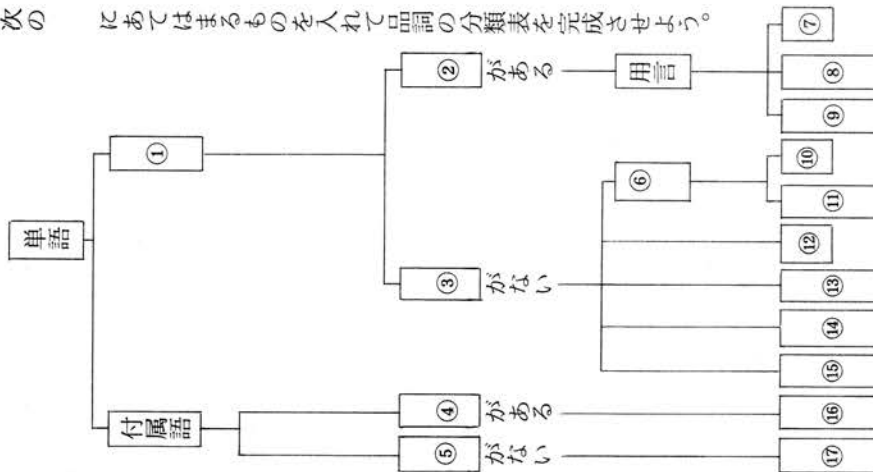
⑥静か()う。⑦静か()た。⑧静か()なる。⑨静か()ば。

五、活用のある自立語を問題3の単語の中から抜き出さなさい。

六、活用のない自立語を問題3の単語の中から抜き出さなさい。

七、問題3の付属語を2つのグループに分けなさい。

八、次の にあてはまるものを入れて品詞の分類表を完成させよう。



第1学年2組 国語科学習指導案……第3時

指導者 増田俊子

1. 題材 文法の学習（単語の種類とその特徴）

2. 本時の目標

- 班で協力して、自立語を9つのグループに分類させる。
- 9つのグループの特徴を整理させる。

3. 指導過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価	時 間
<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の復習 ○ 本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自立語、付属語がどんなものであるか思い起こさせる。 		5分
課題……40語の単語の中から自立語を抜き出さない。			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 話し書き学習でプリントをする。 バズ→発表 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日ごろ発表できない生徒が積極的に手を上げられるように班で協力させる。 	机間巡視 発 表	10分
課題……自立語を9つのグループに分けなさい。			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 班で話し合いながら分類する。 個人思考→バズ→発表→全体討議 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 机間巡視して、連体詞、感動詞、副詞の分類について適時指導する。 	机間巡視 発 表	15分
課題……9つに分類したそれぞれのグループの特徴を整理しなさい。			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 意味の上や働きの上から整理する。 ○ 次時の予告を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全員がきちんと整理できるよう相互評価させる。 ○ 自立語の9つのグループの品詞を考えてくることを指示する。 	相互評価	14分 3分

社会科学学習指導案

指導者 平石和穂

1. 学年 第1学年

2. 単元 武家社会の展開（元の襲来とアジア諸国の進展）

3. 目標

(1) 認知目標

- ① 大陸におけるモンゴル民族の活動について簡単に扱うとともに、元寇が後の鎌倉幕府に及ぼした影響を理解させる。
- ② 鎌倉幕府の滅亡から室町幕府の成立までのあらましと、日明貿易の様子を理解させる。

(2) 態度目標

- ① 地図や資料をすすんで活用したり、調べたりする態度を養う。
- ② 友達の意見を聞き、協力して課題を解決していくとともに、自分の意見をすすんで発表できる態度を養う。

4. 下位目標

- ① モンゴル帝国の成立過程を理解させ、世界史的な影題について考えさせるとともに、その支配のしくみを理解させる。
- ② 2度の来攻のようすを理解させ、なぜ日本の武士団が元軍を退けることができたかを考えさせる。
- ③ 鎌倉幕府が滅んだわけを考えさせる。
- ④ 建武の新政が失敗した理由と、南北朝の内乱についてまとめさせる。
- ⑤ 守護大名成立の過程や室町幕府のしくみを理解させ、幕府と守護大名の関係について考えさせる。
- ⑥ 倭寇の動きを中心にしながら、14世紀の東アジアにおける貿易の発展に気づかせる。
- ⑦ 明の成立と日明貿易について理解させる。

5. 学習計画（7時間）

時	学 習 課 題	生徒、教師の活動	評 価	時間
1	○プリテスト ○学習計画を見通す。	○プリテストをする。 ○学習計画を説明する。	机間巡視	30分 20分

2	<ul style="list-style-type: none"> ◦モンゴル帝国の成立過程をまとめよう。 ◦元の政治のしくみをまとめよう。 ◦高麗の抵抗のようすをまとめよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦教科書をもとにまとめる。 ◦教科書を参考にまとめる。 ◦補足説明する。 	発表	15分
				20分
3	<ul style="list-style-type: none"> ◦元軍が日本を襲ったのはなぜだろう。 ◦2度の来攻のようすをまとめ、なぜ元軍が敗退したかを考えよう。 ◦3度目の来攻計画を中止したわけをまとめよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦資料をもとに原因を考えさせる。 ◦教科書・OHP・図表などで考えさせる。 ◦教科書を参考にまとめさせる。 	発表	15分
			相互評価	20分
			発表	15分
4	<ul style="list-style-type: none"> ◦鎌倉幕府が滅亡したわけをまとめよう。 ◦建武の新政が失敗したわけを考えよう。 ◦南北朝に分かれたわけをまとめよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦資料・教科書を参考にまとめる。 ◦失敗の原因を班で話し合う。 ◦教科書をもとにまとめる。 	発表	20分
			机間巡視	20分
			発表	10分
5	<ul style="list-style-type: none"> ◦守護と守護大名のちがいを調べよう。 ◦室町幕府のしくみをまとめよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦資料・教科書をもとにまとめる。 ◦教科書・資料の図表をもとにまとめる。 	発表	20分
			発表	30分
6	<ul style="list-style-type: none"> ◦明の成立過程と政治のようすをまとめよう。 ◦幕府が勘合貿易をおこなったわけを調べよう。 ◦朝鮮国、琉球国の成立過程をまとめよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦教科書によってまとめる。 ◦補足説明する。 ◦教科書を参考にして、班で話し合う。 ◦教科書からまとめる。 ◦補足説明する。 	発表	15分
			机間巡視	20分
			発表	15分
7	<ul style="list-style-type: none"> ◦ポストテスト ◦疑問点について質問する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ポストテストをする。 ◦まとめをする。 		50分

プリテスト

1. 次の問いに答えなさい。

- (1) 13世紀にモンゴルを統一し、大帝国を築いたのはだれか。 ()
- (2) 国号を元と改め中国全土をも支配したのはだれか。 ()
- (3) (2)の人物によってほろぼされた中国の王朝名を書け。 ()
- (4) (2)の人物につかえ「東方見聞録」を書いたヨーロッパ人はだれか。 ()
- (5) 1274年、元軍が博多に上陸し、日本が苦心した戦いを何というか。 ()
- (6) 1281年、元軍はふたたび北九州へ攻めてきたが、この時の戦いを何というか。()
- (7) 元軍の襲来のときの執権はだれか。

2. 元軍が日本侵略に失敗した理由を書け。

()

3. 次の問いに答えなさい。

- (1) 御家人の生活を救うため幕府が出した法令を何というか。 ()
- (2) 幕府のおとろえを見て、政権を朝廷にとりもどそうとした天皇はだれか。 ()
- (3) (2)の天皇に味方して幕府をとおした有力な御家人を1人あげよ。 ()
- (4) 幕府をたおした後、(2)の天皇を中心に行われた政治を何というか。 ()
- (5) (4)の政治は3年でくずれ、京都と吉野に2つの朝廷ができたが、この時代を何というか。 ()
- (6) 14世紀の末、2つの朝廷を講和させた将軍はだれか。 ()
- (7) (4)の政治が、わずか3年でくずれた理由を書け。
()

4. 次の①～⑤の □ にあてはまる語句を書け。

足利義満は、① □ の室町に邸宅を建て、そこで政治をおこなった。政治のしくみは② □ にならい、将軍の補佐役として、③ □ を置いた。③や侍所の長官には有力な④ □ が任じられ、関東を治めるため⑤ □ が置かれた。

5. 次の問いに答えなさい。

- (1) 「倭寇」の読みと意味を書け。 ()
- (2) 幕府が日明貿易を始めたのはなぜか。 ()
- (3) 日明貿易での主な輸入品を書け。 ()
- (4) 1392年に、高麗にかわって朝鮮半島にできた国を何というか。 ()
- (5) (4)の国で作られた独自の文字を何というか、カタカナで書け。 ()

第1学年3組 社会科学学習指導案……第3時

指導者 平石和穂

1. 題材 元の襲来

2. 本時の目標

- 元寇の起こった理由を考えさせる。
- 2度の来攻のようすを理解させるとともに、元軍が敗退した理由を考えさせる。
- 資料を見て、元寇の理由や様子を知り、元軍の敗退の理由を協力して見つける態度を育てる。

3. 指導過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価	時 間
◦ 前時の復習			3分
◦ 本時の目標を確認する。	◦ OHP等で興味づける。		3分
課題……元軍が日本を襲ったのはなぜだろう。			
◦ 教科書や資料から調べる。 個人思考	◦ 資料が難解なので補足説明して、来攻の原因を考えさせる。	発 表	20分
課題……2度の来攻のようすをまとめ、なぜ、元軍が敗退したかを考えよう。			
◦ 教科書や資料から、戦いのようすや敗退の理由を考える。 個人思考 個人思考 → バズ → 発表 → 全体討議	◦ 戦いについては、OHP・図表などを使い、元軍の戦力が勝っていたことに気づかせる。 ◦ 元軍の敗退の理由が、暴風雨だけでなく武士団の抵抗の根強さがあったことに気づかせる。 ◦ 全員の意見が出るよう配慮する。	発 表 机間巡視 相互評価	
課題……3度目の来攻計画を中止したわけをまとめよう。			
◦ 教科書からまとめる。	◦ 教科書程度とし、あまり深入りしない。	発 表	5分
◦ 本時のまとめをする。	◦ 自分のことばでまとめさせたい。	発 表	6分
◦ 次時の予告を聞く。	◦ 元軍に勝った幕府が、なぜほろんだか興味を持たせる。		3分

第1学年4組 L.M. (生活バズ) 指導案

指導者 加茂久代

1. 個を生かす集団

生活バズを通して、ひとりひとりの学力を高めるための基盤となる“望ましい人間関係”を、クラスの取り組みの中で築きあげていく、学級集団を育成する。

2. 学級の実態

本学級には、権力をふるったりする問題生徒もいなく、まだまだ子供らしい、活気に満ちたクラスである。反面、落ち着きがなく、忘れ物の目立つ男子生徒が数名いるためじっくり授業に取り組めない事もある。また、まだまだ、リーダー養成も不十分で、リーダーシップのとれる生徒が少ない。クラスの目標、各委員会からの目標等が、たくさん掲げられるが、教師に頼りがちで、クラスの高まり、すなわち、ひとりひとりの高まりにつながらない。生活ノートでの自己点検、相互点検においても、班によっては甘さが見られる。厳しさを取り入れた生活バズを進めていく中で、基本的な生活習慣を身につけさせ、さらにひとりひとりの学力が高められる学級集団を育てたい。

3. 取り組みの概要

夏休みに、班長のリーダー研修会を持ち、バズ学習の説明と実践を行った。学級では班長会を開き、問題点、困難点を出し合い、班相互の交流を深め、班活動の高揚を図ってきた。しかし、学校行事の関係もあり、回数も少なく、十分討議できなかった。各自の生活ノートに目を通すことによって気付かぬいじめ問題や、家庭生活、考え方、個性を知ることができ、教師と生徒との信頼関係を深めるのに役立っている。しかし、生徒間での望ましい人間関係が、まだまだ育たず“きびしさ”という点で課題を残している。

今後、さらに班長会議、係会議を定期的に持ち、まずは委員長を中心とする班長の人間関係を深めると共に、リーダーとしての自覚が持てるよう指導していきたい。さらに班長を核として、全員が参加でき、心の通い合う生活バズ、さらに全員がわかる学習バズへと目指し、基盤となる“望ましい人間関係”を築きあげたい。

4. 活動の過程

生徒の活動	教師の援助と指導	活動形態
◦黙想	◦今日一日の生活を振り返らせる。	一斉

<ul style="list-style-type: none"> ◦ 黙書する <ul style="list-style-type: none"> 今日の自己点検、自己反省を生活ノートに記入する。 ◦ 班で生活ノートの相互点検と、今日の生活反省を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 生活・学習・整美・今日の目標等を中心に。 ◦ 各班から総合点を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> (点数は表に記入) ◦ 各班から、話し合った内容を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・良かった点 ・努力した点 ・悪かった点 ・解決方法 ◦ クラス全体で取り上げるべき問題について話し合いを始める。 <ul style="list-style-type: none"> ・目指すものは何か。 ・守れていないものはなにか。 ・工夫すべき所はどこか。等 ◦ 司会者は、決定した事柄を確認させる。または、実際にこの場で実践させてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 静かに自己反省ができるように配慮する。 ◦ 全員の意見、反省が聞けているか。司会の仕方は良いか、に留意し、机間巡視する。 ◦ 発表の仕方、聞き方、相互点検に甘さがないかどうか留意し、後の指導とする。 ◦ 全員が真剣に考え、参加しているか留意し、次の班長会議での課題にする。 ◦ 形式的な約束ごとには陥らないためにも、意欲を出させるような方法を工夫させる。 	<p>班</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◦ E、Mの開始 <ul style="list-style-type: none"> (司会は日番に替る。) ・明日の連絡をノートに記録する。 ・各係からの連絡。 ・明日の目標を決定する。 ・日番の反省と引き継ぎ。 ◦ 先生からの助言 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 全員が記入できているか、確認させる。 ◦ 今日の話し合いの中から、良かった点、明日からの励まし、意欲づけになる感想を述べる。 	<p>一斉</p>

数 学 科 学 習 指 導 案

指導者 田 中 智 也

1. 学 年 第 1 学 年

2. 単 元 方 程 式

3. 目 標

(1) 認知目標

- ① 一元一次方程式が解けるよう方程式とその解の意味を理解させる。
- ② 一元一次方程式を問題解決に利用できるようにさせる。

(2) 態度目標

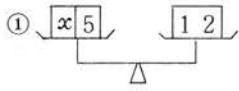
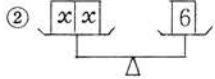
- ① 分かるところ、分からないところをはっきりさせ、互いに教え合えるよう意識を高める。
- ② 応用問題を順序立てて考え、根気強く取りくむ力を身につけさせる。

4. 下 位 目 標

- ① 方程式とその解の意味と、方程式を解くことの意味を理解させる。
- ② 等式の性質を理解し、それによる基本の方程式が解けるようにさせる。
- ③ 移項の意味を理解させる。
- ④ いろいろの形の一次方程式が解けるようにさせる。
- ⑤ 方程式を使って問題を解くことができるようにさせる。

5. 学 習 計 画 (1 2 時 間)

時	学 習 課 題	生 徒 教 師 の 活 動	評 価	時 間
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ プリテスト ○ これから学習すること、学習計画を見通す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習計画の説明(学習のめあてを配布) ○ T_0 を提示 個人 → 班 → 発表 ○ 逆算で解く方法と、方程式をたて 	机間巡視	10分
			発表	25分 15分
	<ul style="list-style-type: none"> T_0 1匹50円の金魚を何匹か買って500円の金魚ばちに入れても 			

	<p>らったら、全部で850円であった。金魚を何匹買ったのだろうか。</p>	<p>て解く方法の両方で解いてみる。</p>		
2	<p>T₁ ある整数を2倍して14をたすと30になるという。</p> <p>① はじめの数をxとして等式をつくれ。</p> <p>② xにあてはまる数はいくらか。</p> <p>T₂ 次の方程式のうち、$x=3$を解とするものはどれか。</p> <p>① $3x - 4 = 8$</p> <p>② $3 + 2x = 3x + 2$</p> <p>T₃ てんびんを使ってxの重さを求めよう。</p> <p>① </p> <p>② </p>	<p>◦個人→発表</p> <p>・方程式の意味を理解する。</p> <p>◦個人→班→発表→まとめ</p> <p>・解の意味を理解する。</p> <p>T₂を提示</p> <p>◦個人→班で確認→まとめ</p> <p>・解の意味の理解を深める。</p> <p>※説明をつけてしっかり押さえる。</p> <p>・T₃を提示</p> <p>班→発表</p> <p>◦等式の性質を説明する。</p>	<p>発 表 5分</p> <p>5分</p> <p>発 表 5分</p>	
3	<p>T₄ 等式の性質を使って次の方程式を解いてみよう。</p> <p>① $x + 3 = 5$</p> <p>② $x - 10 = -5$</p> <p>③ $13 + p = 7$</p> <p>T₅ 等式の性質を使って次の方程式を解いてみよう。</p> <p>① $\frac{x}{5} = 3$</p> <p>② $\frac{x}{3} = -2$</p> <p>③ $3x = 12$</p>	<p>◦前時の復習</p> <p>◦個人→班→発表→全体</p> <p>・等式の性質のうち、どれを使うのかを確認する。</p> <p>◦類題を解く。</p> <p>◦T₅を提示</p> <p>◦個人→班→発表→全体</p> <p>・誤答例をとりあげ、説明する。</p> <p>※遅れている生徒に対して個別指導をする。</p>	<p>10分</p> <p>10分</p> <p>20分</p>	

	<p>④ $-6x = 18$</p> <p>⑤ $\frac{3}{5}x = 6$</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・類題を解く。 	<p>形成評価 テスト</p>	10分
4	<p>T₆ 次の方程式を解いて項がどのように移動しているか考えてみよう。</p> <p>① $x + 3 = 8$</p> <p>② $3x + 5 = 17$</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の復習……班で確認 ○班 → 発表 ・移項の意味を理解する(説明) 	<p>発表 発表</p>	10分
	<p>T₇ 次の方程式を解け。</p> <p>① $2x - 10 = 6$</p> <p>② $7x = 18 + 4x$</p> <p>③ $3x + 2 = 8 - 6x$</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○個人 → 班 → 発表 移項が使えるようになる。 ○類題を解く。 	<p>机間巡視</p>	20分 15分
5	<p>T₈ 次の方程式を解け。</p> <p>① $3(x - 5) = 4x - 1$</p> <p>② $1.2x = 3.5 + 0.5x$</p> <p>③ $\frac{2}{3}x - \frac{1}{2} = \frac{5}{6}$</p> <p>④ $\frac{x+1}{2} = \frac{1}{3}x + 1$</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の復習……班で確認 ○個人 → 班 → 全体 ・係数が、小数や分数の場合の解き方がわかる。 ○類題を解く。 	<p>発表 机間巡視</p>	10分
	<p>T₉ 方程式を解く順序をまとめてみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各自ノートに整理 → 班 → 発表 	<p>形成評価 テスト</p>	10分
6		<ul style="list-style-type: none"> ○練習問題を解く。 <p>教科書 P81</p>		
7	<p>T₁₀ 1,000円持って買い物に行き鉛筆5本と350円の筆箱を買ったら300円残ったという。鉛筆1本の値段はいくらか。</p> <p>① 問題に含まれている数量を書き出そう。</p> <p>② ①であげた数量の関係をこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○①～④を各自考える。 → 班 → 発表 → まとめ ※①～④は別々に取り組み、ひとりずつまとめる。 ・問題を解く手順を簡単にまとめてみる。 	<p>机間巡視 発表</p>	30分

7	<p>ばの式にしてみよう。</p> <p>③ 鉛筆1本の値段をx円として方程式をつくろう。</p> <p>④ 方程式を解こう。</p>	<p>◦ 類題を解く。</p>		20分
8	<p>T₁₁ Aは780円、Bは630円持っていたが、AもBも同じ本を買ったので、Aの残金はBの残金の2倍になったという。本代はいくらか。</p>	<p>◦ T₁₁を提示</p> <p>◦ 個人 → 班 → 全体</p>	机間巡視	15分
	<p>T₁₂ ある商品に、仕入れ値段の20%の利益を見こんで定価をつけておいた。ところが、大売出しで、定価から300円ひいて売ったので利益は仕入れ値段の5%になったという。仕入れ値段を求めよ。</p>	<p>◦ 類題を解く。</p> <p>◦ T₁₂を提示</p> <p>◦ 個人 → 班 → 全体</p>	発表	10分
9	<p>T₁₃ 弟が、2 km離れた駅に向かって家を出てから10分たって、兄が自転車で同じ道を追いかけた。</p> <p>弟の歩く速さは毎分80 m、兄の自転車の速さは毎分240 mであるとすると、兄は出発後何分で弟に追いつくか。</p>	<p>◦ T₁₃を提示</p> <p>◦ 個人 → 班 → 全体</p> <p>・方程式の解が問題に合っているかどうかを調べる。</p>	発表	15分
	<p>T₁₄ 方程式を使って問題を解く手順をまとめよう。</p>	<p>◦ 類題を解く。</p> <p>◦ T₁₄を提示</p> <p>◦ 各自ノートに整理 → 班 → 発表</p>	形成評価 テスト	10分 10分
10 11 12		<p>・練習問題を解く。</p> <p>教科書 P87～P89</p>	ポスト テスト	15分

1. 次の方程式のうち、 $x = 3$ を解とするものをいえ。

① $5x - 8 = 6$ ② $3x - 5 = 7 - x$ ③ $\frac{2}{3}x = 6 - \frac{x}{4}$ ④ $3x - 6 = x$

2. 等式には次の4つの性質がある。下の方程式を解くために、(ア)~(エ)のどの性質を用いたかを記号で答えよ。

$$\left[\begin{array}{ll} \text{(ア)} A = B \text{ ならば } A + C = B + C & \text{(イ)} A = B \text{ ならば } A - C = B - C \\ \text{(ウ)} A = B \text{ ならば } AC = BC & \text{(エ)} A = B \text{ ならば } \frac{A}{C} = \frac{B}{C} (C \neq 0) \end{array} \right]$$

① $x + 5 = 3$ ② $7x = -21$ ③ $-\frac{x}{5} = 4$
 $x = 3 - 5$ $x = -3$ $x = -20$

3. 次の方程式を解け。

① $x - 3 = -21$ ② $-7 + x = 5$ ③ $5x = -15$

④ $\frac{x}{3} = -10$ ⑤ $3x - 8 = 13$ ⑥ $3x - 1 = 2x + 1$

⑦ $3(2y - 1) = 2 + y$ ⑧ $\frac{3}{5}x + \frac{1}{6} = \frac{2}{3}x - \frac{1}{2}$ ⑨ $15 - 0.3x = 6 + 0.2x$

⑩ $\frac{5x - 4}{4} = \frac{x + 7}{2}$

4. ある数の6倍から10をひくと、もとの数の2倍に6をたした数になるという。このとき、次の問に答えよ。

- ① ある数を x として方程式をつくれ。
 ② ①の方程式を解いて、ある数を求めよ。

5. Aが時速15kmの自転車で出発してから40分後に、Bが時速45kmの自転車であとを追いかけた。Bが出発してから何分後にAに追いつくか。

6. りんごを買いに行ったのだが、30個買うには、100円足りなくなるので、2が個買ったところ、350円余った。お金はいくら持って行ったか。

第1学年5組 数学科学習指導案……第4時

指導者 田中智也

1. 題材 方程式

2. 本時の目標

- 移項の意味を理解させ、いろいろな形の方程式を解くことができるようにさせる。
- 分かるところ、分からないところをはっきりさせ、互いに教え合えるよう意識を高める。

3. 指導過程

学 習 指 導	指 導 上 の 留 意 点	評 価	時 間
<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の復習 宿題の解答……班で確認 ○ 本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科係を中心にして活動させる。 ○ 基本的な問題を板書して解かせる。 ○ いろいろな形の方程式の解き方を学習することを知らせ、意欲づける。 	発 表	10分
<p>T₆ 次の方程式を解いて、項がどのように移動しているか考えてみよう。</p> <p>(1) $x + 3 = 8$ (2) $3x + 5 = 17$</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 各自解く → 班 → 発表 ○ 移項の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 解き方(等式の性質を使って)を板書してから、班で考えさせる。(説明) ○ 移項に慣れさせる。 		10分 5分
<p>T₇ 次の方程式を解け。</p> <p>(1) $2x - 10 = 6$ (2) $7x = 18 + 4x$ (3) $3x + 2 = 8 - 6x$</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人 → 班 → 全体 ○ 類題を解く。 → 班で確認 ○ 家庭学習を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 移項の手順に気づかせ、使えるようにさせる。 → まとめの説明をする。 ○ 誤答例をとりあげて検討させる。 ○ 班で解答させ、遅れている生徒に対しては個人指導をする。 	発 表 机間巡視	15分 10分

美術科学習指導案

指導者 福田 聖子

1. 学 年 第1学年

2. 単 元 自然物による平面構成

3. 目 標

(1) 認知目標

- ① 自然物を観察し、その中に新鮮な色や形の美を構成している秩序を発見させる。
- ② 発見した色や形の秩序を生かして、単純化や強調を工夫し、画面の組み立ての構成と配色をさせる。

(2) 態度目標

- ① 身近なものから美を発見し、感じとる力を養い、豊かな生活ができるような態度を身につけさせる。
- ② みんなと協力して、学習目標を達成しようとする意欲をもたせる。
- ③ 互いに作品を鑑賞し、評価する態度を養う。

4. 下位目標

- ① 構成美の要素を理解させる。
- ② 自然物から美しい新しい形を見つけさせる。
- ③ 自然物から平面構成をかかせる。
- ④ 互いに作品の鑑賞、評価をさせる。

5. 学習計画 (11時間)

次時	学 習 課 題	生徒、教師の活動	評 価	時間
第1次 1	○プリテスト ○学習計画を見通す。	○プリテストをする。 ○プリテストの順を追って、学習の流れを説明する。	机間巡視	30分 20分

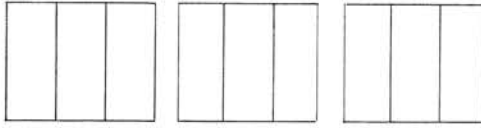
第2次 2	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 構成美の要素にどんなものがあるか。 ◦ 幾何学的な形で構成しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 美術の学習を読み、要素をあげる。 ◦ 例を示しながら説明する。 ◦ プリントに構成する。 ◦ 班で共同作品を作り発表する。 	発表 20分 20分 机間巡視 30分 相互評価 30分 発表
第3次 1 2	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 自然物をよく観察しスケッチしよう。 ◦ 自然物の切断面、分解、拡大した形をスケッチしよう。 ◦ スケッチから美しい、新しい形を見つけてかこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ スケッチブックにスケッチする。 ◦ スケッチブックにスケッチする。 ◦ 単純化や強調の工夫の仕方を例をあげて説明する。 ◦ スケッチブックにかく。 ◦ 班で作品について意見交換をする。 	机間巡視 30分 机間巡視 30分 5分 机間巡視 30分 相互評価 5分
第4次 1 2 3. 4. 5	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 平面構成のアイデアをまとめよう。 ◦ 平面構成の下がきをしよう。 ◦ 色彩の学習の復習をしよう。 平面構成に彩色しよう。	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 前次でみつけた形をラフスケッチしながら、アイデアをまとめていく。 ◦ 班でアイデアについて意見交換をし、アイデアを深め決定する。 ◦ 画用紙に下がきをする。 ◦ スケッチブックの作品やノートを見て、配色や彩色の仕方を確認する。 ◦ デザインセットを使って彩色していく。 	机間巡視 20分 相互評価 10分 机間巡視 30分 相互評価 発表 10分 机間巡視 180分 相互評価
第5次 1	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 学習の反省をしよう。 ◦ 友だちの作品を鑑賞しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 自分の作品についての感想と反省を書く。 ◦ 全作品を展示し、「私が選んだベスト3」をあげ、それぞれの良さを書く。 ◦ 班で集計したものを発表し、作品を相互に批評する。 	自己評価 10分 20分 相互評価 発表 20分

美術科プリテスト

組 氏名

1. 次の感じになるように配色をしなさい。

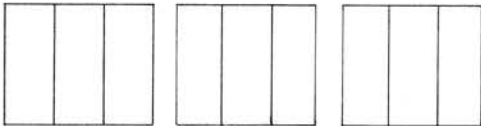
□に色名を書きなさい。



(はで)

(じみ)

(重い)

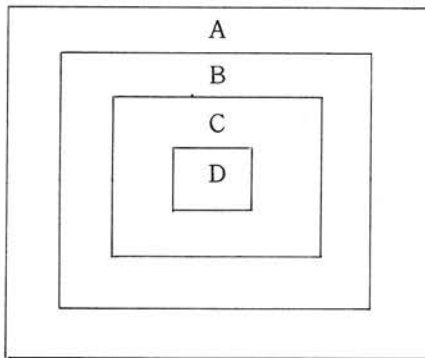


(軽い)

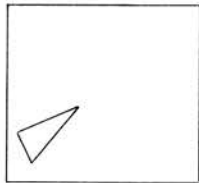
(涼しい)

(暖い)

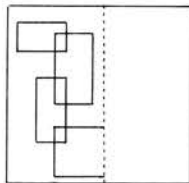
2. 下の図のD面がA面より、だんだん飛び出して見えるように鉛筆でぬりなさい。



3. 下の問いに答えなさい。



(3つの三角形を書き
くわえ、動きをだす)



(左右対称の形を
かく)

4. みかんのそれぞれの形を想像してかきなさい。



(全体の形)



(横に切った時の
面の形)



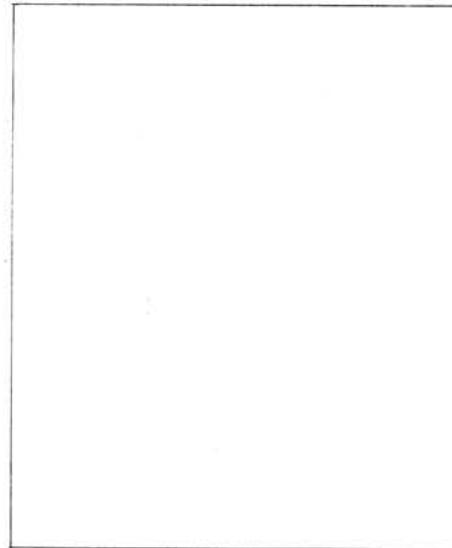
(縦に切った時
の面の形)



(細部、あるいは一
部分を拡大した形)

5. 4の形を大、小まぜてもようをかきなさい。 ※どの形を使ってもよい。

※用紙は、たて、よこ自由



第1学年6組 美術科学習指導案……第4次1時

指導者 福田 聖子

1. 題材 自然物による構成

2. 本時の目標

- 自然物から発見した、美しく、新しい形をつかい、平面構成の下がきをさせる。
- 学習目標を達成するため、お互いに協力して学習させる。

3. 指導過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価	時 間
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 前次の復習 ◦ 本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ スケッチブックを見ながら、前次までの仕事を確認し、本時の目標を明確にする。 ◦ 班で宿題の点検をさせる。 		5分
課題……平面構成のアイデアをまとめよう。			
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 構成美の要素を復習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 課題（1-2）を見ながらアイデアスケッチを煮詰めさせる。 ◦ 発見した形の特徴を生かして構成されているか点検させる。 	机間巡視	10分
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 班で相互に意見を出し合い、アイデアを深め、アイデアを決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 1人の作品に対して班全員が意見を出せるように意見交換のポイントを明示しておく。 	相互評価	15分
課題……平面構成の下がきをしよう。			
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 画用紙に下がきをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ アイデアスケッチを見ながら、下がきをさせるが、スケッチと少し違っても、班内で意見を出し合い、最終的に構成美のある下がきができるようにさせる。 ◦ 班で本時の学習を反省させる。 	相互評価 机間巡視	12分
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 次時の予告を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 準備物等の指示をする。 		3分

第1学年7組 道徳（同和）学習指導案

指導者 中 島 厚

1. 主 題 話し合える学級をめざして（わたしたちの教室）

2. 趣 旨

- 生徒の生活と学習の基盤となる学級が今どのような雰囲気や状況にあるかということは、担任はもちろん学級の一人一人が認識し、問題があればその都度話し合って解決していく学級につくりあげていかねばならない。そのためには、だれもが自由に発言し、話し合える教室でなくてはならない。自分たちの学級を省み、どこが足りないか、今後どうすべきなのかを考え、話し合わせるのに適した教材である。
- 本学級では、入学以来『仲よく、助け合う学級』を目標に、班活動や班日誌、学級だより等で仲間づくりを進めてきたのだが、弱い者に暴言を吐いたり、プロレスの技をかけたりのいじめが後を絶たない。そのことについて生徒の方から問題にすることもほとんどない状況で、リーダーの力も弱く、集団的に協力や団結する力にも乏しい。
- そこで、この資料を使って、自分たちの教室との違いに気づかせ、今まで放置してきた学級の様々な問題を自覚させたい。この機会に利己的な発言や無気力・無関心な態度の膿も出し、一人一人の人権や個性が守られ、意見や発表が正々堂々と言える教室に変えていきたい。

3. 目 標

- 「わたしたちの教室は……」と真剣に自分の学級の実態を考える態度を養い、問題解決をはかろうとする意欲を引き出す。
- 困ったり、悩んだりしている級友のことを、自分たちの学級の問題として考えられ、勇気を出して自分の意見を発表し、話し合うことの大切さを理解させ、その実践的態度を育てる。

4. 指導計画 （3時間）

- 第1時 「わたしたちの教室」から学ぶ
- 第2時 学級の問題点をさぐり、解決への筋道を話し合う
- 第3時 人権を自覚し、今後の学級づくりを考える……本時分

5. 本時のねらい

- 一人一人の持っている人権を知り、不合理や不正に対してあきらめたり、無関心にならず、解決しようという意欲を持たせたい。
- 学級の問題を解決するためにはお互いの人権や個性を尊重し、問題が起これば一人一人の問題としてみんなでまじめに話し合うことの大切さに気づかせる。

6. 資料と準備

- 「わたしたちの人権」プリント

7. 指導過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1. 導 入 ◦ 前時の学習を想起し、問題点と解決法を再確認する。	◦ 前時の学習がその後実践につながっているかを考えさせる。
2. 展 開 ① 人権について知っていることを議表する。 ◦ 人権とは何か ◦ どんな権利を今持っているか ② 学級の問題で、人権が守られてないことはなかったかについて話し合う。 ③ 人権プリントを読み合わせする。 ④ 人権軽視の問題が起こった時、どうすればよいかを考え合う。 ◦ 問題を放置していたのはなぜか。 ◦ 問題に気づいた時、どうすべきか。	◦ 問題が起こった時、話し合いをする時に、何が人権を侵しているか、誰が人権を侵されているかを見極めることが大切なのだということを説明する。 ◦ できるだけ発言を待つが、ここではあまり深入りはせず、関心を持たすだけにする。 ◦ 人を傷つける言動のあったことに気づかせ、人権を侵す人、侵された人の各立場について考えさせる。 ◦ 理解しにくい所には線を引かせ、質問させる。 ◦ 今までなぜ問題にならなかったのかを考える中で、欠けていた点を見つけさせる。 ◦ 一人一人が学級をよくしたいという気持ちを持って、勇気を出して発言することが大切であることを気づかせる。
3. ま と め ◦ 各班でお互いの人権や個性を守ることの大切さを話し合い、発表する。	◦ みんなで決めたことはみんなで守ろうという再スタートの決意とする。

第1学年8組 学級指導指導案

指導者 玉城 一 美

1. 主 題 働くということ

2. 趣 旨

- 複雑で多様化された社会の中で、生きがいを持って社会生活をいとむためには、しっかりと働く意義や目的を持っていなければならない。身近なところで働く人々のようすを調べていくことにより、将来の職業を選ぶ手だてとして活用し、進路選択の資料とするのに適している。
- 本学級の生徒のほとんどが進学希望であるが、将来の職業につながる進路校の選択さえできていない。また、労働に対する心がまえも安易なところがあるため日常生活で、自分を伸ばそうとする努力がなされていない。
- 上のようなことから、各自の希望を実現させるためには、今の生活をどのように改善し努力すべき点は何かをつかませたい。また自分の能力や適性を考えてその伸長をはかり将来に展望を持った生活態度を養わせたい。

3. 目 標

- 働くことの意義や目的を理解させる。
- いろいろな職業の特性を理解させる。
- 希望実現のために努力していこうとする態度を育てる。

4. 指導計画 (2時間)

第1時 働くということ……………(本時分)

第2時 いろいろな進路

5. 本時の目標

「身近な人の働くようす」より働くことの意義や楽しさを知り、自分の将来の職業に興味関心を持たせたい。

6. 準 備

進路学習ノート、進路の手びき、プリント

7. 指導過程

生徒の活動	指導上の留意点	備考
<p>1. 導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標を確認する。 <p>2. 展開</p> <p>(1) グループで発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各班で調べたことをまとめて発表させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・内容をまとめ表をつくる。 ・各班毎に発表する。 ○自分の考えをまとめる。 <p>(2) 発表をもとに、自分の希望している職業に対する考えをまとめ、班内で意見交換をする。</p> <p>3. まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○(2)で話し合ったことを進路学習ノートの②、③にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表する職業にかたよりのないか気をつける。 ○職業に上下や貴賤のないことをおさえる。 ○働く意義や目的には、いろいろあることを考えさせる。 ○労働の厳しさを理解させるとともに楽しさやその中に生きがいを見出す姿に気づかせる。 ○自分の希望している職業につくためにどんな点に努力していったらよいのか考えさせる。 ○具体的な計画をたて、自分の進路についてわからないところや疑問点をみつけさせ次時へのつなぎとする。 	<p>プリント</p> <p>進路学習 ノート</p>

音楽科学習指導案

指導者 堀内君子

1. 学年 第2学年

2. 単元 「夢は大空を駆ける」

3. 目標

(1) 認知目標

- ① アルトリコーダーの視奏により、正しいリズム、音程で表現出来るようにさせる。
- ② 合唱への興味を持たせ、美しい音楽を表現しようとする心情を育てる。
- ③ 歌唱力を伸ばし、歌う意欲を高める。

(2) 態度目標

- ① 合唱や、リコーダーの視奏を通して、お互いの理解を深め、協力しあう心を育て、合唱（合奏）する態度や習慣を養う。
- ② 美しいハーモニーを作る努力や、合唱を完成させる楽しさを養う。

4. 下位目標

- ① 範唱を聞いて、旋律の大意を理解させる。
- ② リズム読みをし、アルトリコーダーで演奏させる。
- ③ 詩を朗読し、理解させる。
- ④ 休符、省略記号、曲想記号等を理解させ、表現の仕方を工夫させる。

5. 学習計画 (5時間)

時	学 習 課 題	生徒、教師の活動	評 価	時間
1	◦レコードにより本曲の鑑賞をしよう。	◦旋律の大意を知らせる。	機関巡視 相互評価	15分
	◦プリテスト	◦学習計画を説明する。		20分
		◦プリテストをする。(個人→班) ◦奏法の所は指示に合わせ指使いをさせる。		15分

2	<ul style="list-style-type: none"> リズム読みをし、アルトリコーダーで演奏出来るようにしよう。 臨時記号の音を調べ正しい奏法を調べよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 発声練習をする。 部分リズム唱をする。 へ音譜表の楽譜のよみ方を理解させる。 	相互評価	6分
		<ul style="list-style-type: none"> 階名をつける。 (個人→班で答え合わせ) 変化する音に印をつけさせる。 アルトリコーダーで練習 (全体→班) 班で発表 	机間巡視	7分
			相互評価	20分
			発表	7分
3	<ul style="list-style-type: none"> Bの部分の曲の感じがどう変わったか調べよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 発声練習をする。 部分リズム打ちをする。(全体→班) パート練習をする。 (パートリーダー中心) パートに分れたままでAから三部で合わせる。(オルガンで補助する) 	机間巡視	10分 7分 15分
			相互評価	18分
4	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞をよみ、詩の気分をくみ取ろう。 曲想記号を理解し、表現の仕方を工夫しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 詩を朗読し、内容を理解させる。 班で確認させる。 パート練習 	相互評価	10分
			机間巡視	15分
				25分
5	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞し、自分たちの合唱と聞き比べよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 発声練習をする。 パート練習…パートリーダーがチェックして重点となることながらを発表する。 レコードの混声三部合唱を聴く。 鑑賞した合唱の良い所を取り入れて合唱する(→録音→再生) 	発表	10分 25分
			相互評価	8分 7分
5	<ul style="list-style-type: none"> 合唱作り ポストテスト 	<ul style="list-style-type: none"> 発声練習をする 合唱仕上げ ポストテストに取り組む 	机間巡視	10分
			発表	20分
				20分

第2学年1組 音楽科学習指導案……第5時

指導者 堀内君子

1. 題材 「夢は大空を駆ける」

2. 本時の目標

- 合唱を通して、お互いの理解を深め、協力しあう心を育てる。
- 自分たちや他のグループの合唱をきいて、ハーモニーを感じとり、合唱の楽しさを味わわせる。

3. 指導過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価	時 間
◦ 発声練習	◦ 正しい姿勢を保たせる。 ◦ 腹式呼吸を確かめさせる。	相互評価	10分
課題……既習の学習事項を確かめ、それが身につくように努力しよう。			
◦ パート練習 パート——バズ——発表	◦ パートに別れてパートリーダーに最終チェックさせて、重点となることながら発表させる。	机間巡視	25分
◦ 「夢は大空を駆ける」のレコードを鑑賞する。 個人思考——バズ	◦ 感じたことを簡単にメモさせる。		7分
課題……レコードの合唱の良いところを取り入れて歌おう			
◦ 混声三部合唱	◦ 鑑賞したばかりの合唱のよいところを1箇所でも取り入れて合唱させる。 ◦ 次時への予告	発 表 相互評価	5分 3分

第2学年2組 学級指導指導案

指導者 河野 隆

1. 主題 将来の自分の職業

2. 趣旨

- 現代の社会にきちんと適応し、生きがいを持って社会生活をしていくためには、自分にあった職業を選ぶことが不可欠である。ここでは、人間が働く意義を考え、自分にあう職業を調べ、自分にあう職業につくにはどういうことに努力すれば良いか考えさせる題材である。
- 本学級のほとんどの者が高校進学を考えているが、高校を進学したあとのことまで真剣に考え、どんな職業につきたいのか考えている生徒は少ない。
- ここでは将来を見すえて正しく自己を理解させ、自分の能力・適性を考えさせ、自分の将来への関心を持たせ、自分の進路設計にそって努力しようとする態度を養うようにさせたい。

3. 目標

- 働くことの意義・喜びについて理解させる。
- 本当に自分を生かす立場から、能力・適性を考え、どんな仕事をするのが自分に一番向いているのか理解させる。
- 自分に向いていると思われる職業につくためには、これからどういうことに努力をしていけば良いのか考えさせる。

4. 指導計画 (3時間)

第1時 職業と人間の価値

第2時 自分にあった職業さがし……(本時分)

第3時 目標達成のための努力事項

5. 本時のねらい

- 自分の能力・適性をよく考えさせ、自分がつきたい職業についての知識を理解させる。

6. 資料と準備

進路学習ノート・進路の手びき・プリント

7. 指導過程

生徒の活動	指導上の留意点	備考
<p>1. 導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 自分にあいそうな職業の種類や名称を考え、その職業を選ぶ理由を考える。 <p>2. 展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 1で考えた職業の仕事の内容はいつたいどういうものか具体的に考える。 ◦ 自分の考えた職業の将来の見通しについて考える。 ◦ 自分の考えた職業につくための条件について調べる。 <p>3. まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 自分にあう職業を考え、その職業について上で詳しく調べたが、中学2年生として、今しておかなければならないことは何かを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 自分の能力・適性からどういう職業が向いているのかしっかりと考えさせたい。 ◦ 仕事の内容を知ることによりどういふことに努力していけば良いのか気づかせる。 ◦ その職業につくことが簡単にできるかどうか、人気職業かどうか考えさせる。 ◦ 資格、免許が必要であるのかどうか、あるいは特定のコースを通らないとその職業につけないのかなどを調べさせる。 ◦ 学習・体力・精神力等の面から、いろいろ多面的にとらえさせ目標達成のためこれからの計画を考えさせる。 	<p>進路学習 ノート</p> <p>プリント</p> <p>プリント</p> <p>進路学習 ノート</p>

第2学年3組 L.M.（復習バズ）指導案

指導者 新 土 香 代

1. 個を生かす集団

復習バズを通して、個の学習意欲を高め、共に教えあい学びあう仲間作りに励む。

2. 学級の実態

“中だるみの2年”といわれるように、確かに2年になると1年次のような前向きな姿勢が見られなくなる。本学級の生徒も同じで、学習・生活面にわたって無気力な生徒が目立ってきている。毎日の学習において、黒板の文字を丸写しするだけが仕事という生徒や、本・ノートばかりか筆記用具ですら準備できない生徒もあり、学級全体の学習ムードが今一つ盛り上がらない。

学習意欲が無い、学習方法がわからない、学習目標（将来への希望）が甘いといった共通点を持つ低学力の生徒を抱えながら、班長たちは四苦八苦している状態である。夏休みにリーダー研修会に参加し、班長たちは班活動のルールを守ってがんばっているが、まだまだ十分に小集団、学級集団を運営していくことができない。

3. 取りくみの概要

1学期に定期テストにむけて、予想問題を作成し、取りくんだところ、比較的前向きな姿勢でがんばった生徒が多く、その効果もあったように思われる。

そこで2学期は定期テストの前だけでなく、毎日の授業の中から、積み上げておくべき基本の学習事項をプリントにまとめ、復習バズで取り組むことにした。そうすることによって、個の学習意欲を高め、学習習慣の定着を図ってきた。

4. 活動の過程

生徒の活動	教師の援助と指導	活動形態
<ul style="list-style-type: none"> ◦今日の復習バズの目的とやり方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・班長作成のテスト予想問題を配布する。 ◦司会者の指示に従って、すばやく班にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦LMの司会者が、全体にしっかり指示するように配慮する。 	一斉 (司会者)
<ul style="list-style-type: none"> ◦班長が指示をして、プリントバズに取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習のルールに従ってプリントをやっていく。 ・班で解答がでないところはおいておいてもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦班長がまず最初に指示を与えているかどうか、また班長の指示に従って班員たちが活動しているかどうかを机間巡視する。 	班 (班長)
<ul style="list-style-type: none"> ◦問題に取りくめてしまった班は机をもとにもどす。 <ul style="list-style-type: none"> ・早く終わった班は、違う問題に個人学習でとりくむ。 ◦司会者の指示に従って、解答する。 ◦今日の復習バズについて反省する。 <ul style="list-style-type: none"> ・個人で反省カードに記入する。 ・班長は班全体の反省をまとめて発表する。 ◦EMの司会者により、黙想をし、EMに入る。 <ul style="list-style-type: none"> ・生活ノートに黙書 ・各係からの連絡 ・日番の交代 ・教師からの連絡と助言 	<ul style="list-style-type: none"> ◦早く終わった班が、他の班の迷惑にならぬよう留意する。 ◦静かに解答を聞くように配慮する。 ◦司会者の声の大きさに留意する。 ◦各自が反省カードにきちんと記入しているかどうか留意する。 ◦しっかり生活ノートに記入できているかを確認する。 ◦復習バズの態度について講評する。 	一斉 (司会者)

英語科学習指導案

指導者 中尾久幸

1. 学年 第2学年

2. 単元 Lesson 6 Akio goes to school in San Francisco

3. 目標

(1) 認知目標

- ① S + V + I O + D Oの文型を理解し、この文型を用いて、日常の事象や自己を表現させる。
- ② 必要を表すhave to, has toの用法を理解させ、この用法を用いて自己を表現させる。
- ③ Do you have to, do not have toの用法を理解し、この用法を用いて質問、応答の両方がスムーズにでき、会話が可能になるようにし、自己を表現させる。
- ④ 日本とアメリカとの学校生活の類似点、相違点に気づかせ、アメリカの中学校生活について理解を深め、日本の中学校生活を説明できるようになる基礎を身につけさせる。

(2) 態度目標

- ① 学習課題に対して仲間と共に積極的に取り組む態度を養う。
- ② 英語で自己表現ができる喜び、楽しみを味わわせ英語学習への意欲を育てる。

4. 下位目標

- ① 「～に(人)…を(物)」の文型を理解させる。
- ② have to, has toの言い方を習得し、仲間と共に会話ができるようにさせる。
- ③ Do you have to, do not have toの表現を使って互いに質疑応答ができるようにさせる。
- ④ How do you like…?とその答え方ができるようにさせる。

5. 学習計画 (6時間)

時	学 習 態 度	生徒、教師の活動	評 価	時間
1	○学習計画を見通す。	○学習計画を説明する。	机間巡視	20分
	○プリテスト	○プリテストをする。		30分

2	<ul style="list-style-type: none"> ◦ S + V + I O + D O の文型に関する問題 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 教科書 (P 32) の目標文も参考にさせる。 ◦ 練習問題をする。 	机間巡視	10分
	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 新出単語 ◦ 本文〔 1 〕 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 小黒板を使って暗記させる。 ◦ 班学習で内容理解をしたのち班でまとめて発表する。 	机間巡視 発 表	15分 10分 15分
3	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 必要を表す have to, has to の用法に関する問題 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 教科書 (P 33) の目標文も参考にさせる。 ◦ 班で have to, has to を使ってお互いに文型練習をする。 	机間巡視	10分
	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 新出単語 ◦ 本文〔 2 〕 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 小黒板を使って覚えさせる。 ◦ 班になって理解したのち、班で発表する。 	発 表	15分 10分 15分
4	<ul style="list-style-type: none"> ◦ Do you have to, do not have to の用法に関する問題 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 教科書 (P 34) の目標文も参考にさせる。 		10分
	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 新出単語 ◦ 本文〔 3 〕 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 班ごとに質問→応答形式で競争する。 ◦ 小黒板を使って暗記に近づける。 ◦ グループになって学習したのち、班でまとめて発表する。 	机間巡視 発 表 発 表	15分 10分 15分
5	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 教科書練習問題 (P 35) 、ワークブック P 42. P 43. P 44. P 45. P 46. P 47 の問題 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ Lesson 6 の総復習をする。 ◦ 班内で解答させる。 	机間巡視 補充説明	50分
6	<ul style="list-style-type: none"> ◦ ポストテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ ポストテストをする。 	机間巡視	30分
	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 学習事項を使って自己表現 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 個人→班で発表させる。 	解 答 発 表	20分

プリテスト

Class :

Name :

A. ()内の語句を正しい順序に並びかえよ。

1. I am going to (bicycle, him, show, my)

2. Paul is going to (some, give, tapes, me)

3. Please (your town, us, something, about, tell)

4. Miss Lemay (teaches, French, them)

B. 次の()内にhave toかhas toのどちらかを入れよ。

1. You () () study English.

2. Mr. Smith () () wash the car now.

3. I () () get up early every morning.

4. Akiko () () make lunch for her father.

C. 次の文を疑問文にかえ、[]内の語を使って答えよ。

1. You have to do your homework this evening. [No]

2. Mike has to go to bed at ten. [Yes]

D. 次の()内にdon't have toかdoesn't have toのどちらかを入れよ。

1. We () () () go to school on Sunday.

2. He () () () stay in New York for a year.

第2学年4組 英語科学習指導案……第3時

指導者 中尾久幸

1. 題材 Lesson 6 Akio goes to school in San Francisco

2. 本時の目標

- 必要を表すhave to, has toの用法を理解し、この言い方を用いて自己を表現することができる。
- 英語で簡単な自己紹介ができる。
- 学習課題に仲間と共に意欲をもって取り組む態度を養い、英語で表現できる喜び、楽しみを味わう。

3. 指導過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価	時 間
◦ 前次の復習。			5分
◦ 本時の目標を確認する。	◦ haveとhasを想起させる。		5分
課題……have to, has toを使って文を言いなさい。			
◦ 教師の繰り返す文を聞く。 ・ 個人思考	◦ have toとhas toの発音に注意させる。 ◦ 日常生活でよく使う表現を言えるようにさせる。	発 表 机間巡視	10分
◦ 班で練習する。	◦ 班活動を活発に行うようにさせる。		
◦ Reading Model reading Individual reading Chorus reading	◦ new wordsのアクセントや文のイントネーションに注意させる。 ◦ 大きな声で読ませる。		10分
課題……本文の内容を考えなさい。			
◦ 班で話し合いながらまとめる。	◦ 重要な文、語句にアンダーラインを引かせ、考えさせる。 ◦ 班ごとに発表させる。	机間巡視 発 表	10分
課題……英語で自己紹介をしよう。			
◦ 英語で自己紹介をする。	◦ 前に出て大きな声で発表させる。 ◦ ノートを見ないで暗記してきた文を言わせる。	発 表	7分
◦ 次時の予告を聞く。	◦ パート〔3〕の予習をさせる。		3分

技術・家庭科学習指導案

指導者 山岡義則

1. 学年 第2学年

2. 単元 折りたたみ腰掛の製作

3. 目標

(1) 認知目標

- ① 木製品の設計と製作を通して、荷重と材料及び構造との関係について理解させる。
- ② 木工具と木工機械の使用法及びそれらによる加工法を理解させる。
- ③ 木材の接合方法の特徴について理解させる。

(2) 態度目標

- ① 木材加工の基礎的な技術の習得を一層深めるよう意欲を高める。
- ② 荷重に対する構造の強さを考慮させ、適切な材料や機械、工具を選び、製作品をまとめる能力を伸ばす。

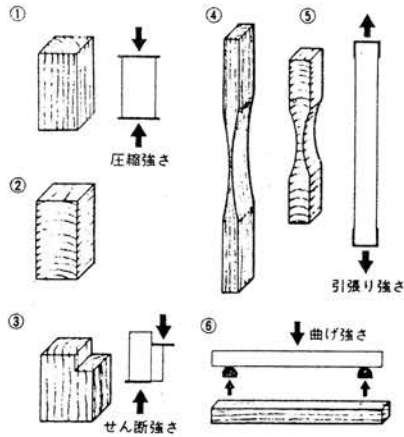
4. 学習計画 (18時間)

時	学 習 課 題	生徒、教師の活動	評 価	時間
1	◦学習計画を見通す。 ◦プリテスト	◦学習計画を説明する。 ◦プリテストをする。	机間巡視	20分 30分
2	◦作業中におこりやすい事故とその 防ぎ方について考える。 ・一般的なころえ ・機械使用上のころえ	◦各自で考えたのち班でまとめて発表 ◦各自のノートに安全留意事項をまとめる。	発 表 机間巡視	20分 30分
3.4	◦木取りとは、どのような寸法で かいて切断するか考える。 ◦切りしろ、けずりしろを考えてき	◦教科書(P16)も参考にさせる。 ◦けがき作業をする。	発 表 机間巡視	

	める。	◦材料を切断する。		
5.6	◦脚とぬきのけがきには、どんな工具を、どのように使えばよいか。	◦部品図と教科書（P44）を見て班でまとめて発表 ◦工具名と用途をノートにまとめる ◦脚部のけがきをする。	発 表	
7 ・ 8 ・ 9	◦ほぞ穴のつくり方を理解する。 ◦のみと角のみ盤を使うやり方がある。	◦教科書（45・46）を参考にする。 ◦角のみ盤による穴あけを示範する。 ◦ほぞ穴づくりをする。	発 表 机間巡視	
10 ・ 11 ・ 12	◦ほぞづくりの留意事項とほぞづくりのしかたを知る。 ◦両刀のこぎりと胴つきのこぎりのちがいを知る。	◦ほぞ穴の寸法をはかり部品図どううりか点検する。 ◦班でまとめて発表 ◦ほぞづくりをする。	発 表 机間巡視	
13 ・ 14 ・ 15	◦穴の加工法を知る。 ◦部品検査をする。 ◦仮組み立てをしながら修正する。	◦教科書（P92）を参考にする。 ◦穴の加工をする。 ◦班で協力しあう。	発 表 机間巡視	
16 ・ 17 ・ 18	◦組み立て ◦塗装（ニス）	◦班で協力し合う	机間巡視	

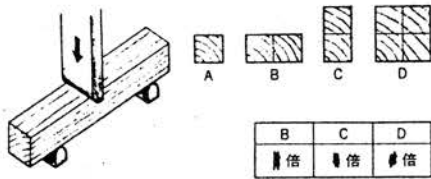
プリテスト

問題1. 図を見て次の問いに答えなさい。



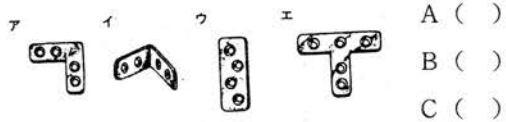
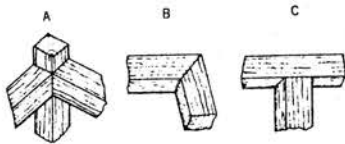
- (1) 試験体①～⑥にそれぞれ矢印のような荷重をかけた時、木材の強さが最も強いのはどれか。また、最も弱いのはどれか。番号で答えよ。
最も強いもの () 最も弱いもの ()
- (2) 圧縮強さと引張り強さにおいて、荷重を繊維方向と平行、垂直な方向から矢印のようにかけるとどちらが強い。強いほうに○印をつけよ。
() 平行な方向 () 垂直な方向

問題2. 図を見て次の問いに答えなさい。



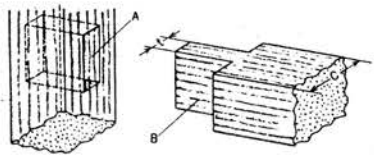
断面積の同じ角材では、荷重の方向に長い断面をもつ角材のほうが短い断面のものより強いといわれています。図Aの強さを1とすると、図B～Dはそれぞれ何倍の強さになりますか。ただし使われた木材の材質はどれも同じものとしします。

問題3. 下図のA～Cの接合部を補強するには、ア～エのどの補強金具を使うとよいですか。答は記号でかきなさい。



A ()
B ()
C ()

問題4. 机や腰掛けなどの接合部に用いられる図のようなつぎ手について、次の問いに答えなさい。



- ① 厚さtはどのくらいの幅があるとよいか。ア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。
ア. $\frac{1}{2}C$ イ. $\frac{1}{3}C$ ウ. $\frac{1}{4}C$ エ. $\frac{1}{5}C$ ()
- ② AとBではどちらを先に仕上げるのがよいですか。AまたはBで答えなさい。 ()
- ③ AとBの組みあわせによる接合法の名称をかきなさい。 ()

第2学年5・6組 技術科学習指導案……第10時

指導者 山岡 義則

1. 題材 折りたたみ腰かけの製作

2. 本時の目標

- ほぞづくりのしかたを理解させる。
- ほぞづくりが部品図どおりにできたかどうか、測定して検査する必要性を理解させる。

3. 指導過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価	時 間
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 前時の復習 ほぞ穴の寸法をはかり、点検する。 ◦ 本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 設計図の寸法より大きいときは、ほぞのけがき線の修正をさせる。 ◦ 接合部の製作で注意しなければいけないことを想起させる。 	机間巡視	10分
課題……ほぞづくりはどのようにするのだろうか。			
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 班ごとに教科書P48・32図を参考にほぞをつくらせる。 ◦ ほぞをつくった結果を班ごとに発表する。 バズ→発表→全体討議 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 教科書をよく読んで製作しているか確認する。 ◦ 失敗例があればその原因について考えさせる。 	机間巡視 相互評価 発表	10分 10分
課題……ほぞづくりでは、最初に縦びきを、次に横びきをするのはなぜか。			
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 班で話し合う。 ◦ ほぞづくりをする。 ◦ 次時の予告を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ ほぞの加工不良例と修正のしかたを資料により示す。 	発表	10分 2分

技術・家庭科学学習指導案

指導者 綾部佳子

1. 学年 第2学年

2. 単元 スモックの本縫い

3. 目標

(1) 認知目標

① 目的に応じた縫い方を理解し、基礎的な技術を身につけさせる。

(2) 態度目標

① 創意・工夫する能力を高め、衣生活を豊かにおくれるようにさせる。

② 裁縫用具を適切に取り扱わせる。

4. 下位目標

① 本縫いの手順を理解させる。

② ミシンの返し縫い、二度縫い、三つ折り縫い、端ミシンなど認識させる。

③ ポケットつけのしかた及び力布の働きを理解させる。

④ 肩あわせのしかた及び縫い代の始末のしかたを理解させる。

⑤ そで口のしまつのしかたを理解させる。

⑥ みかえしによるえりのしまつのしかたを理解させる。

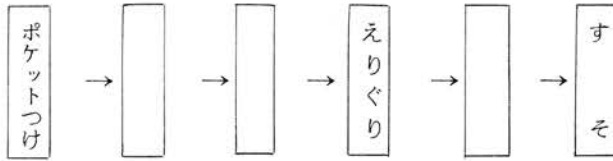
⑦ わき縫い・すそのしまつのしかたを理解させる。

5. 学習計画 (15時間)

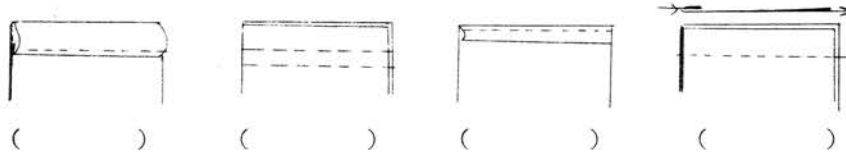
時	学 習 課 題	生徒教師の活動	評 価
1	<ul style="list-style-type: none"> ◦学習計画 ◦プリテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ◦学習計画を説明する。 ◦プリテストをする。 	机間巡視
2・3	<ul style="list-style-type: none"> ◦ポケットを丈夫につけるには、どうすればよいか。 ① どこに一番力がかかるか。 ② どんな縫い方をしたらよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ポケット口の両端を丈夫にするには ① 力布をつける。 ② ポケット口は、三角にミシン縫いをする。 	発 表 自己評価 教師 "
4・5	<ul style="list-style-type: none"> ◦肩あわせの仕方及び二度縫いの仕方を理解しよう。 ① 前後身頃の布合せ 	<ul style="list-style-type: none"> ① 中表に合わせる。 ② 両端が1・2番、その間が3・番 	①～③ 机間巡視

	<ul style="list-style-type: none"> ② まち針の打ち方 ③ しつけのかけ方 ④ ミシンのかけ方 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ しるしより1~2mmはずして ⑥ しるしどおりと、しるしより0.5~1cm上の2本縫う。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑦ 自己評価教師 "
6・7	<ul style="list-style-type: none"> ○そで口の三つ折り縫いをする。 （三角巾のまわりの始末と同じだが、曲線になっているので、考えてしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○しつけを省略して、アイロンで三つ折りする。 ○曲線部分に注意して、ミシン縫いをする。 	機間巡視
8・9	<ul style="list-style-type: none"> ○見返しによるえりのしまつの仕方は、どのような順序でしていけばよいか。 ノートにまとめよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑧ 前後見返しを、はぐ。(見本・示範など) ⑨ 端ミシンをかける。 ⑩ 身頃と見返しを中表に合わせ、まち針、しつけ、ミシン縫いをする。 	発表
10・11		<ul style="list-style-type: none"> ⑪ 角の切り込みを入れる。 ⑫ 見返しをひかえて、アイロンかけ。 ⑬ えりぐりのまわりを、ミシンステッチ ⑭ えりぐりの角、中心を、まつり縫い。 	ノート点検 自己評価教師 "
12・13	<ul style="list-style-type: none"> ○わき縫い及び縫い代の始末の仕方は、どうすればよいか。 ⑮ ピンキングをするのはなぜか。 ⑯ どの位置にピンキングをすればよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑰ 二度縫い ⑱ ピンキング (示範してみせる) ○たち目のほころびを防ぐためなので、なるべく、布の端を切ることに。 ⑲ 縫い代は前身頃に折る。 	機間巡視
14・15	<ul style="list-style-type: none"> ○すそを、きれいに仕上げるには、どうすればよいか。 ⑳ 何縫いがよいか。 ㉑ 何cm折ればよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ㉒ 三つ折り縫い ㉓ 4cmの縫い代があるので、はじめ1cm、次に3cm折るとよい。 ○感想をかく。 	試着自己評価教師評価

① 次の □ にことばを入れて、スモックの本縫いの手順を完成させなさい。

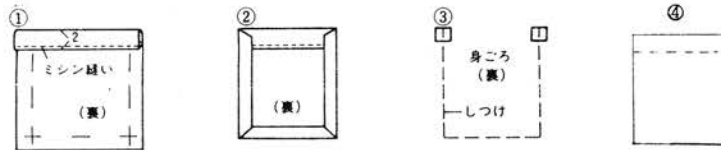


② 次のミシンの縫い方の名称を下のことばから選び () に書きなさい。



返し縫い 二度縫い 三つ折り縫い 端ミシン

③ 下の図は、ポケットつけの手順である。次の問いに答えなさい。

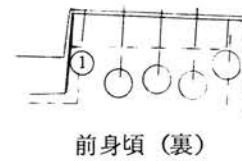
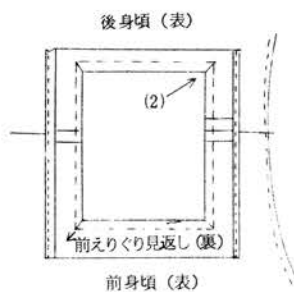


- (1) ③の四角の布を何というか。また、何のためにつけるのか。
 (2) ④として、表から縫うミシンの縫い目をかきなさい。

布名
理由

④ 肩あわせのまち針のうち方は、2枚の布のつりあいがよくとれるようにうつ。その順序を図の○の中に、数字で記入しなさい。

⑤ えりぐりのしまつについて、次の問いの () に適当なことばを入れなさい。



- (1) 身頃とえりぐり見返しの布は、() にあわす。
 (2) えりぐり見返しの4つのすみは、布が() に、切り込みを入れる。

第2学年5・6組女子 技術・家庭科学習指導案・・・第9時

指導者 綾部佳子

1. 題材 スモックのえりぐり

2. 本時の目標

- 見返しによるえりぐりの始末ができる。
- 見返し布のあわせ方がわかる。

3. 指導過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価	時 間
◦ 学習用具の点検と整備			5分
◦ 本時の目標を確認する。	◦ 出来上り見本を見せて、見返し布の位置を確認させる。		5分
課題・見返し布をつける場合、身頃のどの面に、どのようにつけばよいか。			
◦ 製作手引きを参考に考える。	◦ 出来上りでは、身頃の裏に付いているが、縫う場合は、表（中表）につけて、縫ってから裏に返せばよいことに気付かせる。	発 表	
課題・・・見返し布を、正確につけるには、待ち針をどのようにうてばよいか。			
◦ どこに、待ち針をうてばよいか。 ◦ 班で話し合いながら実習する。 ◦ 見本とくらべる。	◦ ①布を中表にあわしているか。②肩と四隅に待ち針をうっているか。③待ち針のうち方が正しいか。相互に点検	机間巡視 発 表 相互点検	15分
課題・・・ミシン縫いのしやすいしつけは、どうすればよいか。			
◦ 本時の学習のまとめ ◦ 個人進度をノートに記録する。	◦ 生徒作品を見せながら、①見返し布のあわせ方 ②待ち針のうち方 ③しつけの仕方を確認させる。	机間巡視 自己評価	17分 5分 3分

第2学年7組 道徳（同和）学習指導案

指導者 白 髪 至 保

1. 主 題 命の大切さを知る（ああ飛騨が見える）

2. 趣 旨

- 普段「死」ということをあまり自分たちの問題として真剣に受け止めることが少ないなかで、「死」を通して命の大切さを知り、そして当時の経済の二重構造のため社会の犠牲になっていた者がいたことを知るのに適した教材である。
- 本学級の生徒は、とてもおとなしく自分の意見を人前で発表するのを恥しがる傾向がある。しかし、班にすればまとめて発表をするのでバズ学習を積極的に取り入れるようにしている。クラスの問題を全体で考える態度が、日和見主義的であるので、真剣に問題意識を持つように高めて行きたい。
- 「死」という抽象的なことを考えるのに、わかりやすく身近な問題と結びつけ、命がどんなに大切であるか関心を持って考えることができるようにしたい。
尚、当時の日本のおよそ、まだ社会科で学習していないので、詳しく説明する必要がある。

3. 目 標

- 人は誰でも幸せに生きる権利があり、命の大切さを表現させる。
- 日本が殖産興業の政策を打ち出し、実施し発展していくなかで、人命を犠牲にしたり軽視されてきた事実を知り、人権を擁護する考え方を身につけさせる。

4. 指導計画

- 第1時 「ああ飛騨が見える」を読んだ感想
第2時 日本の当時のようすを学習する
第3時 みねの死の意味を考える 本時分
第4時 命の大切さを知る（総まとめ）

5. 本時のねらい

日本の当時のようすを通して、みねの死の持つ意味を考え、犠牲になっていたことを知らせ理解させる。

6. 資料と準備

「友 だ ち」

7. 指導過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>1. 導 入</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 前時の学習を思い出す。 ◦ 本時のねらいを確認する。 <p>2. 展 開</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ みねの死について考える。 (ア) みねを背負って走り回った辰次郎は、心の中では何を思っていたかを考える。 (イ) みねが「兄さ、何も言ってくれるな」と言った時、みねの本当の気持ちはどうだったかを考える。 (ウ) 「ああ、飛騨が見える」と言って死んだみねの心境はどんなものだったかを考える。 ◦ 3の(ア)～(ウ)について班学習をする。(バズ・セッション) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>個人の考えを班内で述べる。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>班内で討議する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>班の考えをまとめてノートに書く。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 班のまとめを発表する。 <p>3. まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 次時の予告を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 課題で前時のまとめをしているので、ノートを見ながら思い出させる。 ◦ 工場の冷たい態度が生命軽視につながっていることを理解させる。 ◦ 「人命の尊さく利潤・生産」の考えがあったことを十分に理解させる。 ◦ 本当に喜んで死んでいったのだろうかという同情的な考えだけでなく、みねの心情をくみとらせる。 ◦ 班長と学習係を中心に活動するように指示する。 ◦ 机間巡視して助言を加える。 ◦ 製糸工女には被差別部落の人たちは、なれなかったことをおさえる。 ◦ 「ああ飛騨が見える」を通して、学習したことを話し合わせるように準備させる。 (総まとめ)

第2学年8組 L.M.(生活バズ) 指導案

指導者 松田 順

1. 個を生かす集団

生活バズを通して、共に自己実現のできる生活基盤の育成をはかり、学習の基盤となる学級集団を育成する。

2. 学級の実態

本学級の生徒は、1年より生活ノートによって基本的生活・学習習慣の点検をおこなっているが、自己点検による方法が甘くなってきている傾向にある。本学級ではその解消のため、班内で相互点検することによって、自己点検をより厳しくさせようとしているが、班の雰囲気・リーダーの資質によってかなり差異が見られる。

集団としての取り組みは、学校行事等特別な行事がある時を除けば、平素の生活面ではやや弱く、積極的にリーダーシップをとれる生徒が少ない。そのため、学級で問題が起こっても、担任に依存することが多く、ともすれば無関心になりがちである。

生活バズの形式には慣れつつあるが、班内の係活動が充分でなく、深まりに欠け、そのため、集団になじめず孤立したり、反集团的行動をとったりする生徒を生じさせている。

3. 取り組みの概要

学期初めの班長会議で、学力面・性格面で偏りがないように班編成し、班長のリーダー養成も行った。

生活点検を基にした生活バズを通して、話し方・聞き方・協力して行う作業の方法・話し合い方等を習熟させる一方、望ましい集団としての生活基盤の育成を図ってきたが、さらに係活動を活発にすることによって、生徒個々が集団での自己をはっきり自覚させ、積極的に学級集団づくりに参加できるようにさせたい。

4. 活動の過程

生徒の活動	教師の援助と指導	活動形態
<ul style="list-style-type: none"> ◦黙書 <ul style="list-style-type: none"> ・生活ノートによって個人で反省する。(日報の内容について) 	<ul style="list-style-type: none"> ・静かに今日一日が反省できるように配慮する。 	一 斉
<ul style="list-style-type: none"> ◦一日の生活を班で反省する <ul style="list-style-type: none"> ・相互点検をし、班日誌に記入する。 ・班の反省をまとめ、明日の目標とともに発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班長がしっかり司会ができているか、班の話し合いの輪から出ているものはないか机間巡視する。 ・他の班の意見がしっかり聞けているか留意する。 	班
<ul style="list-style-type: none"> ◦今週一週間の反省をする <ul style="list-style-type: none"> ・達成できなかった目標、できた目標について、班で反省する。 ・班で話し合ったことを発表する。 ・各班から出た内容について、各係から提案・助言をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・バズ (学習) ・風紀 ・整美 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合う時、発表する時、聞く時など、バズの約束が守れているか留意し、守れていない場合は中止して再確認させる。 ・各係から適切な助言がない場合は、問題点として、班討議させる。 	一 斉 → (班)
<ul style="list-style-type: none"> ◦各係からの連絡を聞く 必要に応じて生活ノートにメモする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活ノートに記入できているか、机間巡視する。 	一 斉
<ul style="list-style-type: none"> ◦日番の引き継ぎと教師からの助言 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の生活バズの態度について講評する。 	一 斉

第3学年1組 L・M・(生活バズ) 指導案

指導者 森 高 省 治

1. 個を生かす集団

一人一人の努力が、集団の前進と響きあい、支えあう、学級集団の育成をめざす。

2. 学級の実態

本学級には、極端に学力の劣る生徒7名、『いじめ』の対象になりがちな生徒A、学校の規律に素直に従えないことの多い生徒6名がいる。反面、集団と共に高まっていこうという呼び掛けに、目を輝かせる生徒も多く、現在、生徒会長と生徒会総務をクラスから派遣している。現委員長を初め、班長の『やる気』も旺盛である。

問題を持つ生徒も、クラスの活動には背をむけない。進路決定を前にして、夢と現実の自分の学力の認識の差に、ややもすると自己放棄的な行動が出はじめている状態であるが、集団の高まりの中で、一人一人を学級の運動の中に、しっかり組みこんでいきたい。

3. 取り組みの概要

学級が組織された当初に、『班員の涙』は班長の問題であることを1番に指導した。球技大会のクラス練習時にA子に対する『いじめ』が起こった時も、すぐ班長会、緊急の学級会をもつことができた。中心的な加害者であったBは、現在A子と同じ班で、笑いながら話し合えるようになった。

夏休みに、自由参加の『学習道場』をクラスとして実施した。そこに参加する中で、遅刻と規則違反の異常に多かったCは、2学期になって、10月4日現在、遅刻と違反0である。

誕生日をクラスで祝い、個人の活躍を学級通信でたたえてきた。今、1番クラスに背を向けているDも、1学期の弁論大会では、クラスのはげましを得て、学級代表として、自分の弱さもさらけだした弁論を堂々と学年全員の前で述べた。

しかし、多くの生徒は、自己の成長を望みつつも、グループのメンツもあり、誘惑も多く、個々としてはあまりにも弱い。個と学級は、今までも、さまざまなドラマを日々描きつつここまで歩んできた。

進路決定を目前にした今、一人でも多くの生徒を、全員の少しでも多くの心をクラスの動きのなかに組み込み、クラス目標の『仲間』として支えていきたい。

4. 活動の過程

生徒の活動	教師の援助と指導	活動形態
<ul style="list-style-type: none"> ◦黙想 ◦前週の結果発表と表彰（委員長） ◦前週のビリ班の班会の結果報告 	華やかに演出する。	一 斉
<ul style="list-style-type: none"> ◦班討議 <ul style="list-style-type: none"> ・ビリ班の反省は良いか ・前週の結果についての意見 ・自分の班の結果について 	他の班への批判が必要であれば、それをうながす。	班
<ul style="list-style-type: none"> ◦クラス討議 <ul style="list-style-type: none"> ・ビリ班の反省を認めるか ・前週の結果について 	クラスの前進を確認するよう導く	一 斉
<ul style="list-style-type: none"> ◦班討議 - 今週の取り組みについて <ul style="list-style-type: none"> ・ベル着について ・忘れ物について ・私語、学習態度について 	学習係会議が必要であるか考えさせる。	班
<ul style="list-style-type: none"> ◦クラス討議 <ul style="list-style-type: none"> ・ベル着の対策 ・私語、学習態度について ・忘れ物対策 	ビリ班の奮起をうながす	
<ul style="list-style-type: none"> ◦学習道場の報告を聞く （問題があれば班討議） 	前進面を強調するよう指示する。	一 斉
<ul style="list-style-type: none"> ◦先生の評価を聞く （必要ならば班会議） 	クラスの歩みを確認する。	

3年1組 学習取り組み案

(提案 班長会と先生)

〔はじめに〕

この提案は、体育大会を終わり、10月3日に『今の3年1組の状態について』みんなに生活ノートに書いてもらったものをまとめ、班長会で話しあい、クラスに提案するものです。

〔3年1組の今の状態〕

- (1) 行事が続いて、クラスは協力して良くなった面は多いが、落ち着いて学習することができていない。
- (2) 忘れ物、宿題忘れが多い。
- (3) 私語が多い。
- (4) まったく学習に参加しない人がいる時がある。
- (5) ベル着が守れていない。
- (6) 教科の係の仕事がきちりできていない。
- (7) 清掃が協力してできていない。
- (8) みんなが勉強していることが一人一人をはげますような雰囲気が薄い。

〔取り組み案〕

- (1) ベル着に取り組む

チャイムが鳴り終わるまでに教科の係が2名前にでて、10から逆に大きな声で数える。遅れた人はマイナス点とする。公的な用事の場合は教科班に申しでを。出るのが遅い等の教科班の失敗は『-5』とする。

一日の結果は、LM、EM前に合計して、日番が点検表に記入する。全員ベル着のできた班は『プラス3』として計算する。

これを守る為、1組の入口に『チャイムで授業を終わってください』のカードをはる。

6日間の取り組みで、ビリ班になった班は、班会を持ち、結果をクラスに報告する。

この取り組みは、班長会が終了してもよいと判断し、クラスで決定した時に終了する。

- (2) 忘れ物、宿題忘れに取り組む

教科の係が点検する。『今から点検します』から『これで点検を終わります』までの私

語もマイナスとする。点検がきちんとできる為である。

この取り組みの終了は(1)と同じである。

(3) 清掃に取り組む

『時間内、分担区』を厳守する。守れなかった班の整美は報告し、本人は反省発言をする。

(4) 『3の1学習道場』を実施する

毎日4時30分までとする。入口に看板を出す。曜日担当者を定める。

(5) 私語、勉強しない人に取り組む

毎週土曜日MM後、学習係会をして取り組む。

.....

- この案は10月4日学級会で可決した。

- 修正案が出て、変更した箇所

- ・(3) 追加修正

- 『何度も守れずにいる人は、放課後残って清掃をする』

- 『整美の点検でペケだった班は放課後やりなおす』

- ・(5) 修正

- 『毎週土曜日MM後』 —— 『必要な時に』

国語科学習指導案

指導者 尾田悦子

1. 学年 第3学年

2. 単元 詩を味わう (落葉松 わたしを束ねないで)

3. 目標

(1) 認知目標

- ① 初発の感想をもとに、より深く、創造的に味わせる。
- ② 主題や作者の心情がどのように表現されているか把握させる。
- ③ 詩の表現技法とその効果を理解させる。

(2) 態度目標

- ① 詩のもつ、それぞれの味わいを生かした朗読を工夫しようとする態度を養う。
- ② 詩の中の表現を豊かに、創造的にイメージ化しようとする態度を養う。
- ③ 人生に対する自分の思いを表現する態度を育てる。
- ④ 発表や朗読を通して、お互いの考えを出し合い、学び合おうとする態度を高める。

4. 学習計画 (5時間)

時	学習課題	生徒・教師の活動	評価	時間
1	<ul style="list-style-type: none"> ◦音読 ◦プリテスト 	◦範読	机間巡視	10
		◦各自で微音読を繰り返す。		10
		◦班で音読——指名読み		30
2	<ul style="list-style-type: none"> ◦感じたことを発表しよう ◦学習計画 ◦表現のしかたとその効果について気づいたことをあげてみよう。 	◦感想を発表する(個→班→全体)	発表	15
		◦学習計画を見通す。		5
		◦文語定型詩、五七調、反復、対句、押韻、リズムなどを確認	発表	15
		◦ひとりさすらう作者の姿、気持ちを		15

	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 作者の気持ちが最もよく表れているのはどこか。 ◦ 作者の人生への思いとは何だろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 想像する。 ◦ 表現に即して考えさせる。 ◦ 作者の人生観をノートにまとめる。 		10
				5
3	<ul style="list-style-type: none"> ◦ (わたしを束ねないで)の詩を読んで連想する言葉をあげよう。 ◦ 表現について気づいたことは何だろう。 ◦ 作者はどんな生き方を願っているのだろう。 ◦ この詩の表現にならって「今、自分が願う生き方」をテーマに詩を創ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 簡単な言葉で表現 (個——全体) ◦ 各連の「～ないで」の表現を確認 ◦ 比喩表現をおさえ、どんな状況を表現したものかまとめる。 ◦ 作者が拒む生き方と、望む生き方を対比させる。 ◦ 「～ないで」の書き出しで詩をつくる。 ◦ ～には、単純な願いではなく、自分の思い描く人生への展望をもった言葉を入れる。 	発表	10
			発表	10
				15
			机間巡視	10
				5
4	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 創った詩を朗読しよう。(班——全体) ◦ 朗読 暗誦へ ◦ ポストテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 真剣に人生について考えたものであるかを評価の観点とする。 ◦ 情景を思い浮かべながら、作者の心情と一体となった朗読を工夫する。 ◦ ポストテストに取り組む 	相互評価	25
			発表	10
			発表	15

プリテスト

三年 組 氏名 (

。落葉松（北原白秋）を読んで、次のことを考えよう。

一、この詩を何度も読んで、感じたことを書きなさい。

二、表現のしかたとその効果について、気づいたことをあげてみよう。

三、作者の気持ちが最もよく表れているのはどこでしょう。書き出しなさい。

四、作者の人生への思いとは何でしょう。

。わたしを束ねないで（新川和江）を読んで、次のことを考えよう。

一、この詩を読んで、どんな言葉を連想しますか。

二、表現について、気づいたことは何でしょう。

三、作者は、どんな生き方を願っているのでしょうか。（作者が拒む生き方、望む生き方とは何でしょう。）

四、今、自分が願う生き方をテーマに詩を創ろう。

第3学年2組 国語科学習指導案・・・第3時

指導者 尾田悦子

1. 題材 詩「わたしを束ねないで」(新川和江)

2. 本時の目標

- 初発の感想をもとに、詩を深く味わせる。
- 表現にこめられた作者の心情を把握させる。
- お互いの考えを出し合い、学び合おうとする態度を養う。

3. 指導過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価	時 間
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 前時の復習——音読 ◦ 本時の目標を確認する。—音読 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 文語定型詩に慣れさせる。 ◦ 口語自由詩であることを確認させる。 	発 表	5分 5分
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">課題・・・よく読んで、詩から連想する言葉をあげてみよう。</div>			
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 音読を繰り返し、浮かんでる言葉を書き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ わかりやすい連から考えさせる。 ◦ 短い言葉で表現させる。 		5分
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">課題・・・表現について、気づいたことをあげてみよう。</div>			
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 表現技法をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 比喻表現を中心に、自由に、豊かに想像させる。 	発 表	15分
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">課題・・・作者はどんな生き方を願っているのだろう。</div>			
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 作者が拒む生き方と望む生き方とを対比する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 作者の人生に対する思いをとらえさせる。 	発 表	10分
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">課題・・・‘自分が願う生き方’をテーマに詩を創ろう。</div>			
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 詩を創る。 ◦ 次時の予告（創作詩の発表） 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ ‘～ないで’の書き出しで、思いをこめた表現をさせる。 	机間巡視	10分

保健体育科学習指導案

指導者 吉川善広

1. 学年 第3学年

2. 単元 陸上競技（走り幅とび）

3. 目標

(1) 認知目標

- ① 自己の跳躍力を最高度に高めるために、技能の程度に応じた到達目標をもたせ、練習や競技を行い、技能・体力の向上を計らせる。
- ② 自己の跳躍力を知り、目標をもって互いに協力して計画的に練習を行う必要性を理解させる。
- ③ 正しく競技ができるように計測の仕方やルールを理解させる。

(2) 態度目標

- ① 積極的に練習に取り組み、より高い目標に到達する強い意志をもたせる。
- ② 他の人のよい点、悪い点を指摘しあい、ともに伸びようとする意欲を高める。
- ③ 砂場や周囲の状況を常に気をつけながら、安全に競技、練習する態度を身につけさせる。

4. 学習計画（5時間）

時	学習課題	生徒・教師の活動	評価	時間
1	◦オリエンテーションと グルーピング ◦プリテスト (記録を測る)	◦一流選手の写真を見て走り幅とびの特徴を知り、イメージを描く。 ◦跳躍の時には、砂場の安全に気を配って行うことを理解させる。 ◦自分の跳躍力を知り、今後の目標をたてる。 ◦正式計測と実測のちがいを知る。		20分

2	◦踏み切り練習	◦短助走で、地面を強くたたきつけ、高く跳び上がることに力点をおく。	相互評価	30分
	◦助走の練習	◦跳び箱用の踏み切り板を使って「かけ上がる」感じをつかませる。 ◦踏み切り3～4歩手前でスピードが最高になる助走を心がける。		20分
3	◦空間フォームの練習	◦踏み切り板をつかって高く上がり、フォームをつくる。	◦フォームの美しさを評価 自己評価	30分
	◦そり跳び・はさみ跳びを理解する。	◦そり跳び・はさみ跳びの特徴を知り、自分に合った跳び方で練習する。 ◦全助走による走り幅跳びを行う。 (助走は15～18歩が適当)		20分
4	◦着地の練習	◦短助走から前時学習の空間姿勢を生かした着地をさせる。助走距離を伸ばしていく。	相互評価	30分
	◦仕上げ練習	◦幅20cmの踏み切り板に足を合わせよう心がけ、思いきった跳躍をさせる。		20分
5	◦記録会を行う	◦グループで役割を分担し、正式計測で計測する。 ◦各グループ毎に順位をつける。	◦1時間目の記録と記録会のものとの伸びを評価する。	50分

第3学年3・4組 男子保健体育科指導案・・・第3時

指導者 吉川善広

1. 題材 走り幅跳び

2. 本時の目標

- 準備運動をスムーズに効果的に行わせる。
- そり跳び、はさみ跳びの特徴を理解させる。
- 自分に合った跳び方の空間フォームを工夫させる。
- 自分の助走距離をつかませる。

4. 指導過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価	時 間
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 準備体操 <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとの徒手体操 ・ジョギング ・補強運動 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 下肢を中心とした運動を多くし、か るく汗がにじむ程度に、身体をあ たためる。 ◦ グループごとに協力して行わせる。 	相互評価	10分
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 前時の復習 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ とび箱用踏み切り板をつかって強く 踏み切らせ、高くとび上がる感じを つかませる。 <div style="margin-left: 40px;"> <ul style="list-style-type: none"> （足裏全体でたたきつけさせる 目 は 前 上 方 を 向 け さ せ る 振 り 上 げ 足 を 高 く 引 き 上 げ さ せ る </div>		10分
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 空間フォームをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 特徴を説明し、たやすく入れるそり 跳びを練習する。 ◦ 踏み切り板をつかって、よりよいフ ォームをつくらせる。 	相互評価	25分
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 全助走による走り幅とびを行 なう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 目標の目じるしを多く置き、各自の 目標を決めさせる。 		
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 整理体操 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 心身の緊張をやわらげるため、ゆっ くり大きく行わせる。 		5分

体育科学習指導案

指導者 児 林 富 代

1. 学 年 第3学年女子

2. 単 元 器械運動（マット運動）

3. 目 標

(1) 認知目標

- ① 動きの中でのスムーズな回転の仕方や、タイミングをつかみ前転、後転、開脚前転、伸しつ後転、倒立前転が連続してできる技を身につけさせる。
- ② より美しく高度な技を目指し互いに協力して計画的に練習をさせる。

(2) 態度目標

- ① 各種目の要点をしっかりとつかみ、悪いところを指摘しあい、互いに向上するようくり返し練習できる態度を培う。
- ② 自己の健康、安全（つめ、びんなど）と、マットやその周囲に注意し練習する態度を身につけさせる。
- ③ 自己の役割を理解し、助け合って（補助者は責任をもつ）練習態度を養う。

4. 学習計画 （5時間）

時	学 習 課 題	生 徒 ・ 教 師 の 活 動	評 価	時 間
1	◦プリテスト 前転、後転	◦昨年おぼえた種目をどれだけ自分のものとしてつかめているか互いにきびしく評価する。	相互評価	30分
2	◦伸膝前転	◦ひざに力を入れ身体を前屈すると同時に手は床をつきはなす。 ◦マットで前転から伸膝前転へタイミングをあわせて行なう。	相互評価	30分

3	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 伸膝後転 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 後転をしながらひざをまげないようにし、できるだけ頭の近くに足先を持って来ると同時に手をしっかり伸ばし顔は前を向く。 	相互評価	30分
4	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 倒立前転 ◦ 1人で倒立前転をしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 腹、足先に力を入れて静かに後頭部をマットにつけ背中をまるくして前転をするが立ち上がるまで腹のを抜かない。補助2名つき足をもつ。 ◦ 地面をけるとすぐ足の指に力を入れてけたた勢いをとめ足がそろったところで頭を入れさらに腹に力を入れて前転し立ち上がる。 	相互評価 相互評価	30分
5	<ul style="list-style-type: none"> ◦ ポストテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 3種目を連続してやる。 ◦ それぞれの種目のポイントをおさえているかグループで注意しあう。 	相互評価	50分

第3学年3・4組 女子体育学習指導案・・・第2時

指導者 児 林 富 代

1. 題 材 マット運動「伸膝前転」

2. 本時の目標

- スムーズな回転の仕方や、タイミングをつかみ、伸膝前転ができるようにさせる。
- 要点をしっかりつかみ、悪い点を指摘し合って、互いに向上する態度を養う。

3. 指導過程

学 習 課 題	生 徒 ・ 教 師 の 活 動	評 価	時 間
◦ 準備運動	◦ 出来るかぎり大きく関節を動かす。	◦ 手・ひじについて相互評価	
課題・・・伸膝前転の練習をしよう。			
◦ 伸膝で腰を浮かす要点の説明をする。	◦ しっかりひざを伸ばしてそろえ、ひざの横に手をつく。その時同時に前屈し腰を浮かせる。		5分
◦ タイミングを知る。	◦ 背面倒立より行なう。両足をそろえしっかり伸ばし勢いよくおろしかがとが床につくと同時に手は突きはなし前屈する。		10分
◦ マットで前転から行なう。	◦ 前転からタイミングよくおき上がる、ひざはしっかり伸ばす。	◦ タイミングがマッチしていない人は指摘しあう	15分
◦ グループ全員出来るよう取り組む。	◦ 出来ない人への助言と補助、踏切板も利用する。		
◦ 助走ととび込み前転でさらにスピードをつける。	◦ とび込み前転の要領を知り、助走を加えてさらにスピードをつけ、おき上がる時の前屈を助け手を突きはなす。	◦ 要点をつかみ美しく仕上げているか相互評価 班で反省	10分
◦ 整理運動とあと片づけ	◦ 各部分をよく動かす、深呼吸で体調をととのえる。		

数 学 科 学 習 指 導 案

朝 山 照 美

1. 学 年 第 3 学 年

2. 単 元 関 数 と グ ラ フ

3. 目 標

(1) 認 知 目 標

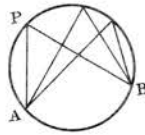
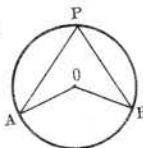
① 円の性質について理解させ、図形を論理的に考察する能力をのばす。

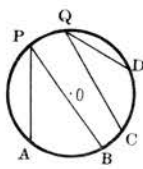
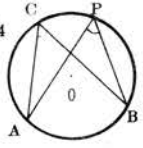
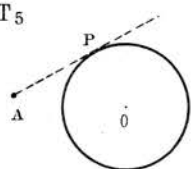
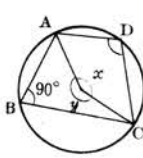
(2) 態 度 目 標

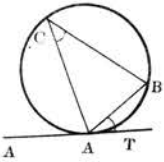
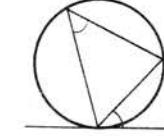
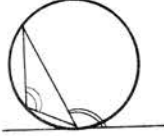
① 計算領域で興味をなくしていた生徒にも、図形では、班内で助け合わせ、基本的内容を理解させていく。

② みずから積極的に問題にとり組む姿勢を身につけさせる。

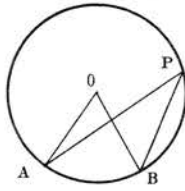
4. 学 習 計 画 (1 1 時 間)

時	学 習 課 題	生 徒 ・ 教 師 の 活 動	評 価	時 間
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ プリテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○ プリテストをする。 ○ 答え合わせをする。(補足説明) ○ 学習計画及び導入を説明する。 	机間巡視	20分 30分
2	<p>T₁ 円Oのきまった弧ABがある。ABをのぞいた円周上に点Pをとって∠APBをつくる。Pの位置をいろいろ変えて∠APBの大きさを測ってみよう。</p>  <p>T₂  円周角は中心角の半分になることを説明せよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ T₁に各自取り組む。 ○ 班でバズ ○ 発表・まとめ ○ 補足説明をする。 <ul style="list-style-type: none"> ○ T₂に各自取り組む。 ○ 班でバズ ○ 発表・まとめ、補足説明 ○ 練習問題をとく。 	発 表	5分 5分 5分 5分 5分 15分

3	<p>T_3</p>  <p>1つの円で等しい弧に対する円周角は等しいことをたしかめよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ T_3に各自取り組む。 ◦ 班でバズ・発表・まとめる。 ◦ 補足説明をする。 ◦ 問題をといていく。 ◦ 答え合わせをする。 	<p>机間巡視</p> <p>発表</p>	<p>5分</p> <p>5分</p> <p>5分</p> <p>25分</p> <p>10分</p>
4	<p>T_4</p>  <p>円Oで点Pが弧ACBと同じ側にあつて $\angle APB = \angle ACB$ ならば点PはACBの上にあることをたしかめよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ T_4に各自取り組む。 ◦ 班でバズ・発表・まとめる。 ◦ 補足。 ◦ 問題をといていく。 ◦ 答え合わせする。 	<p>机間巡視</p> <p>発表</p>	<p>5分</p> <p>5分</p> <p>30分</p> <p>10分</p>
5	<p>T_5</p>  <p>円の外の点Aからその円に接線をひく方法を考えよ。</p> <p>小テスト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ T_5に各自取り組む。 ◦ 班でバズ・発表・まとめる。 ◦ 補足説明する。 ◦ 問題をといていく。 ◦ 答え合わせする。 <p>◦ 小テストに各自と取り組む。</p>	<p>机間巡視</p> <p>発表</p>	<p>5分</p> <p>5分</p> <p>5分</p> <p>15分</p> <p>20分</p>
6	<p>T_6</p>  <p>四角形が円に内接するとき $\angle x$、$\angle y$、$\angle D$ を求めよ。</p> <p>T_7 円に内接する四角形の向かいあう内角の和は 180° であることを証明せよ。</p> <p>T_8 円に内接する四角形の1つの内角はその向かいあう内角の外角に等しいことを証明せよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ T_6に各自取り組む。 ◦ 班でバズ・発表・まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ T_7、T_8に各自取り組む。 ◦ 班でバズ・発表・まとめる。 ◦ 補足説明する。 ◦ 問題をとく。 ◦ 答え合わせする。 	<p>机間巡視</p> <p>発表</p> <p>机間巡視</p> <p>発表</p>	<p>5分</p> <p>5分</p> <p>10分</p> <p>10分</p> <p>5分</p> <p>15分</p>

7	<p>T₉ 四角形の向かいあう角の和が180°のとき四角形が円に内接することを証明せよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ T₉ に各自取り組む。 ◦ 班でバズ・発表・まとめる。 ◦ 補足説明する。 ◦ 問題をといていく。 ◦ 答を合わせる。 	<p>机間巡視 発表</p>	<p>5分 5分 5分 25分 10分</p>
8	<p>T₁₀ 円の接線 A T と弦 A B とのつくる角と、弦 A B に対する円周角の大きさをはかって、比べてみよう。</p>  <p>T₁₁ 円の弦とそ の一端から ひいた接線 とのつくる 角は、その 角内にある 弧に対する 円周角に等 しいことを証明せよ。</p>  	<ul style="list-style-type: none"> ◦ T₁₀ に各自取り組む。 ◦ 班でバズ・発表・まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ T₁₁ に各自取り組む。 ◦ 班でバズ・発表・まとめる。 ◦ 補足説明する。 ◦ 問題をといていく。 ◦ 答を合わせる。 	<p>机間巡視 発表</p> <p>机間巡視 発表</p>	<p>5分 5分</p> <p>5分 5分 10分 15分 5分</p>
9		<ul style="list-style-type: none"> ◦ 問題を各自といていく。 ◦ 答え合わせをする。 ◦ 説明をする。(ヒント) 	<p>机間巡視</p>	
10	<p>ポストテスト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ ポストテストに各自取り組む。 ◦ 答え合わせをする。 ◦ 問題をといていく。 ◦ 答え合わせをする。 	<p>ポストテ スト 机間巡視</p>	<p>10分 10分 30分</p>
11	<p>テスト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ テストに各自取り組む。 ◦ 答え合わせする。 ◦ 問題をとく。 ◦ 答を合わせる。 	<p>テ ス ト</p>	<p>30分 10分 10分</p>

1.

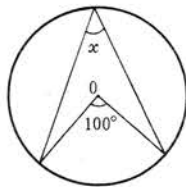


左の図で、弧の両端A, Bと中心Oを結んだ角(中心角 $\angle AOB$)と円周上の点Pとを結んだ角($\angle APB$, 円周角)の大きさを求めよ。

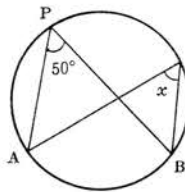
$$\angle AOB = \angle APB \times \square \text{ 倍}$$

2. 次の角 x の大きさを求めよ。

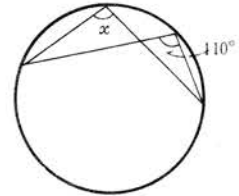
(1)



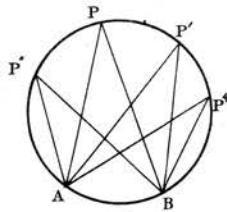
(2)



(3)

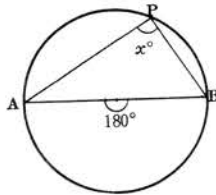


3.



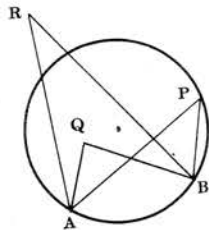
左の図で同じ弧に対する円周角 $\angle APB$ と $\angle AP'B$ とを比べると、 $\angle APB$ \square $\angle AP'B$
 ↳ここに $>$, $=$, $<$ のどれかを入れよ。

4.



半円の弧ABに対する円周角 $\angle APB$ は \square° である。

5.

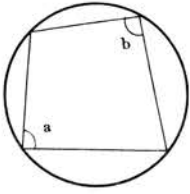


図のように、円の内側の点Q, 円周上の点P, 円の外側の点Rがあるとき、大きい順又は、小さい順に並らべると、

$$\angle AQB \square \angle APB \square \angle ARB$$

不等号 ($>$, $<$) のどちらかを入れよ。

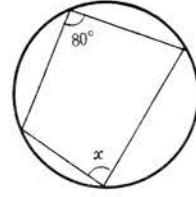
6.



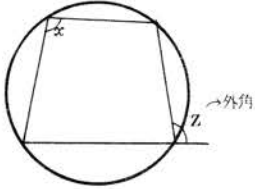
(1) 四角形が円に内接する（四すみが円の周上にある）とき、

$$\angle a + \angle b = \square^\circ$$

(2) 右の図の $\angle x$ の大きさを求めよ。



7.



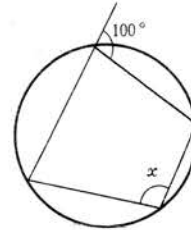
(1) 四角形が円に内接するとき、次の□をうめよ。

$$\angle x \square \angle z$$

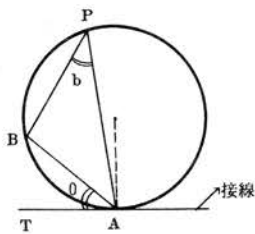
>, =, <のいずれ

れかを入れよ。

(2) 右の図の $\angle x$ の大きさを求めよ。



8.



(1) 左の図で $\angle a$ と $\angle b$ の大きさ（円の接線ATと弦ABとの作る角と弧ABに対する円周角）との間には、次の関係がある。

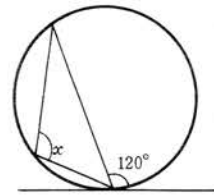
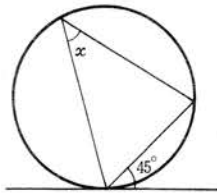
□をうめよ。

$$\angle BAT \square \angle APB$$

>, =, <のいずれか

を入れよ。

(2) 次の x の大きさを求めよ。



第3学年5組 数学科学習指導案・・・第6時分

指導者 朝山照美

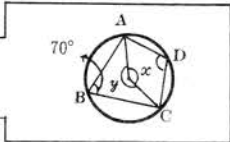
1. 題材 円周角

2. 本時の目標

- 円に内接することの意味を理解させ、円周角の利用という観点から、円に内接する四角形の性質を明らかにさせ、それらを用いることができるようにさせる。
- 全員が、分度器を使って角の大きさをはかり、班内で協力し、興味を持って学習に参加できるようにさせる。

3. 準備物 コンパス、定規、分度器

4. 指導過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価	時間
<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の内容を思い出す。 「円周角は中心角の半分である」 ○ 本時の目標を確認する。 ○ 学習課題を考える。(プリント) 	<p>図にかいて想起させ、忘れていた生徒にも再度、説明しポイントを把握させる。</p> <p>図を使って視覚的に理解させ、導入する。</p>	発表	5分
<p>T6 四角形のA B C Dが円に内接するとき $\angle x$, $\angle y$, $\angle D$を求めよ。</p> <p>個人思考→班でバズ→発表</p>		机間巡視	10分
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習課題を考える。(プリント) <p>T7 円に内接する四角形の向かいあう内角の和は180°である。 T8 円に内接する四角形の1つの内角はその向かいあう内角の外角に等しい。</p> <p>個人思考→班でバズ→発表 →全体討議</p> <p>学習課題が済んだ班は、各自、教科書P.102□をとき、問題集もといていく。</p>	<p>全体討議が不十分な時は補足説明をする。</p> <p>特に必要な問題はヒントを与える。</p>	発表 机間巡視	28分
<ul style="list-style-type: none"> ○ 評価テストをする。 ○ 次時の内容を聞く。 	<p>評価テストは、できるだけ基本的な内容を入れておき、満足感の持てるように工夫する。</p>	テスト	5分 2分

第3学年6組 学級指導案

指導者 才田 覚

1. 主 題 進路相談

2. 趣 旨

- 3年生として進路の決定が迫られる時期を迎え、自分自身を見つめ直し、進路選択上の自分の内外の諸条件を再確認し、深く検討して、より具体的な進路計画を設定するため、この題材は大切である。
- 本学級の生徒は、大半が高校進学希望であるが、自分の進路について先を見とおした進路設計をしている生徒は少ない。従って、ともすると進学にしても自分の意志よりも周囲の状況に流されやすい者も中にはいる。
- 生徒自身で調べて考える自主的な学習を通して、正しい職業観を身につけ、将来の生活を自ら切り開き、よりよく適応するための能力や心構え、態度を育てたい。

3. 目 標

総合的な自己理解と進路に対する具体的な心構えを養い、更に将来に適応していく態度を身につけさせる。

4. 指導計画 (1時間)

第1時 進路相談 …………… (本時分)

5. 本時のねらい

- 自分の適性に合った職業を考え、その目標達成のための手順を研究し、その前提に立って受験校を設定させる。
- 目標達成のために、どういうことが必要で、そのために今、何をすべきかを考え、目標への意欲と積極的な態度を養う。

6. 準 備

進路学習ノート・進路計画表 (プリント)・OHP

7. 指導過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考
<p>1. 導 入</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 進路選択のための諸条件には、どんなことがあるか発表する。 <p>2. 展 開</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 「10年後の僕・わたし」（作文）を聞く。 ◦ 自分達の希望職業に就くためのステップを2・3の班の代表が発表する。 <ul style="list-style-type: none"> （ <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校の学科 ・ 大学の学部 ・ 専門学校… ◦ 専門学校について発表する。 ◦ 班ごとにそれぞれの適性を生かした進路希望を発表する。 また不安、悩みについてもふれる。 ◦ 家族の意見を発表する。 ◦ 公立高校と私立高校との違いについて考える。 <p>3. ま と め</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 進路学習ノートを整理する。 ◦ 目標に向かって、今、勉強の他に何を具体的にすべきか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 特に適性を生かすことが大切であることを確認させる。 ◦ それぞれの10年後を想起させながら、聞かせる。 ◦ OHPの使用により、発表させる。 ◦ 就職までのコースを考えるとともに、できれば、必要な資格や、取得難易度も調べさせておく。 ◦ 自分達の進路計画表とも比較させる。 ◦ 高校・大学と違い、専門学校の内容については、わからないことが多いようなので、しっかり確認させる。 ◦ クラスメートとして、適性であるかどうかを考えさせる。 ◦ 家族と本人の希望との間に差異のある生徒に注意する。 ◦ 特に、私立高校のすぐれた点を見つめさせるよう配慮する。 ◦ 各自の適性・能力・家庭状況など考えて、自分の意志を明確にできるよう注意する。 ◦ 希望する上級学校や職業などについてよく調査し、よく知ること、家族・先生・先輩などの意見を聞くことなども大いに参考になることを確認させる。 	<p>O. H. P</p> <p>進路計画表</p> <p>進路学習ノート</p>

第3学年7組 LM（復習バズ）指導案

指導者 賀川 栄

1. 個を生かす集団

自分たちの進むべき道を、はっきり見定め、目標に向かって切磋琢磨していく学級を育成する。

2. 学校の実態

2学期になり、班長たちが積極的に動き出した。M・M、E・Mは、担任がいなくとも運営できるし、授業始めの教科系の活動も、ほぼ定着しつつある。体育大会の実行委員、学級旗の製作委員を募った時も、たくさんの申し出があった。又、放課後、自主的に、トラック競技出場の生徒たちも、練習をしていたようだ。このように、自分のため・友だちのため・クラスのために行動できる生徒がふえた反面、依然として、いろいろなクラスとしての取りくみに協力できない、まとまりをみだす生徒、ポーズだけで、真剣さがない生徒がいる。しかし、清掃をなまけない・授業に遅れない・私語をしない・生活ノートを提出することは努力しているし、班行動になれば、班員として活動の場が与えられるので、参加している。

学習活動においても、家庭で1・2年の復習を始めている生徒と、様々な理由でただただと貴重な時を過ごしている生徒との差が目立ってきている。

3. 取り組みの概要

“楽しく、きびしく、自己を磨きあげていく環境は、クラス全員の協力で、創っていくものである。”ということを見せ、実行に移せる生徒を、ひとりでも多くふやすことを目標としている。基本的な生活習慣を守る気持ちがない生徒をそのままにしておかない。“クラスの一員として、これだけは。”という、責任を果せる。多くの行事を通じて、友だちの輪ができてきた今、学習活動にもその輪を広げていく。

復習バズの時間を、未解決の問題を教えあったり、勉強の方法・内容について情報交換をしたり、将来の進路についての不安や悩みを相談したりする場として活用して、ひとりひとりが持っている本来の力を、充分発揮できるよう指導していきたい。

4. 活動の過程

生徒の活動	教師の援助と指導	活動形態
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 黙想をする。 ◦ 今日の復習バズの目的と内容を確認する。 ◦ 班長が指示をして、バズにとりくむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・問題に目を通す。 ・学習のルールに従ってやっていく。 ・まず、自分で考える。わからないところをそのままにしておかない。 ◦ 班長を中心にして解答をする。誤答を直し、その原因をさがし、正しい内容を確認する。 ◦ 全員がやれた班は、さらに類題や、発表問題へと進む。 ◦ 班長が復習バズの反省と、報告をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・班で、解決できなかった問題を発表する。 ◦ 家庭学習の予定をたてる。 ◦ 復習バズのまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が黙想できるまで徹底させる。 ・司会者の指示が、的確か、配慮する。 ・班長が的確な指示をし、班員たちが私語をせず、真剣に活動できているか、机間巡視する。 ・わからないでいる班員をほっておいたり、いいかげんな進め方をしている班がないか、配慮する。 ・単なる答あわせに終わっていないか、配慮する。 ・時間を有効に使い、自主的にとりくむよう指導する。 ・その場限りの反省に終らせず、家庭学習へと発展させていくよう指導する。 ・未解決の問題も発表させる。他の班からの助言が得られるよう指導する。 ・友だちの方法も参考にして、今日の家庭学習の予定をたてさせ、生活ノートに記入させる。報告は、翌日、ノートを提出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・司会者 一 斉 ・班 長 班 ・司会者
<ul style="list-style-type: none"> ◦ E・Mを始める。 		<ul style="list-style-type: none"> 班

理 科 学 習 指 導 案

指導者 黒 田 哲 郎

1. 学 年 第3学年

2. 単 元 「運動と仕事」そのうちの「電流と仕事」

3. 目 標

(1) 認知目標

- ① 電流によって磁界が生じることを理解させる。
- ② 電流によって仕事をすることができることを理解させる。
- ③ 力学的な仕事をすることによって、電流がとり出せることを理解する。

(2) 態度目標

- ① 実験方法をよく理解させ、協力・分担して進める態度を身につけさせる。
- ② 個人思考からグループ思考へと、意見・考えを討議する中で話し合う態度を身につけさせる。
- ③ まとめの中で自分が学習したポイントは何かを理解させ、ノート等にまとめさせる。

4. 下位目標

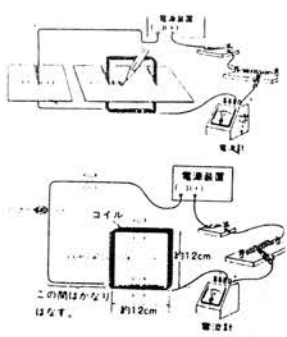
- ① 磁界の中で電流を流したアルミニウムパイプが動くことを導入として、電流の周りの磁界を調べ、磁界・磁力線の学習・導線やコイルの周りにできる磁界の規則性を学ばせる。
- ② 磁界の中でコイルや導線に電流を流すと、力を受ける事実・磁界の向き・電流の向き、力の向きの規則性を理解させる。
- ③ 電流が磁界から力を受けて動かされることから、これを継続的に回転させ仕事をさせる装置に電動機があることを知り、そのしくみを理解させる。
- ④ コイルに棒磁石を出し入れする実験から、磁界で導線を動かすと誘導電流が流れる事実と、磁界、力、誘導電流の向きと大きさの関係を理解させる。

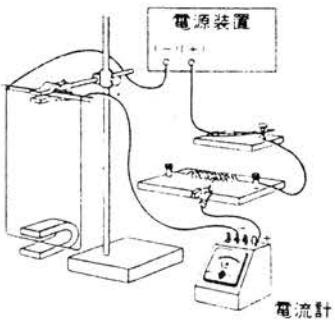
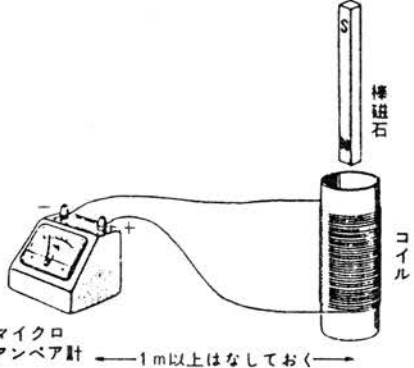
5. 学習課題

- (1) プリテスト・演示実験を通し、この単元で何を学習するかを理解し、永久磁石の磁石の磁界を知る。

- (2) 導線やコイルに電流を流したら、まわりにどんな磁界ができるかを知る。
- (3) 実験 5 の結果をもとに電流による磁界の規則性を理解する。
- (4) 磁界の向き・電流の向き・力の向きの規則性を知り導線が磁界から受ける力を説明する。
- (5) 磁界と導線とで電流が受ける力を利用した電動機の回る原理を知る。
- (6) 誘導電流の生じることを理解し、誘導電流の向きや大きさについて出し入れする磁石の磁極や速さとの関係を理解する。
- (7) まとめをする。

6. 学習計画 (7時間)

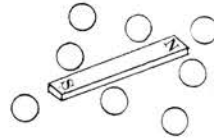
時次	学習課題	生徒・教師の活動	評価	時間
第1次 1	<ul style="list-style-type: none"> ◦ プリテスト ◦ 演示実験 ◦ 導入実験 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ プリテストに取り組む。 ◦ 演示実験をし、単元の流れについて説明 ◦ 導入実験  <ul style="list-style-type: none"> ◦ 永久磁石と磁界、磁針の指す向きを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ プリテスト ◦ 発表 	15分 5分
		<ul style="list-style-type: none"> ◦ 結果とまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 発表 	5分
2	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 実験 5 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 目標確認 ◦ 実験 5  <ul style="list-style-type: none"> ◦ 結果とまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 机間巡視 ◦ 発表 	5分 35分 10分
		<ul style="list-style-type: none"> ◦ 結果とまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 発表 	10分
3	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 発表 ◦ 話し合い ◦ 説明 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 各グループの結果を発表 ◦ 違いなどを話し合う。 ◦ まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 発表 ◦ レポート 	30分 20分

第2次	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 疑問 ◦ 実験 6 ◦ 実験結果とまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 磁界の向き、電流の向き、力の向きの規則性について  <ul style="list-style-type: none"> ◦ 結果とまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ レポート 	<ul style="list-style-type: none"> 5分 25分 20分
第3次	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 疑問 ◦ 話し合い ◦ 発表 ◦ 説明 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 磁界と導線とで電流が受ける力を利用し、継続的に仕事をさせる方法。 ◦ 電動機の原理はどうなっているか。 ◦ 説明 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 発表 	<ul style="list-style-type: none"> 10分 30分 10分
第4次	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 疑問 ◦ 復習 (実験 6) ◦ 実験 7 ◦ 結果とまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 誘導電流  <ul style="list-style-type: none"> ◦ 結果とまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 机間巡視 ◦ 発表 	<ul style="list-style-type: none"> 5分 30分 15分
第5次	<ul style="list-style-type: none"> ◦ まとめ ◦ ポストテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ まとめ (レポート作成) ◦ ポストテストに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ レポート ◦ ポストテスト 	<ul style="list-style-type: none"> 35分 15分

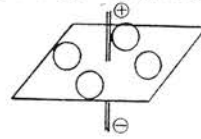
理科 電流と磁界 プリテスト

君達は、今の段階で、下の問題が、どれだけできるだろう。 試してみよう。

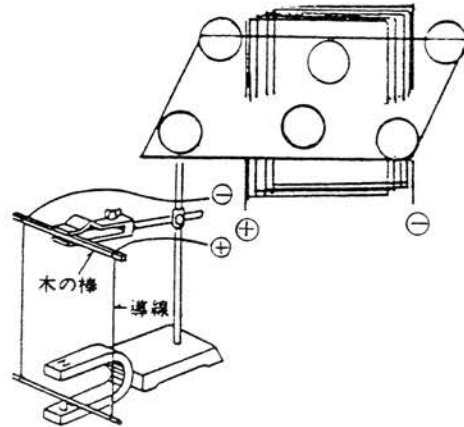
1. ① 磁石は引きあったり、しりぞけあったりする。このような力を何というか。
- ② ①の力の働く空間を何というか。
- ③ ②の空間の中に磁針を置いたとき、そのN極のさす向きを何というか。
- ④ 磁石の周りに、磁界の向きにそって線を書くと曲線が書ける。これを何というか。
- ⑤ 右図の棒磁石に、磁針の向きと磁力線を書きなさい。



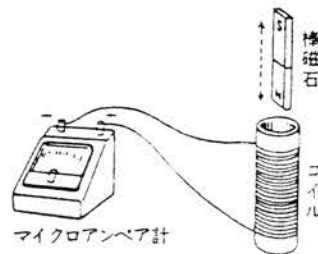
2. ① 導線に電流を流すと磁界を生じるか。
- ② 厚紙の上に鉄粉をまき、導線に電流を流すと、鉄粉はどのようになるだろうか。
- ③ ②の中の鉄粉の代わりに、磁針を置くとどうなるか磁針の向きと磁力線を記入しよう。
- ④ コイルに電流を流すと、磁針のふれる角度は導線1本のときにくらべてどうなるか。また磁界の強さはどうか。
- ⑤ コイルに電流を流したときの、磁針の向きと磁力線を記入しよう。



3. 右の図を見て、
- ① U字型磁石の中につるした導線は、どの方向に動くだろうか。
- ② このとき逆に動かすとすれば、U字型磁石または電流をどうすればよいだろうか。



4. 右の図を見て、
- ① コイルに磁石を出し入れすると、マイクロアンペア計の針はふれるか。電流は流れたか。
- ② コイルに磁石を入れた時と出す時とでは電流の向きはどうなるだろうか。また、磁石の向きを逆にした時はどうなるか。



理科 電流と磁界 ポストテスト

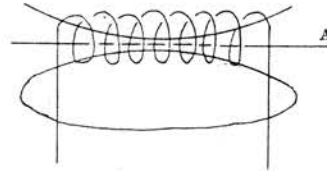
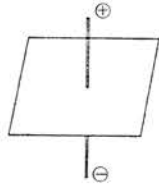
君達は、この単元を学習して、どれだけのことが理解できたろうか。

1. ① 磁石の引きあう力を () といい、この力の働く空間を磁界という。磁界の中に磁針を置いたとき、磁針の () 極のさす方向を磁界の向きという。
- ② 導線に電流を流すと、導線を中心に () 状の磁界ができる。

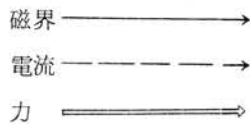
2. ① 磁界の中にある導線に電流を流すと、導線は () から力を受ける。このとき、電流や磁界の () を逆にすると受ける力も逆になる。
- ② 電動機は、() が磁界から () を受けることを利用したもので電流が () をする例である。

3. ① コイルの中で () を動かすと、マイクロアンペア計の針がふれる。つまり、() が流れたことがわかる。
- ② コイルの中で、() の強さが変化すると電圧が生じる。この現象を () といい、流れる電流を () という。

4. 図の中に磁界の向きを記入しなさい。また、Aの位置は何極になるか。

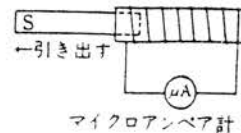


5. 磁界の中で電流がうける力を表わす関係の図を書きなさい。



6. 右の図と同じ向きの誘導電流が流れるものを、次から1つ選びなさい。

- ア. N極を近づける。
- イ. S極を入れたままにしておく。
- ウ. S極を近づける。



第3学年8組 理科学習指導案

指導者 黒田 哲郎

1. 題材 電流と仕事（実験5）

2. 本時の目標

- 導線やコイルに電流を流し、磁界が生じることと向きを理解させる。
- 導線やコイルからの距離を変えて、磁針のふれの大きさを理解させる。
- 磁針のふれの大きさより、導線やコイルの周囲に磁力線を記入しN・S極を理解させる。

3. 指導過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価	時 間
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 前時の復習 ◦ 本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 棒磁石による磁石について想起させる。（磁針の向き、磁力線の形や、矢印の約束などを確認する。） 		5分
課題1 導線やコイルのいろいろな部分に磁針を置き、そのふれる向きを調べる。			
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 実験5の装置を組み立て、電流を流しできるだけ多くの点で、磁針のふれる向きを調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 実験シートに記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 机間巡視 ◦ 発表 (OHP) 	15分
課題2 1つの箇所で、導線やコイルからの距離を変えて磁針を置いたときのふれの大きさを調べる。			
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 導線からの距離を、できるだけ多くとり、そのふれの大きさを調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 実験シートに記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 机間巡視 ◦ 発表 (OHP) 	5分
課題3 電流の向きを変えて、課題1と同じように磁界の向きを調べる。			
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 電流が逆になると、磁界の向きも逆になることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 電流のつなぎ方を逆にすると同時に、電流計も逆につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 机間巡視 	10分
課題4 課題1・2より磁力線を記入し、N・S極を知る。			
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 前時の復習と合せ考え、磁力線を引きN・S極を知る。 ◦ 本時のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 実験シートに記入させる。 ◦ 電流と磁界の向き、大きさを考えさせ、次時と関連させる。 ◦ 次時予告 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 発表 (OHP) 	15分